参考資料 4-2
2017.2.24

山部会における主なWG配布資料

目　次

１．山村再生担い手づくり事例集について 1

２．山村ミーティングについて 42

３．森づくりガイドラインについて 43

４．木づかいガイドラインについて 58

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集Ⅰ～Ⅲの活用と2016年度の活動について

'16.5.27　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【山村再生担い手づくり事例集Ⅰ～Ⅲの活用についての検討】
・事例集の活用と市民への普及について

・事例集の効果の検証について

【2016年度の活動について】
・事例集の趣旨の実現に向けて、どのような活動を行うか
「この事例集によって流域住民の中山間地振興に関する意識を啓発することを目指すとともに、その具体的な支援方法を示します。そしてゆくゆくは流域内全域でお金、人材、物がまわり、食・エネルギー・水・医療・教育・安心安全の自治が達成されることを目指します。」

・事例集交流イベントについて

・事例集のホームページ開設について

山村再生
担い手づくり事例集

～流域を元気にする仕掛け人たち～

洲崎 燈子

事例集のあらまし

先月（2016年3月）、「山村再生担い手づくり事例集Ⅲ」が刊行されました。作成したのは、2010年に国交省豊橋河川事務所が、民・学・官の連携・協働による流域圏全体の発展をめざして立ち上げた「矢作川流域圏懇談会」の山部会です。この懇談会は山、川、海の3部会で構成されており、山部会は流域の山の問題を「人と山村の問題」と「森林の問題」に分けて整理しました。このうち水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいるのが「人と山村の問題」です。この問題の解決をめざし、2013年度に、矢作川流域で中山間地の振興に携わる団体を取材し、その記録をまとめた事例集の作成を始めました。毎年、懇談会メンバーを中心とした20人強の取材者が2～3人のチームに分かれ、合計20以上の団体を取材し、1冊の冊子にまとめてきました。取材先にはまちなかでの活動を通じて中山間地の支援を行うグループも加えました。また2014年度以降は、川と海の活動団体も取材対象としました。

山村再生担い手づくり事例集 第1～3集

取材にあたって大切にしたこと

この事例集の取材方法は、2008年に環境省中部地方環境事務所が始めた、生物多様性保全活動団体への取材方法を受け継いでいます。その基本方針は「インターネットで拾える情報ではなく、現場に出向いてじっくり話を聞き、その成果を記録する」「取材先の自慢話だけではなく悩んでいる部分、いわば"光と影"を記録する」「話を聞く過程を大事にする」といったことです。物書きのプロではない取材者たちは取材先とやりとりを重ね、編集会議でお互いのレポートについて意見を出しあい、一生懸命最終稿をまとめました。その結果3年間で、心のこもった64篇の取材記録がまとまりました。

奥矢作森林塾（岐阜県恵那市）

first-hand（愛知県豊田市）

佐久島Oyaoya cafeもんべまるけ（愛知県西尾市）

新しい交流の芽吹き

取材を通じて、実にさまざまなことがわかりました。たとえば高齢者の皆さんが独創的かつパワフルな活動を展開している長野県根羽村、地域愛に裏付けられた活動が浸透している岐阜県恵那市、多数の若者がIターンし、きわめて多数の多様な活動が生まれている愛知県豊田市、長い林業の歴史に支えられている愛知県岡崎市といった地域特性です。また、取材を受けた方が翌年取材者として参加したり、懇談会のメンバーになったり、取材者と取材先が意気投合してコラボレーション企画が生まれたりといった、新しい交流も生まれました。川と海の関係者が取材者と取材先の双方に加わったことで、懇談会で課題となっている部会間の連携を強化することにもつながりました。

3冊の「山村再生担い手づくり事例集」には、持続可能で魅力的な流域づくりのヒントと、老若男女、多様な人びとの「人生をもっと幸せに生きるための言葉」が詰まっています。豊橋河川事務所のホームページで見られますので、ぜひご覧ください。

（すざき　とうこ、主任研究員）

楽しみながらいい地域と、いい川をつくろう

近藤 朗

「山村再生担い手づくり事例集調査」の母体となったのは、伊勢・三河湾「流域圏再生プロジェクト調査」で、これは、生物多様性条約締約国会議COP10(2010年)に向けた市民団体活動調査でした。この調査(2008～2010年度)では、想像以上に様々な繋がりが生まれました。特に今まで希薄だった愛知・岐阜・三重県間の交流が進み、後に3県連携による「22世紀の奈佐の浜プロジェクト(2012年～鳥羽市答志島海岸清掃)」その他へと発展していきました。

流域圏再生プロジェクト調査の系譜(2008～2015年度)

	実施時期	調査団体	内容・テーマなど
Ⅰ	2008～2010年度 伊勢・三河湾流域圏再生調査 (環境省委託、助成事業)	72団体	愛知・岐阜・三重／山・川・里・海 2009年度「営み」の視点を重要なテーマに 2010年度 揖斐・長良川流域での地域再生、山村担い手
Ⅱ	2011～2015年度(継続中) 22世紀の奈佐の浜プロジェクト (自主事業で流域圏調査継続)	50団体以上 (活動参加)	2011年度 愛知・岐阜・三重県追跡調査、各県連携会議 2012年度 奈佐の浜海岸清掃 スタート 2013年度 3県流域エクスカーション スタート
Ⅲ	2013～2015年度(継続中) 山村再生担い手づくり事例集調査 矢作川流域圏懇談会 山部会	64団体	2010年度 矢作川流域圏懇談会 開始 2013年度 山村再生担い手づくり事例集調査 スタート 2014年度～ 川、海も含めた調査に

事例集調査には3年通じて参加しましたが、今年度の調査では新たな伝説が生まれました。長くこの調査に関わっている私でも、これほど壮絶で抱腹絶倒な取材は経験したことがない！根羽村の幻の演芸集団「天下杉」との出会いです。

取材は丸一日に及び、売木村での慰問活動の見学から、取材と称する夜の宴会まで、圧倒され続けました。これほどのた打ち回って床を叩きながら笑ったのは、いつ以来か？「自分たちが楽しまなければ、人を喜ばせられない」という自信に満ちた言葉は、山村再生の重要なキーワードですね。平均年齢が75才を越えたという彼女たち、後日メンバーの一人が仕事として高齢者福祉施設で、自分より若い方の介護を元気にされているのを見た時に、担い手とは何かを十分に思い知らされました。

健全な流域圏をめざすにしろ、山村再生にしろ、重要なのは人が中心であること。持続可能な営み、自立による地域再生と、そこでの人材(担い手)育成が大きなテーマとなります。それは環境保全とも密接に繋がっています。しかしその認識、危機感は、実は都市と地域で大きなギャップがあります。都市住民の役割は、地方の危機感を真摯に受けとめ、支えていくことにあると感じています。

私が本業としている川づくりにおいても、「川と人との繋がりが損なわれたことにより、様々な問題が生じた。今こそ、川と地域の関係を再構築しなければならない」と提言(1999年、河川審議会)されて久しいです。その様な意味では、最近になって市民工事による「小さな自然再生」という取組みも始まっており、事例集に掲載された矢作川森林塾の河畔林整備や家下川周辺での水路再生工事(矢作川水族館など)も、その先駆者と言えます。

多自然川づくりも、今の課題はむしろ管理者の人材育成と継続的なシステムづくりへと移行しており、担い手づくりと地域再生は共通のテーマだとわかります。こちらも大事なのは、「自分たちが楽しまなければ、いい川はできない」ですね。

(こんどう　あきら、伊勢・三河湾再生交流会議)

22世紀の奈佐の浜プロジェクト

天下杉の皆さん

山村再生担い手づくり事例集Ⅰ～Ⅲの活用と2016年度の活動について

'16.6.17　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト】

・5/27の山部会WGで、事例集を取材先に届けた際の反応（「今後活用したい」等）や、事例集づくりで得られた情報をネットワーク化する意義についての発言があった。

・山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクトの提案

目的…事例集づくりでできた人間関係を維持し、得られた情報のネットワーク化を進め、取材者と取材先、流域圏懇談会相互の交流を促進する。

活動内容…取材者が山村再生担い手づくり事例集作成のために訪れた取材先を再訪し、取材後どんな変化があったか聞く。今年度は事例集第Ⅰの取材先を訪問対象とする。

取材先	取材者			
	執筆者			
1 根羽村森林組合	高橋伸夫	洲崎燈子		
2 ねば杉っ子餅	洲崎燈子			
3 根羽村猟友会	鈴木啓佑	高橋伸夫	洲崎燈子	安藤里恵
4 恵南森林組合	田中五月	蔵治光一郎	近藤　朗	安藤里恵
5 串原林業	田中五月	蔵治光一郎	近藤　朗	安藤里恵
6 NPO法人奥矢作森林塾	浜口美穂	眞木宏哉		
7 NPO法人福寿の里自然倶楽部	安藤里恵	近藤　朗	浜口美穂	
8 矢作川水系森林ボランティア協議会	蜂須賀功	後藤伸也		
9 とよた森林学校	長澤壮平	沖　章枝	松井賢子	
10 とよた森林学校OB会	長澤壮平	沖　章枝	松井賢子	
11 とよた都市農山村交流ネットワーク	長澤壮平	沖　章枝	松井賢子	
12 豊森なりわい塾	太田　司	丹羽健司		
13 株式会社 M-easy	浜口美穂	眞木宏哉		
14 旭木の駅プロジェクト	浜口美穂	眞木宏哉		
15 千年持続学校	太田　司	丹羽健司		
16 おむすび通貨 一般社団法人 物々交換局	長澤壮平	沖　章枝	松井賢子	
17 green　maman	蜂須賀功	後藤伸也		
18 農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功	後藤伸也		
19 NPO法人 中部猟踊会・三州マタギ屋	井上祥一郎	西原　均		
20 岡崎森林組合	井上祥一郎	西原　均		
21 おおだの森保護事業者会	井上祥一郎	西原　均		

取材者が事例集Ⅱ・Ⅲを持参して取材先を訪れ、取材後の変化について話を聞き、レポートにまとめる。レポートの形式は任意。

難しければ取材者が事例集Ⅱ・Ⅲを郵送し、電話で話を聞く。最低限、電話で話を聞くだけでもいい。いずれの場合もレポートを書く。

・訪問者は取材者でなくてもいいか？

レポート執筆料、交通費をどうするか？

【その他】
・各市町村の取材先に、その市町村で山部会 WG を開催する際に参加を呼びかける。
次回は根羽村　7/22～23

・事例集交流イベントについて

・事例集のホームページ開設について

資料　1

2016 年度 山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト

‘16.7.22　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【2016～18 年度の目標】

3 冊の「山村再生担い手づくり事例集」取材対象となった 64 団体は、取材後さまざまな形で進化している。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化をめざす。

【2016 年度の活動】

3 年間の全取材者・取材先を会員としたメーリングリストを開設する。2013 年度に山村再生担い手づくり事例集づくりのため訪問した 21 団体を再訪し、取材する。取材者は各取材先の担当者がメーリングリストで募る。取材時に事例集ⅡとⅢを持参して取材先に渡す。取材後はレポート作成を行い、レポート集を発行する。年度末に交流会を開催する。

【スケジュール案】

1) 取材者の確定（～8 月）
2) 取材（9～11 月）
3) 調査者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求（12 月～1 月）
4) 山村再生担い手づくり事例集交流会（2～3 月）

＊交通費等の計算・支払事務は豊田市の株式会社 M-easy 戸田友介代表が担当

【取材先と担当者】

取材先	担当者
1 根羽村森林組合	洲崎燈子
2 ねば杉っ子餅	洲崎燈子
3 根羽村猟友会	洲崎燈子
4 恵南森林組合	丹羽健司
5 串原林業	蔵治光一郎
6 NPO法人奥矢作森林塾	浜口美穂
7 NPO法人福寿の里自然倶楽部	浜口美穂
8 矢作川水系森林ボランティア協議会	蜂須賀功
9 とよた森林学校	沖　章枝
10 とよた森林学校OB会	沖　章枝
11 とよた都市農山村交流ネットワーク	沖　章枝
12 豊森なりわい塾	丹羽健司
13 株式会社 M-easy	浜口美穂
14 旭木の駅プロジェクト	浜口美穂
15 千年持続学校	丹羽健司
16 おむすび通貨 一般社団法人 物々交換局	沖　章枝
17 green　maman	蜂須賀功
18 農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功
19 NPO法人 中部猟踊会・三州マタギ屋	井上祥一郎
20 岡崎森林組合	井上祥一郎
21 おおだの森保護事業者会	井上祥一郎

【質問項目案】

・前回の取材後、どのような変化がありましたか？（活動内容、活動拠点、会員数、連携している団体など）

・前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

・山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください。

資料1

2016年度山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト

'16.9.16　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【2016～18年度の目標】

3冊の「山村再生担い手づくり事例集」取材対象となった64団体は、取材後さまざまな形で進化している。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化をめざす。

【2016年度の活動】

3年間の全取材者・取材先を会員としたメーリングリストを開設する。2013年度に山村再生担い手づくり事例集づくりのため訪問した21団体を再訪し、取材する。取材者は各取材先の担当者がメーリングリストで募る。取材時に事例集ⅡとⅢを持参して取材先に渡す。取材後はレポート作成を行い、レポート集を発行する。年度末に交流会を開催する。

【スケジュール】

1）取材者の確定、メーリングリストの立ち上げ（～8月）
2）取材（9～11月）
3）調査者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求（12月～1月）
4）山村再生担い手づくり事例集交流会（2～3月）
＊交通費等の計算・支払事務は豊田市の株式会社M-easy戸田友介代表、金子優子氏が担当

【取材先と担当者】

	取材先	担当者
1	根羽村森林組合	洲崎燈子
2	ねば杉っ子餅	洲崎燈子
3	根羽村猟友会	洲崎燈子
4	恵南森林組合	丹羽健司
5	串原林業	蔵治光一郎
6	NPO法人奥矢作森林塾	浜口美穂
7	NPO法人福寿の里自然倶楽部	浜口美穂
8	矢作川水系森林ボランティア協議会	蜂須賀功
9	とよた森林学校	沖　章枝
10	とよた森林学校OB会	沖　章枝
11	とよた都市農山村交流ネットワーク	沖　章枝
12	豊森なりわい塾	丹羽健司
13	株式会社 M-easy	浜口美穂
14	旭木の駅プロジェクト	浜口美穂
15	千年持続学校	丹羽健司
16	おむすび通貨 一般社団法人 物々交換局	沖　章枝
17	green　maman	蜂須賀功
18	農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功
19	NPO法人 中部猟踊会・三州マタギ屋	唐澤晋平
20	岡崎森林組合	唐澤晋平
21	おおだの森保護事業者会	唐澤晋平

＊取材団体のその後情報

根羽村森林組合
「仮設でない仮設住宅」を謳ったちいさな木の家、セルフビルド物置、足湯やブランコ、オセロなどの「どこでもシリーズ」、木のおもちゃなどアイディアが炸裂し、次から次へと魅力的な新製品が生まれています。

串原林業
「串原農林」になって、農業も手がけるようになりました。事例集の取材で ClearWaterProject の田中さんとつながったことがきっかけとなり、イベント等を通じて新しい交流や販路が生まれています。

矢森協
2014 年に森の健康診断が終了。森の健康診断関連事業は、矢森共有しメンバーを中心とした森の健診出前講座運営グループに引き継がれ、科学的で安全な森づくりの追求を主な活動とするグループになりました。代表、副代表も交代しました。

豊森なりわい塾
今年度 6 期目を開塾中。卒塾生からは、ユニークな発想で地域づくりをしている方が続々輩出しています。

千年持続学校
みんなで建てていた家が完成し、I ターンの若い夫婦＋子ども 2 人の一家が住み始めました。昨年開校した「ミライの職業訓練校」のサポートもしています。

Green maman
スーパーやまのぶに Green maman おすすめの加工食品等を扱う「Green maman のお気に入り」と、maman のメンバーがやまのぶの安心・安全な食材を利用して作る「ことりのお総菜」のコーナーができました。

みどりの里
障がいのある方々に自然栽培の担い手になってもらう「農福連携」の取組を始めました。全国的に見ても先進的な事例です。

【質問項目案】
・前回の取材後、どのような変化がありましたか？（活動内容、活動拠点、会員数、連携している団体など）
・前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？
・山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください。
＊質問項目、レイアウトは自由に設定可

資料1

2016年度山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト

'16.10.7　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【2016～18年度の目標】

3冊の「山村再生担い手づくり事例集」取材対象となった64団体は、取材後さまざまな形で進化している。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化をめざす。

【2016年度の活動】

3年間の全取材者・取材先を会員としたメーリングリストを開設する。2013年度に山村再生担い手づくり事例集づくりのため訪問した21団体を再訪し、取材する。取材者は各取材先の担当者がメーリングリストで募る。取材時に事例集ⅡとⅢを持参して取材先に渡す。取材後はレポート作成を行い、レポート集を発行する。年度末に交流会を開催する。

【スケジュール】

1）取材者の確定、メーリングリストの立ち上げ（～8月）
2）取材（9～11月）
3）調査者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求（12月～1月）
4）山村再生担い手づくり事例集交流会（2～3月）

＊交通費等の計算・支払事務は豊田市の株式会社M-easy戸田友介代表、金子優子氏が担当

【取材先と担当者】

	取材先	担当者
1	根羽村森林組合	洲崎燈子
2	ねば杉っ子餅	洲崎燈子
3	根羽村猟友会	洲崎燈子
4	恵南森林組合	丹羽健司
5	串原林業	蔵治光一郎
6	NPO法人奥矢作森林塾	浜口美穂
7	NPO法人福寿の里自然倶楽部	浜口美穂
8	矢作川水系森林ボランティア協議会	蜂須賀功
9	とよた森林学校	沖　章枝
10	とよた森林学校OB会	沖　章枝
11	とよた都市農山村交流ネットワーク	沖　章枝
12	豊森なりわい塾	丹羽健司
13	株式会社 M-easy	浜口美穂
14	旭木の駅プロジェクト	浜口美穂
15	千年持続学校	丹羽健司
16	おむすび通貨 一般社団法人 物々交換局	沖　章枝
17	green　maman	蜂須賀功
18	農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功
19	NPO法人 中部猟踊会・三州マタギ屋	唐澤晋平
20	岡崎森林組合	唐澤晋平
21	おおだの森保護事業者会	唐澤晋平

資料1

2016年度山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト

'16.11.25　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【2016～18年度の目標】

3冊の「山村再生担い手づくり事例集」取材対象となった64団体は、取材後さまざまな形で進化している。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化をめざす。

【2016年度の活動】

3年間の全取材者・取材先を会員としたメーリングリストを開設する。2013年度に山村再生担い手づくり事例集づくりのため訪問した21団体を再訪し、取材する。取材者は各取材先の担当者がメーリングリストで募る。取材時に事例集ⅡとⅢを持参して取材先に渡す。取材後はレポート作成を行い、レポート集を発行する。年度末に交流会を開催する。

【スケジュール】

1) 取材者の確定、メーリングリストの立ち上げ（～8月）
2) 取材（9～11月）
3) 調査者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求（12月～1月）
4) 山村再生担い手づくり事例集交流会（2～3月）

＊交通費等の計算・支払事務は豊田市の株式会社M-easy戸田友介代表、金子優子氏が担当

【取材先と担当者】

取材先	担当者	再取材
1 根羽村森林組合	洲崎燈子	済
2 ねば杉っ子餅	洲崎燈子	済
3 根羽村猟友会	洲崎燈子	済
4 恵南森林組合	丹羽健司	
5 串原林業	蔵治光一郎	
6 NPO法人奥矢作森林塾	浜口美穂	済
7 NPO法人福寿の里自然倶楽部	浜口美穂	済
8 矢作川水系森林ボランティア協議会	蜂須賀功	済
9 とよた森林学校	沖　章枝	
10 とよた森林学校OB会	沖　章枝	
11 とよた都市農山村交流ネットワーク	沖　章枝	
12 豊森なりわい塾	丹羽健司	
13 株式会社 M-easy	浜口美穂	済
14 旭木の駅プロジェクト	浜口美穂	済
15 千年持続学校	丹羽健司	
16 おむすび通貨 一般社団法人 物々交換局	沖　章枝	
17 green　maman	蜂須賀功	済
18 農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功	済
19 NPO法人 中部猟踊会・三州マタギ屋	唐澤晋平	済
20 岡崎森林組合	唐澤晋平	12/12
21 おおだの森保護事業者会	唐澤晋平	12/12

＊取材団体のその後情報

根羽村森林組合
「仮設でない仮設住宅」を謳ったちいさな木の家、セルフビルド物置、足湯やブランコ、オセロなどの「どこでもシリーズ」、木のおもちゃなどアイディアが炸裂し、次から次へと魅力的な新製品が生まれています。

串原林業
「串原農林」になって、農業も手がけるようになりました。事例集の取材で ClearWaterProject の田中さんとつながったことがきっかけとなり、イベント等を通じて新しい交流や販路が生まれています。

矢森協
2014 年に森の健康診断が終了。森の健康診断関連事業は、矢森共有しメンバーを中心とした森の健診出前講座運営グループに引き継がれ、科学的で安全な森づくりの追求を主な活動とするグループになりました。代表、副代表も交代しました。

豊森なりわい塾
今年度 6 期目を開塾中。卒塾生からは、ユニークな発想で地域づくりをしている方が続々輩出しています。

千年持続学校
みんなで建てていた家が完成し、I ターンの若い夫婦＋子ども 2 人の一家が住み始めました。昨年開校した「ミライの職業訓練校」のサポートもしています。

Green maman
スーパーやまのぶに Green maman おすすめの加工食品等を扱う「Green maman のお気に入り」と、maman のメンバーがやまのぶの安心・安全な食材を利用して作る「ことりのお総菜」のコーナーができました。

みどりの里
障がいのある方々に自然栽培の担い手になってもらう「農福連携」の取組を始めました。全国的に見ても先進的な事例です。

【質問項目案】
・前回の取材後、どのような変化がありましたか？（活動内容、活動拠点、会員数、連携している団体など）
・前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？
・山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください。
＊質問項目、レイアウトは自由に設定可

資料1

2016年度山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト

'16.12.16　豊田市矢作川研究所　洲崎燈子

【2016～18年度の目標】

3冊の「山村再生担い手づくり事例集」取材対象となった64団体は、取材後さまざまな形で進化している。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化をめざす。

【2016年度の活動】

3年間の全取材者・取材先を会員としたメーリングリストを開設する。2013年度に山村再生担い手づくり事例集づくりのため訪問した21団体を再訪し、取材する。取材者は各取材先の担当者がメーリングリストで募る。取材時に事例集ⅡとⅢを持参して取材先に渡す。取材後はレポート作成を行い、レポート集を発行する。翌年度初めに交流会を開催する。

【スケジュール】

1) 取材者の確定、メーリングリストの立ち上げ（～8月）
2) 取材（9～11月）
3) 調査者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求（12月～1月）
4) 再取材集の完成（～2017年2月21日・火）
5) 山村再生担い手づくり事例集交流会（2017年4月15日・土）

＊交通費等の計算・支払事務は豊田市の株式会社M-easy戸田友介代表、金子優子氏が担当

【取材先と担当者】

取材先	担当者	再取材
1 根羽村森林組合	洲崎燈子	済
2 ねば杉っ子餅	洲崎燈子	済
3 根羽村猟友会	洲崎燈子	済
4 恵南森林組合	丹羽健司	
5 串原林業	蔵治光一郎	
6 NPO法人奥矢作森林塾	浜口美穂	済
7 NPO法人福寿の里自然倶楽部	浜口美穂	済
8 矢作川水系森林ボランティア協議会	蜂須賀功	済
9 とよた森林学校	沖　章枝	済
10 とよた森林学校OB会	沖　章枝	済
11 とよた都市農山村交流ネットワーク	沖　章枝	済
12 豊森なりわい塾	丹羽健司	
13 株式会社 M-easy	浜口美穂	済
14 旭木の駅プロジェクト	浜口美穂	済
15 千年持続学校	丹羽健司	
16 おむすび通貨 一般社団法人 物々交換局	沖　章枝	
17 green maman	蜂須賀功	済
18 農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功	済
19 NPO法人 中部猟踊会・三州マタギ屋	唐澤晋平	済
20 岡崎森林組合	唐澤晋平	済
21 おおだの森保護事業者会	唐澤晋平	済

【山村再生担い手づくり事例集交流会 開催案】

日時：2017年4月15日（土）午後2:00～
場所：根羽村老人センター「しゃくなげ」

開催目的：
矢作川流域圏懇談会山部会は 2013～15 年にかけて、中山間地の振興をはじめ、持続可能な流域づくりに関わる活動を行う団体に取材を行い、「山村再生担い手づくり事例集」Ⅰ～Ⅲを発行しました。この事例集の取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークをいっそう広げ、深めることをめざして、この交流会を開催します。

内容：
・2016 年度山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト報告
　　レポート執筆者もしくは取材者による再取材結果の報告
・2013～15 年度山村再生担い手づくり事例集　取材先団体による PR タイム
・岡森フォレスターズ　ライブ
・天下杉　上演会

参加者：どなたでも
参加費：無料
報告者参加申込締切：2017 年 3 月

山村再生担い手づくり
事　例　集

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

矢作川流域圏懇談会

2017年3月

001

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

根羽村森林組合

対応してくれた人の名前 ：今村 豊
調査員 ： 浅田益章、洲崎燈子
レポート作成者 ： 洲崎燈子
取材日 ： 2016年10月20日
取材場所 ： 根羽村森林組合

試作品の組み立て式ベッドに横たわる今村さん

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

・一般市民が使うことのできる木材加工品は増えたが、個人住宅の着工数は減っている。どうするか、建築材以外にどんな木材の利用法があるかと考え、この3年間でさまざまな製品を作ってきた。

簡易セルフビルドハウス「3坪の家」

中房温泉の家族風呂「根羽の湯」（長野県安曇野市）

＊流域ものさし。矢作川の長さ、118kmにちなんで11.8cm。流域を学ぶワークショップで参加者が、矢作川流域のさまざまな木をモザイク状に並べ手作りする

＊癒やし系の「木っころ」。フリーマガジン「耕Life」とのコラボ製品

◆安全・安心の木質100%の製品
◆地産地消

カラー
48色あり

LED球の
埋め込みもOK

二酸化炭素の固定量
樹のれんが（1,000㎡当たり） 36.7t-CO2
森のれんが（1,000㎡当たり） 45.8t-CO2
木煉 （1,000㎡当たり） 55t-CO2

ブロックのサイズ
3種類あり

環境性能重視型木質舗装材ブロック Weed Lock（ウィードロック）– 材料供給を検討中

どこでもシリーズ

動く木のおもちゃ、スパイラルタワー。軽やかな音を立てながら落ちてくる木の球に、子どもたちは釘付け

どこでもブランコ

どこでもオセロ、どこでもウッドデッキ

＊どこでももちつき機

（＊がついている製品の写真は
耕Lifeより転載）

9坪スマートエコハウス（ゼロエネルギーハウス）
2011年の震災後、仮設住宅の問題（傷み、利用期限、費用面の保証等）を見て、名古屋の（一社）アースパートナー協議会と開発した。上から見て正方形の一つの角を切ったスタイルで、配置によってさまざまなコミュニティーとしての機能を果たせるのがポイント。上物だけで500万円以下に抑えることをめざしている。女川町に30棟建てたいと打診している。
木材の質には最も上等な上小節、2番目の特一、3番目の一等があるが、一等の材でも使えるようにしたい。

・3大学との連携による魅力的な根羽村づくり

信州大学＜農林分野での連携、山地酪農（やまち）の導入＞
里山の牛が一生を全うできるようにする。遊休農地を活用し、周囲の森を強間伐して森林空間を作り、放牧林にする。誰でも作れる簡易牧柵キットを開発し、簡易セルフビルドハウスを牛舎にする。根羽村プレイスメイキング（居心地のいい木の空間作り）事業の一環で、農林一体の取組。森林組合員がみんな特伐（特殊伐採）をできるようにして、広葉樹も活用できるようにしていきたい。

岐阜女子大学＜森林体験、住居、環境分野での連携＞
水源歩道の設置をめざす。最初の一滴を探す道。山里暮らしの指南をする「田舎の先生」制度を創設し、都市部の人が農家民泊をしに来た時に農林漁業体験や文化、歴史などをいろいろ教えられるようにする。建物景観のデザインとしては、個人向けのタイニーハウス（6畳程度の小屋）を計画している。地主が「田舎の親戚制度」を結んだ方に貸し、田舎の生活とさまざまな智恵や技能を教える。

愛知教育大学＜木育分野での連携＞
幼児～大人の木育構想に沿った、動く木のおもちゃの製品開発を継続して行う。タイニーハウスの横にトリトン（DIYの総合ツール）と作業小屋を置き、「田舎で真剣に物づくりをして」とアピールする。インスタレーション（空間全体を使ったアート作品）として山の上から沢まで木の球を転がす道等を作る。その他、子どもたちが遊びながら自然の中で原体験を得られるような場所をつくっていく。

・日本全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支部の設立

2014年に日本全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支部を立ち上げ、木づかいのPR活動「木づかいライブスギダラキャラバン」を年間30回程度開催するようになって、イベントの実施や木のアイテム製作等いろいろなことを依頼されるようになった。特に豊田のまちづくりに関わる若い人たちとのつながりができたのはよかった。豊田のまちなかのイベントに出展したら、木製品のおかげで人が集まり、楽しみや感動が生まれた。豊田の森林組合さんとも木づかいの連携を図りたい。
木育をやっていると根羽村森林組合の名前が浸透する。「また来てね」と言ってもらえる。この矢作川流域を素晴らしい場所であると感じてもらいたい。発信しているとオファーが来る。人を巻き込むことが大事。イベントを自前でやっているとだんだん出先がお金を出してくれるようになり、資金に余裕が出てくる。日当を出せるようになったので、スタッフに余裕を持てるようになった。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

Iターン職員の定着率向上は引き続き課題となっている。Iターンで森林組合に来ている人たちは、林業をやりに来ていて、村の暮らしを一番とはしていない。一般的な田舎の傾向として、縦の人間関係が強く、林業を志すような自由人には馴染みにくいため、村を離れてしまうこともある。ここに来て住むようになった人たちには農地や森を与え、そこで新たなライフスタイルの確立にチャレンジしてほしい。行政が半額位助成してあげて、家を建てられるといいと思う。「根羽村っていいな」と思ってほしい。地域に愛着を持って技を磨き、チェーンソーをサラシに巻けるような人、特伐ができて、花桃が咲き乱れる桃源郷を作れるような人になってほしい。根羽村を、都会から来た人が魅力に感じる、本当の労働を提供できる場にしたい。そのことがIターン職員の定着につながる。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

木や森に関わる団体を集めて横のつながりを作りたい。森や山の感謝祭を海の関係者との協働で、山でも海でも開催したい。また、「田舎の親戚制度」を地域に定着させ、子どもたちに田舎や第一次産業の原体験をさせられる場面を増やしたい。

「気持ちいい～」
どこでも足湯

002

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

農事組合法人　杉っ子

対応してくれた人の名前 ： 石原みちゑ 原 小夜子
調査員　 ：　洲崎燈子 浅田益章
レポート作成者 ： 浅田益章
取材日　 ： 2016年10月20日
取材場所 ： 長野県下伊那郡根羽村1855(農産加工施設、旧根羽村保育所)

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

(1)「ねば杉っ子餅」から「農事組合法人　杉っ子」に店舗名変更した。

変更理由：
①食品衛生責任者設置による食品衛生法許可の店に
（菓子製造業営業）
食品衛生責任者：稲垣悦子

②餅以外の商品メニュー充実
・根羽村産椎茸を使ったきのこおこわ、
・地元産よもぎの草大福、
・米粉を練ったからすみ、
・ねぎ味噌たれの五平餅など

③売り上げ増加による税金対策。

取材風景

(2)売り上げ増加。順調でやる気満々、楽しくみんなでやっている。

①根羽村の外からの引き合いが増えた。

②地元の食材にこだわり地産地消のお菓子を手作りで提供

③村内の主婦が末永く安心して働ける職場として仕事場や
各家庭の理解と支援をうけている。

④リーダー役である石原さん(理事長)、原さん(理事)が明るく楽しく引っ張っている。

⑤女性のチームパワーが発揮されてポジティブな活動となっている。

(4)持続可能なビジネスプランができている
高齢化が進み、後継者が不足する中でみんなが頑張れる仕組みとしている。

①「地産地消で生涯現役」のキャッチフレーズを心がけている。ゆるぎない。

②顔の見える隣近所の村民の働く場としてミライへのビジョンもしっかりとしている。
良い食品を作るうえでお客様の声をすぐに生かせるので小量生産の良さが生かされている。

③根羽村で昔ながら使っていた石臼や木型、木箱などを利用している。
村の伝統食品として付加価値を高めることができる。

④販売している食品は生ものが多いので難しいが、その条件をクリアする工夫や知恵をみんなで考えている。

地域の変化

根羽村の食材を使った地産地消の食品の人気が出ている。高齢化が進む中で後継者の確保は難しいが、高齢者にもできるような体制を作ることを進めている。元気なうちは働きたいというお年寄りも増えている。
また、生もののお菓子が主体であるが根羽村外からの注文も増えている。食品安全に留意して注文にこたえるようにしなければいけない。注文があることはよいことである。

これからやろうとしていること

根羽村の村民が末永く、やりがいと楽しみをもって働ける場、環境、支援体制を村ぐるみで理解し応援してもらえるように心がけている。今のままを地道にやれば期待に応えれる。そう感じます。
食を通じて、村民のふれあいの場を提供してゆきたい。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

地産地消の食事、お菓子作りの場づくり事例は高齢化時代における食・農・健康という大事な目的に合致する良い事例である。どこの地域でも同様なことができると思う。実際それぞれのやり方でやっているので交流するのもいい。

写真

① 農産加工施設所（根羽村）

② 注文数記載のカレンダー

③ 食品営業許可の店

④ 食の祭典イベント出店ちらし

⑤ 地元産よもぎの草大福

⑥ 地元の素材を生かした手作りの農産加工品を仲良く。

003

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

根羽村猟友会

対応してくれた人の名前 ：西尾 竹司氏
調査員 ： 高橋伸夫、洲崎燈子、竹尾博史、江口佳志
レポート作成者 ： 江口佳志
取材日 ： 2016年10月26日
取材場所 ： 西尾氏事務所

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

①ニホンジカ毎年増えていっている。
⇒有害駆除数 前回取材時 250頭(H24年)現在377頭(H27) 150%増
②長野県 元気づくり支援金申請し、真空パック機械の導入費の一部支援を受けた。
⇒解体獣肉加工後のパック詰めを真空パックにて新技術の導入を行った。
③獣肉出荷量増
⇒ ②の支援に基づきさらなる処理出荷量増を目指している。
④根羽村猟友会 会員数増
⇒ 2名増の合計22名体制
⑤近隣村間の駆除要請を受け活動した
⇒売木村に出張駆除。売木村駆除活動できる鉄砲所有者実質3名
⑥獣肉の需要は増えている。ネバーランドレストラン、販売所、名古屋のレストランとの取引量増。
⇒鹿肉は間に合っていないぐらい

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

①猟友会員数が少ない、後継者不足。
⇒3年前に比べ会員数は2名増。後継者の対策はいまだめどつかず。
②【県境問題】 茶臼山 愛知県側からのニホンジカが長野県に入ってきている。茶臼山でかなりの数が増えていっている印象。問題は、長野県側で必死に駆除しても愛知県側から入ってきては数が減らない。さらに長野県側から県境を越境して愛知県側の駆除はできない。
⇒愛知県、長野県両県が問題 情報を共有して連携体制で駆除にあたる必要がある。
③獣肉需要が上り調子だが
⇒実質鹿肉は在庫不足とのこと。駆除頭数は増えているのに間に合わないのは、駆除方法にも問題ある。食肉加工に回ってきているのは駆除数の約半数とのこと。実質人手不足で処理施設まで持ってこれないため。(山からおろしてこれないので埋設)駆除数は増えるが食肉になる量は人手が増えないと変わらない。さらに、食肉に適さなくなったもの(罠にかかったまま死亡、銃弾が腹に入ったじょうたい)は埋設処分している。無駄になるものを減らすべく、今後はその活用方法を模索していく。

写真

根羽村【ねばーらんど】 猟師飯メニュー
長野県魅力発信ブログより転載

有害駆除捕獲実績

鳥獣名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
ニホンザル	6 頭	27 頭	4 頭	8 頭	11 頭	7 頭	1 頭
ウサギ	6 羽	2 羽	3 羽	13 羽	22 羽	12 羽	28 羽
キジバト	19 羽	39 羽	50 羽	33 羽	32 羽	59 羽	20 羽
カラス	6 羽	11 羽	5 羽	11 羽	10 羽	17 羽	19 羽
イノシシ(猟期外)	34 頭	145 頭	61 頭	48 頭	66 頭	72 頭	58 頭
イノシシ(猟期内)	20 頭	68 頭	14 頭	18 頭	14 頭	18 頭	17 頭
イノシシ(合計)	54 頭	213 頭	75 頭	66 頭	80 頭	90 頭	75 頭
ニホンジカ	148 頭	107 頭	138 頭	250 頭	310 頭	334 頭	377 頭
ツキノワグマ	1 頭	1 頭	1 頭	2 頭	3 頭	2 頭	3 頭
カモシカ	15 頭	15 頭	15 頭	15 頭	15 頭	15 頭	4 頭
カワウ			1 羽	8 羽	11 羽	2 羽	5 羽
アオサギ			1 羽	4 羽	3 羽	3 羽	3 羽
アライグマ			1 頭	3 頭	10 頭	7 頭	5 頭

根羽村猟友会有害駆除実績

006

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

NPO法人 奥矢作森林塾

対応してくれた人の名前 ： 大島光利(旧理事長)、小林太朗(新理事長)
調査員　 ： 近藤 朗、清水雅子、浜口美穂
レポート作成者 ： 浜口美穂
取材日　 ： 2016年10月15日
取材場所 ： 奥矢作レクリエーションセンター(奥矢作森林塾事務局)

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

●予定通り！ 代表が交代
2015年9月1日に大島さんから小林さんに代表を交代した。前回調査(2013年)の時に伺った課題が「NPOの後継者づくり」だったので、その課題が解決されたことになる。2006年に団体を設立してから今年で10年。大島さんは当初から「10年のうちに代表を交代しないと森林塾はつぶれる」と思って後継者づくりを意識していたという。
小林さんは、20年前に山仕事がやりたいと埼玉県から串原村森林組合に就職。その後、合併により恵南森林組合で16年間、森林管理業務に従事。2014年に大島さんから「もっと地域に密着して楽しくやってみないか」とスカウトされた。

●スタッフの若返り
スタッフは、前回調査時より1人増えて6人になり、代表だけでなくスタッフも若返った。組織は「地域振興部門」「森林管理部門」「施設管理部門」に大きく分かれるが、全体像だけ全員で決めて、あとは各部門のトップに任せる方針で運営している。

●「地域の課題解決」の役割が増大
市の指定管理、管理委託の事業が年々増えている(森林問題、交通問題など)。串原村の時は職員が30～40人いたが、合併後の串原振興事務所には職員が4人だけ。金もない。行政が本来の行政の役割を果たせないため、「我々がやらないと地域が守れない」「年寄りから子どもまで生き生き暮らせる地域づくりを」という意識でやっている。森林塾が地域の課題を調べ、計画を立て、実行する。それを行政がバックアップする体制で串原の事業が進められている。全ての事業を「移住・雇用」に絡めている。

●山で飯を食おう！
三宅林業、串原農林、恵南森林組合などと連携しながら、森林の整備を進めている。また、「串原・里山づくりの会」をつくり、林野庁の事業を活用して毎週1回作業を行っている。9割以上が移住者で、チェーンソー講習から始めた。1000円の時給を払っている。移住者が「山で飯が食えるよう」に、力を入れている事業の一つ。
また、鳥獣害対策と移住者の仕事づくりも絡めている。移住者には狩猟免許を取るように勧め、今年は10人が講習会に参加し、9名が免許(わな)を取得した。肉を流通させるため、食肉加工の中間処理施設の誘致を図っている。

●移住者も「みんなでやろまいか！」
移住者は増え続け、現在7家族が空き家待ち状態。10年間で66人が移住した。恵那市の中で串原小学校・中学校だけが子どもの数が増えている。串原こども園も3～4人だけだったのが今や20人と大幅増。
古民家リフォーム塾1期生3人がリーダーとなり移住者の会をつくって、年一回、結の炭家(ゆいのすみか)で交流会をしている。女性たちは、大島さんの奥さんがリーダーとなってことあるごとに集まり、朴葉寿司、野草の天ぷら、草餅などを作る会を実施している。移住者の悩み事はこれまでなら大島さんに集中していたが、今は移住者の会のリーダーが解決することも多くなった。森林塾のキャッチフレーズ「みんなでやろまいか！」に近づいてきている。

●串原郷土館(郷之驛)の復活とサトノエキカフェ
2011年に設立された奥矢作移住定住促進協議会(奥矢作森林塾が事務局)では、2013・2014年度に農水省の交付金事業を活用して、市所有の"開かず"の串原郷土館を1年半かけてリフォーム。眠っていた多くの民具はデータ化した。今年から移住者が館内でサトノエキカフェを営業している。移住者が生計を立てる場所の一つとなるよう、徐々に郷土館の機能も復活させていく予定。

●奥矢作湖をカヌーのオリンピック公式練習場に
恵那市カヌー協会とタイアップして、2020年の東京オリンピックを目指し、奥矢作湖を公式練習場として認めてもらうよう国交省と協議中。一般の行楽客にもカヌー体験をしてもらえるよう様々なコースを考えている。

●地域間の横のつながり「恵那市NPO連絡協議会」が始動
NPOの会計・マイナンバー問題などの研修会、交流会などを行っている。

現在の課題は何ですか？（小林さんへの質問）

スタッフが30代、40代の現役なので、みんなの生計を立てることがまず根本としてある。その上で地域の課題に取り組まなくてはならない。仕事がどんどん増えていて大変だが、やりがいはある。
また、スタッフは移住者ばかり。地域住民からの期待を込めたプレッシャーもあるが、地元の名士である大島さんがやってきた10年間で得た信頼がバックにあるから安心して取り組める。

今の仕事の魅力は？（小林さんへの質問）

ずっと森林組合で一人当たりの生産性を上げることだけを考えてやってきた。今は、地域課題としての荒廃森林を再生させるんだという思いで、ただ汗をかくだけで幸せを感じるセミプロたちとも一緒にやっている。精神的にも、補助・助成金を活用する意識も変わった。今は、やっている人が幸せにならないとダメだと思っている。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

流域全体で移住者が増えていくよう、繋がるためのツールになればいい。
下流の子どもたちをいかにして上流部に呼ぶかということで、10年前から毎年7月第3土曜日に「奥矢作森林フェスティバル」（主催：矢作水源フォレストランド協議会、共催：奥矢作森林塾・矢作ダム管理所）を開催している。今年は1300人の参加があった。下流の人たちに上流の状況を見てもらいたい、ダムの役割も知ってもらいたいと思っている。
10月第3日曜日の中山神社のお祭り「中山太鼓」にも外部の人たちに参加してもらおうと、森林塾が交流事業として企画。中山太鼓保存会の協力で叩き方の指導も行っている。前日から奥矢作レクリエーションセンターに泊まって稽古をする。現在、中山太鼓参加者の約6割が外部の人。

写真

小林さんと大島さん

サトノエキカフェを運営する藤本さんと息子のあおくん。京都から移住してきたばかりの時は人見知りしていたというあおくんは、今は信じられないくらい人懐っこく、のびのびと遊んでいる

まったりと落ち着くサトノエキ内部

縁側でまったり。心地よい時間が流れている

007

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

NPO法人 福寿の里自然倶楽部

対応してくれた人の名前 ： 横光八洲男 事務局長
調査員 ： 近藤 朗、清水 雅子、浜口 美穂
レポート作成者 ： 近藤 朗
取材日 ： 2016年10月15日（前回取材日 2013年11月8日）
取材場所 ： 福寿の里事務所(岐阜県恵那市上矢作町)

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

●指定管理者として地域の担い手になる

福寿の里自然倶楽部(2011年4月設立)は、2014年4月より、上矢作町にある3つの宿泊施設「福寿の里モンゴル村」、「越沢コテージ」、「コテージかわせみ」の指定管理者として運営を任されることとなった。宿泊者にアンケートを実施したり、手紙を郵送するなどきめ細やかな配慮を行っており、これらを通じてアライダシ原生林を始めとする矢作川上流域の自然を伝えたいと願っている。リピーターも多いという。指定管理者制度とはいえ、都会のように他に競合相手がいるわけではなく、負担も大きいが、恵那市(上矢作振興事務所)からは頼りにされている存在である。(取材者は、なくてはならない存在であると感じた。)

●アライダシ原生林ツアーの継続実施と定着

福寿の里創設時(2011年)より実施してきたアライダシ原生林エコツアーも6年目を迎え、参加者も安定、定着してきた。「手つかずの自然を伝えたい！」思いは今も変わらず、会の横光哲理事(横光八洲男事務局長の次男)はツアー担当をしている。また福寿の里の講師に名を連ねている赤尾友和さんは、根の上高原でインタープリターをされている方(自然体験工房NENO代表)で、主にガイド養成を担ってもらっており、御子息含め若いメンバーとの連携や役割分担が構築されてきている。

●恵那市合併(2004年)後の新しい連携

福寿の里が原生林ツアーを実施している事、また宿泊施設の運営を担っている関係で、今まで関わりの深かった奥矢作森林塾の他に、恵那市他地域のNPO、例えば「心の合併」プロジェクトを進める「えなここ(2010年設立 恵那市全域)」や、「城下町ホットいわむら(2009年設立 旧岩村地区)」などとも新たにやりとり(宿泊、ツアー受入)をするようになり、繋がりが広がった。

●矢作川下流域の人たちにもっともっと来てほしい！

上矢作は矢作川の源流であり、是非とも愛知県の下流の人たちに来て、アライダシ原生林などを見てほしいというのが、前回取材での希望だった。その取材直前の2013年10月2日に、矢水協を含めた矢作川環境技術研究会(22名)が福寿の里、アライダシ原生林を訪れていたが、当矢作川流域圏懇談会山部会も2014年5月16日から17日にかけて福寿の里でのワーキングを行い、研修等での会議、モンゴル村での地域交流会、宿泊、そしてアライダシ原生林でのツアーも実施した。
横光さんはもっともっと来てほしいと願っている。

現在の課題について

2004年の合併で行政機能は恵那市役所に集約され、旧役場にあたる振興事務所の人員等規模が縮小されている。その中で恵那市各地では自立したNPOがそれぞれの地域で独自性を活かした活動を行い、役所機能を補完するという新しい恵那モデルを構築しているように見える。地域の方々が誇りを持って地元を担うという点で素晴らしいなと感じる一方で、横光さんが「負担が大きくなっている」と言われたように、行政側も今のうちに、さらに彼らを支えるための継続性を持った新たなシステム(行政とNPOの相互連携)を再構築するべきかなと感じた。これもニュー恵那モデルで。
福寿の里と同日取材した奥矢作森林塾(旧串原村)においても同様な課題が見える。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

「原生林にあまり多くの人たちに来てもらいたくないと思う反面、下流域の人たちには是非源流を見てもらいたいと思う。」とのこと。矢作川下流域にはその水を利用している企業も数多くあり、彼等への広報ツールとして活用しても良い。福寿の里には研修施設もあるため、研修(CSR等)、エクスカーション利用が期待できる。そのための流域マップ作製やツアーコース設定があると良いかもしれない。

矢作川流域圏懇談会山部会でのアライダシ原生林訪問と福寿の里交流会（2014年5月16日～17日）

是非来てくださいとのお声に応え、素敵な時間を過ごさせていただきました。

山部会（恵那）WGを始めてモンゴル村で開催した後、福寿の里自然倶楽部の方々などとの交流会を同場所で行いました。福寿の里からは、度会三治理事長、横光八洲男事務局長を始め横光哲理事まで多くの方々に参加いただき、串原林業の三宅大輔さん、恵南森林組合の大島徳雄理事、奥矢作森林塾の大島光利さん、小林太郎さん、根羽村森林組合の今村さん、南木さんなど「山村再生担い手育成事例集」の登場人物が顔を揃えるというにぎやかなものとなりました。翌日も横光さんなどのお骨折りによりアライダシ原生林へのガイドツアーを体験したものです。

写真

今回、横光八洲男さんへの取材、3年前（2013年11月）と変わらない風景

2016年10月 横光さんを囲み福寿の里事務所前にて

アライダシ原生林を訪れた私たち　2014年5月

モンゴル村にて矢作川流域圏懇談会を開催
右端が串原農林の三宅さん　2014年5月

009

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

とよた森林学校

対応してくれた人の名前 ： 北岡明彦
調査員　 ：　沖 章枝 松井賢子 浅田益章
レポート作成者 ： 浅田益章
取材日　 ： 2016年11月9日
取材場所 ： 愛知県豊田市森林課（豊田市足助支所地内）

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

（1）活動に変化なし。

①人工林の間伐ができる人材の育成
②関心の低い森林所有者への森林や林業の基礎知識の解説
③森林・林業の理解者などの「森の応援団」を増やす

2006年にスタートして以来、人材育成コースと森の応援団コースの2つの市民向け講座で林業や森林管理に携わるボランテア・就業者の育成を図る。都市部住民には自然観察や昆虫観察を通して森林や間伐への理解に努めてきた。

豊田市の市民42万人。せめて1割は講座に参加してほしい。そのためには間伐や森林への基本的な理解、普及が大事である。講座のプログラムはニーズに合わせて変えてゆきたい。

（2）最高賞受賞（2016年10月）

森林学校の10年に及ぶ活動が評価され、「間伐・間伐材利用促進ネットワーク」のコンクールで最高の林野庁長官賞を受賞した。

評価されたこと：
①市、森林組合、NPOの3者連携。取り組みの継続
②講座内容が充実している
③地域リーダーを養成し、将来につながる活動
④森の応援団の育成など都市部と中山間地をつなげる活動である

豊田市は市の7割を森林が占める。手入れされない人工林によって大きな水害が出た。(東海豪雨、2000年)
都市部の安全も損なう。そのもとになるものが森林であり経済力を支える源である。豊田市は豊田市全体ビジョンとして考えている。国や県の施策と違ってきても市にあったことをやる必要がある。地域ごとに森に対する価値が違うから。市が森林管理をきちっと主導する時代になっている。

（3）人工林と天然林の違いを理解した森林管理
豊田市の森林地域は広い。天然林と自然林の違いを理解して森林管理をすることが肝要である。

・天然林は自然のままに。植林をする必要がない
・人工林は手を入れなければいけない。スギとヒノキ
・コナラは天然林も人工林もある。(しいたけの原木)

豊田市の高標高地における植生遷移の模式図で北岡さんに教えていただいた。
森林を完全に裸地化するとまず風散布型種子の草本植物が侵入し、いろんな樹木に移り変わりブナ林になる。
長い時間がかかって森林は成長することが模式図で分かった。
講座には自然観察の講師もいる。校長の藏治先生は林学だけど生態学もよくご存じである。
生態学を踏まえた林業、森林管理が大事である。

地域の変化

豊田市は広大な森林をバックに持つ先進的な工業都市である。都市部の市民と中山間地域の市民が生活している。都市部で働き、中山間地域に住まいを持つ市民もいる。自然豊かな地に住む先進工業都市と言える。都市部と中山間地の交流や補完による自然の恩恵を得れることが期待できます。クオリテイーの高い暮らし方を得ることができる。

豊かな森に育てるためには人工林は管理を必要とします。広葉樹林などの自然林は保護、保全が重要である。林業だけでなく、暮らしを豊かに、楽しくするような多様な形の森林が求められるであろう。

これからやろうとしていること

北岡さんは現在、豊田市の森林課勤務である。近い将来の定年後のことを尋ねてみました。引き継ぐ後継者がいないと言われた。引き継ぐことなど簡単にできることではないとのこと。個人商店のようなもの。今は市営の森林学校であるが私営の森林学校をやりたいと言われた。子供たちが喜んでくれるのが楽しい。トヨタの森に対する情熱と愛情を強く感じました。そういう人がいないと森は守れないとも感じました。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

とよたの森林学校の事例は、隣接する岡崎市の森づくりや森林管理などに大いに参考になるものである。今回一緒に訪問した沖さんは岡崎市に働きかけているとのこと。そのときにこの事例集は大いに役立つのではないかと思いました。

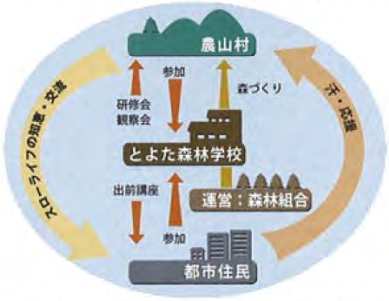
写真

① 香嵐渓（豊田市足助町）

② 豊田市森林課（足助支所地内

③ 森の応援団育成ポスター

④ 対応していただいた北岡さん



⑤ 特徴：校舎のない学校 （HPより）

⑥ 全国コンクール最高賞受賞

⑦ 豊田市の高標高地における埴生遷移の模式図（安定したブナ林になるまでに）

010

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

とよた森林学校OB会

対応してくれた人の名前 ： 山本薫久
調査員　 ： 松井賢子
レポート作成者 ： 松井賢子
取材日　 ： 2016年11月8日
取材場所 ： とよた都市農山村交流ネットワーク事務所

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

NPO法人「都市と農山村交流スローライフセンター」が事務局の中心になり数年活動してきたが、数年前からOB会の幹事さん自らが事務局的な活動をしてきて、今では多くのメンバーが運営に直接参加してきている。年4回発行する「OB会だより」の原稿や写真も積極的に集め、編集もプロ級の腕前をもつ方が受け持っている。

また、観察会などの担当も分担し、当日の出欠・会費納入・案内も分担している。文字通り、OB会の幹事のみなさんの自治で運営されている。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？

山主さんたちの自主活動が、北岡明彦さんや森林組合の事務局のメンバーの働きかけで、2016年度から始まっている。このきっかけとなったのは、2015年10月18日に足助交流館で開催した「とよた森林学校10周年記念行事」であった。そこでは、OB会のメンバーがOB会員に働きかけ、自主活動の企画を組み、実施した。

1. 島崎先生（元校長）を囲む会　42人
2. 山主さん交流会　13人
3. 自然観察会　73人
4. 面白木工教室　13人
5. 試食・試飲コーナー（クッキー、カエデてんぷら、クロモジ茶など）　多数

森林ボランティア、森林自然観察の自主活動に続き、山主さんたちの自主的な交流活動も開始された。

011

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

とよた都市農山村交流ネットワーク

対応してくれた人の名前 ： 山本薫久（代表）
調査員　　： 沖 章枝、松井賢子
レポート作成者 ： 沖 章枝
取材日　　： 2016年11月8日
取材場所 ： とよた都市農山村交流ネットワーク事務所

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

○おいでん・さんそんセンター発足による活動内容の変化

活動目的の一つの柱であった農山村と都市交流の取り組み・推進は、「おいでん・さんそんセンター」が発足して、とよた都市農山村交流ネットワークの役割としては終了した。「おいでん・さんそんセンター」自身は各団体の活動を基盤にして展開され、今までとよた都市農山村交流ネットワークがやっていた各種事業は「おいでん・さんそんセンター」が推進させている。

しかし、都市農山村交流事業の一つである『セカンドスクール事業』は、現在、とよた都市農山村交流ネットワークの中心的事業として継続している。それればかりか、『セカンドスクール事業』はここ数年さらに発展してきている。1泊2日換算で2012年度は234人の参加であったが、その後300人を超え、2015年度では378人（2012年度の1．6倍）にまで増えてきている。かつては学校単位（5年生対象）の参加だけであったものを、夏休みや春休みには、希望する小学生を対象に豊田市農山村部で受け入れるという「セカンドスクール・フリー版」を実施したことによる成果だといえる。

その他の事業は、とよた都市農山村交流ネットワークとしては中心になってはいないが、かつての関係者と「おいでん・さんそんセンター」などと共に進めている。例えば、広く大人を対象に行っている事業として、農業体験、山里の料理、道具などを手作りする山里の知恵を学ぶ講座、森林の恵みを体験する講座など、多彩な講座を開き、都市の人々が農山村に触れる実践的機会を提供している。

実行委員会をつくって、農山村の地域で活動する様々な団体やグループと、「あすけ夢里まつり」「ほんわか里山交流まつり」、豊田の市街地のど真ん中で「いなかとまちの文化祭」を開催している。延べ数千人の参加を得ている。これらの取り組みによって、多くの市民に暮らしの原点である農山村の自然、営み、文化に注目をしていただいている。

とよた都市農山村交流ネットワークと目的や事業内容がほとんど一致している「おいでん・さんそんセンター」によって、市の組織として都市農山村交流が進められている。このため、高度な協力体制が可能になり、農山村交流の取り組みが活発になってきた。

『とよた森林学校』などは、設立当初から豊田市と連携し、協働している。『セカンドスクール事業』では豊田市教育委員会の協力を得ていて、未来の山村を担う次世代教育となっている。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

都市農山村交流が進んでいると手ごたえを感じている。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

いろんなところでみなさんがもうやっておられるので、一緒になってやれればいいと思う。豊田市で完結するのではなく、根羽村とか設楽町とか恵那市とかと結びつくのが大事。この地域は山も海も都会も近いので、年に一回は「流域圏祭り」と称して、事例集に載っておられる団体の交流と市民へのアピールをしていったらどうだろうか。

海・川・山での様々な方々の営みがリアルに体感できる場になるといいと思う。やりやすいと思う。流域圏全体が結びついて一緒にやっていきたいと思っている。

013

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

株式会社　M-easy

対応してくれた人の名前 ： 戸田友介
調査員　　：　眞木宏哉、浜口美穂
レポート作成者 ： 浜口美穂
取材日　　： 2016年11月24日
取材場所 ： 福蔵寺内　M-easy事務所

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

＜戸田さん自身＞

●毎年3割くらい変化していく

前回の取材（2013年11月）時にモットーは「生き方、暮らし方を問い続けながら、ライフステージに合わせた活動を行っていく」ということだったが、その通り、毎年変化を続けながら、100を超える「暮らしのシゴト」に取り組んでいる。

●「暮らしのリズム」が刻めるように

2011年に移住して、3年で「暮らしのリズム」が刻めるようになってきた。時間のリズムに関しては、「充足感、幸福感、稼ぎなどが湧き上がる『重なり合い』を育むための予定を入れる」など、戸田流ポイントがいくつかある。

＜働き方がテーマ＞

●薪づくりと薪の販売

事例集Ⅲで紹介されている「あさひ薪づくり研究会」の事務局長をしている戸田さん。「旭木の駅プロジェクト」から原木、あるいは玉切りにした材（2割多いモリ券を出す）を薪づくり研究会が仕入れて加工、M-easyが配達を担当する仕組みで回っている。長野県の薪ストーブ販売会社DLDとも提携し、薪ストーブユーザーへ配達。2017年には、薪づくり研究会の仕入れ・加工とM-easyの配達を合体させ、有限責任事業組合の形で法人化の予定。薪の配達はコミュニケーションの機会にもなり、米を作っているスタッフとお客さんの世間話から「じゃあ、お米も配達して」ということもあるとか。

また、旭地区の鉄工所とIターンの若者が協働して、薪ストーブ民主化プロジェクトも始まっている。

●小渡・小原販売店「戸田新聞店」営業スタート

高齢化で続けられない旭地区・小原地区の新聞店の事業を引き継いで、2015年にスタート。中日、朝日、日経など読売新聞以外の新聞を配達している。また、新聞店のFacebookも開設し、地元の新聞記事や新聞折り込みチラシを掲載している。35人の配達スタッフがフレキシブルに働けるようシフトを組んでいる。チラシを折り込むのは女性3～4人がシフトを組んで担当。新聞配達の稼ぎと野良仕事を組み合わせるなど、各人が自分の時間を有効につかって働くことができるよう考えている。それは薪の配達も同じ。移住者の仕事にもなっている。毎月、「Staff Press」も発行。

＜ものづくりと仲間づくり＞

●電動軽トラ改造計画「暮らしっくCarをつくろう♪」主催

2014年から、軽トラを電気自動車に改造する講座を開催している。トヨタ自動車の技術者などがボランティアとして参加し、キットを用い、公道を走ることができる電気自動車づくりのノウハウを学んでいる。

●山里合唱団「こだま」発足

2014年に発足。Iターンしたプロのソプラノ歌手が指導。月に2回、福蔵寺で練習をしている。練習の前には子どもたちも一緒にみんなで夕飯を食べておしゃべり。地域の文化祭や老人会、福蔵寺ご縁市などで披露している。

●「やさしい暮らし委員会」設立

2016年に設立。「あさひごよみ」「あさひめくり」の制作を行っている。「あさひごよみ」は、高齢者施設の利用者の貼り絵作品を中央に大きく使用。高齢者施設の利用者と地域とのつながりが切れないようにとの配慮がある。毎月、新聞に折り込んでいる。「あさひめくり」は、365人以上の多様な人たちが関わって、めくるたびに旭を感じられる日めくりとして、2017年版から発行を始める。

●常に変化する福蔵寺のご縁市

6年目。年3回開催し、毎回400人ほどが集まる。車が渋滞するので、最近は1週間前にしか宣伝しない。人が加わることで常に変化している。やりたい人がやりたいようにするのがポイント。

地域の変化

●若い移住者がうなぎのぼり
この5年で毎年10世帯前後の移住者がある。こども園では定員を超える希望があり、対応を検討している。

●移住文化を築いてきた
「あさひ若者会」（事例集Ⅱに掲載）発行の「シットルカン」で移住者に地域の魅力も語れるように。子育て世代の移住者が増え、「移住者が地域の担い手になる」という文化が根付いてきた。移住者同士のネットワーク、地元側のネットワークも広がっていて、必要なときにつながっていける状態に。

これからやろうとしていること

●参加型ものづくりによるいなかの人材結集拠点づくり
持続可能な暮らしを求める若者、担い手不足に直面する地域住民、企業でものづくり技能を培ってきた中高年など、様々な人がものづくりをしながら交流できる拠点をつくりたいと考えている。子どもも巻き込み、子どもたちに大人が生き生きと働く姿を見せる教育の場にもなるようにしたい。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

この情報をウェブやFacebookなどでもっと外に発信できないか。地図上にプロットしたり、地域別、テーマ別にインデックスをつけたりして、見る人が必要な情報にたどり着きやすいように。

写真

父の働く姿を見てのびのび育つ宗介くん

あさひごよみ

Staff Press

015

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

green maman

対応してくれた人の名前 ： 宇角佳笑、小松昌世、小黒敦子
調査員　　： 蜂須賀功、井上崇也
レポート作成者 ： 井上崇也
取材日　　： 2016年12月6日(火)
取材場所 ： 守綱寺

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

毎月第2木曜日に開催していたタキソウ朝市を2年ほどやって卒業
→単純に売買だけではない目的でやっていたが、そのあたりのお互いの思惑が違っていた。
・猿投地区で自然栽培にこだわった米づくりを行っている。「みどりの里」の方の指導やその土地の方々からの受け入れがあったからこそ出来た。
→やってわかる1から作る大変さ、意識の変革があった。米価格の異常な安さ、消費者目線と生産者目線の違いを思い知らされた。今では、外部の人も加わり一緒に作業している。そこから別のコミュニティが発生することを期待している。
・スーパーやまのぶにgreen mamanのコーナーを設けさせてもらっている中、スーパーやまのぶと老人福祉センターぬくもりの里が福祉事業の一環として入居者が生産している農産物の取り次ぎを行ったこともある。お互いに顔が効くgreen mamanだから出来たことだと思う。今後は、一般の人が農業を通じてお金だけじゃない価値観を持てるような農福連携が重要になってくると思う。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

・運営費については、大変ではなくなってきた。逆に周りが出店料が少額で、運営を心配してくる。スーパーやまのぶの相談役が協力を申し出てくださり、やまのぶ2店舗にgreen mamanコーナーを設ける事で支援を頂いている。
・助成金を初年度申請し、大変助かったが、次年度からは申請の労力を考えて、申請していない。
・朝市に参加してくれる人に偏りが出てきている。来ていない人への伝え方も考えていかなければならない。
・フェアトレード商品の売り買いの難しさ
・フェイスブックのページ作成

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

・誰かと誰かをつなげ、コーディネートしてくれる存在、特にそれを仕事でやってくれる人が必要と感じる。豊田市で言えば、おいでんさんそんセンター。行政はイベントをやりがちだが、やっている側としては、単発では効果がわかりづらい。細くでも長く続けて付き合っていくことに自らの活動が役立っていることを実感できる場合が多い。

写真

朝市の様子(守綱寺にて)

田んぼの除草作業

016

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

農業生産法人　みどりの里

対応してくれた人の名前 :野中慎吾
調査員　　：蜂須賀功
レポート作成者 ：蜂須賀功
取材日　　：2016年11月18日
取材場所 ：農業生産法人 みどりの里 事務所

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

2013年11月の取材以後、自然栽培による農業を障がい者と一緒に取り組むようになった。また、green mamanさんが農業をする際にもお手伝いをすることになった。

○ 障がい者との関わり「農福連携」
これまでパートさんに農作業をやってもらっていたが、株式会社ストレートアライブさんが運営する就労継続支援A型事業所「とものわ」さんに農作業を委託し、障がい者の方に農業をやってもらっている。当初は、農作業がしっかり行えるかどうか不安であったが、試行錯誤を繰り返すうちに、今では障がい者の方の農作業のペースが非常に速くなり、感心している。その後、「無門福祉会」さんにも農作業を委託するようになり、現在では、ストテートアライブさんが1チーム、無門福祉会さんが2チーム、1チーム当たりの人数は6，7名なので、合計約20名の方が農作業を行っていて、みどりの里にとっては障がい者は欠かせない重要な存在である。
○ green mamanさんとの連携
green maman(豊田市在住の4人の母親が集まって作ったグループ。環境問題等に取り組み、朝市を毎月開催している。)さんが行う自然栽培の農業(田んぼ等を4反)を指導している。自分で米を作ることにより、いかに米を作ることが大変かを肌で感じてもらい、生産者の苦労を体験し、自然栽培の価値を理解してもらっている。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

「農福連携」により、人手の問題が改善されると同時に、障がい者又は福祉事業所にとってもメリットが生じた。「農福連携」は、農業、福祉の両方にメリットがある「win win」の関係である。

・ 農業にとっては、人手がいない、人を雇えない、拡大することが難しい、なかなか休みが取れないなどの問題があったが、福祉との連携により、人手の問題が改善され、生産量も上がった。
・ 福祉にとっては、障がい者の働く場があまりなく、社会との関わりも薄く、どちらかというと社会の片隅に追いやられいるような感じで、障がい者もスタッフもモチベーションが低かったが、農業との連携により、雇用が生じ、農産物を通じ社会との関わりが生まれ、障がい者も生きがいを感じられるようになった。
・ 農福連携のポイントは、まず障がい者ができるところから、すなわち何ができるかを探しながら行うことが大切である。また、作業の対価をお金でなく、現物(農産物)とすることで、お金だと作業をしてもこの程度しかもらえないのかと感じることもあるが、農産物を渡すことで、それを親族や友人など関係者に渡したり、時には販売したりするなど自分で活用でき、やりがいが出てくるようになった。
・ そして、障がい者自身も農作業を行うことで、障がい者が服用している薬の量も減り、体調もよくなるなど、農業が人体に良い影響を与えていることがわかった。
⇒ 「農福連携」はこれに関わる全ての関係者に恩恵をもたらすので、これからもさらに続けていきたい。また、今後は農福連携の障がい者だけでなく、green mamanさんのような主婦、子供などみんなで、自然栽培による農業を盛り上げていきたい。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

山村再生に関するイベントを開催したときの団体紹介や、山村再生の協力者を探すときに活用できると思います。要は、山村再生活動のツールとして事例集を活用してはどうでしょうか。

写真

障がい者によるサツマイモの苗植え付け

きゅうりの選別が上手な障がい者

ｽﾄﾚｰﾄｱﾗｲﾌﾞさん、無門福祉会さん

green maman・障がい者と一緒に種もみ準備

green maman・障がい者と一緒にイチゴの定植え

green mamanとハイ、チーズ。お疲れ様でした。

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

NPO法人中部猟踊会

対応してくれた人の名前 ：理事長　日浅 一
調査員　　：唐澤晋平
レポート作成者　：　唐澤晋平
取材日　　：2016年11月14日
取材場所　：NPO法人中部猟踊会　解体所

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

田畑に防獣柵が施されたことでイノシシが都市部へと拡散・拡大してきている（筆者注：この2～3年、国の補助で韮田の農地に防獣柵の設置が進められている）。一方で田畑の被害が減ったことで地域住民もしっかり対策しようという意識が薄れてきていて、捕獲檻をあまり真剣にやらなくなってきた。行政も地域住民も、関わる人の意識がないといけない。

野生鳥獣は冬を越すのが生存のハードルだが、温暖化の影響で増えやすい環境を人間自身が作り出してしまっている。人間が管理者として調整をしていかなくてはならない。とにかく一番難しいのは人間。人間に比べればイノシシやシカやサルなんてかわいいもの。何ごとも利益追求と効率主義になってきていて、思いやりがなくなってきている。野生鳥獣や身近な自然とどう関わっていくのか、地域の人がよく考えればうまくいく道もあるはず。大工場が来るような派手な話ではなくても、今地域にいる人たちが落ち着いて暮らしていける程度にはできる。

ソーセージ、燻製、生ハムなど加工品の商品開発テストはずっと続けている。イノシシの旬は冬場だが、農作物の被害が出る夏場によく捕まえられる。夏場の肉を活用しようとソーセージ等に加工することを始めた。自分のところははじめからイノシシ100%でやっている。以前は豚肉を混ぜた商品が多く出回っていたが、最近は同じようにイノシシ肉だけのものも見かけるようになった。加工品のノウハウは九州や岐阜の仲間と共有して、製品化されているものもある。前は内臓や骨を産廃として処分していたが、今はレストランと提携してできるだけ活用できるようにしている。

ジビエがもてはやされる傾向が続いているが、石器時代や縄文時代から日本人はイノシシやシカを食べてきている。それを家畜化してきて今の暮らしがある一方で、いまさらジビエといって盛り立てるのは無農薬野菜と同じような流れだと感じる。一時的な流行で欧米のまねごとをする必要はない。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

後継者については若い人が出入りして技術を身につけてきているが、補助金がなくても自立できる仕組みがないと難しい。人件費が稼げないようでは続かない。何をするにせよ、最後は自立・自営をどうするか。儲かる話になってくるといろいろな人が近づいてくるが、他人に頼っていては続かない。

写真

日浅氏とちょうど解体中だった猪。

処理済みの鹿肉。汁物にするとおいしいとのこと。

解体所内は所狭しと冷蔵庫や食肉加工機械が並ぶ。

018

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

岡崎森林組合

対応してくれた人の名前 ：組合長 眞木宏哉
調査員　 ： 唐澤晋平、蜂須賀 功
レポート作成者 ：唐澤晋平
取材日　 ： 2016年12月12日
取材場所 ： 岡崎森林組合

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

提案力、技術力、経営力、安全力をキーワードに組織作りを進めている。

○提案力
団地化、集約化を進め森林経営計画の策定に力を入れており、山主への提案力が求められる。今は600haくらいだが、今後森林経営計画が基本になってくるので数十～数百ha単位で取りまとめていく必要がある。

○技術力
岡崎市の労働人口が16～17万人なのに対して林業事業者は100人もいない。天然記念物のカモシカよりも少ない状況の中で我々が信頼を失うことが無いよう技術を高めて行かなくてはならない。昔から自伐林業をしてきた山主は変な施業をしようものならばすぐに分かってしまう。

○経営力
とにかくコスト感覚を持つと言うことが重要。4年前は赤字だったが、採算が取れていなかった製材加工部門をやめたことで黒字化できた。ただ、本当にやめて良かったのかという思いもある。

○安全力
ヒヤリハットの報告、事故報告を徹底している。毎月1回は安全教育集会を開き、学習会やKY票の提出、ファーストエイドの点検等を行っている。今日も外部企業の講師を招いてコンプライアンスの研修を実施した。安全管理、労務管理、コンプライアンスは厳しくやらなければならず、事務方も重要になる。

今の職員の8割がIターン。市外、県外からも思いを持った若いメンバーが外から入ってきてくれることはありがたいが、だからこそ責任も持たなくてはならない。

以前は皆伐・植林もあったが、このごろは植林をしたことがない職員も多い。最近、循環型林業として市有林での皆伐・再造林を始めた。獣害対策としてネットを張るのにコストが大きいのが課題。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

・経営上、材価が安いことは一番の課題。一次産業は一番しわ寄せが来て買い叩かれる。補助金があるから成り立っている。新たな取り組みとしてフォレストック協会と連携して排出権のクレジット化プロジェクトを始めようとしている。付加価値を高めて行く仕組みとして、森林認証の取得も考えている。

・国の政策がころころ変わるのが困る。現場は長い計画を立てて人や機械の段取りをしているのに。

・現場に入る女性スタッフが増えてほしい。

写真

岡崎森林組合　事務所外観

眞木組合長と森林組合の敷地内に積まれた丸太。
これらの木は市内の公共建築物に使われるとのこと。

019

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

おおだの森保護事業者会

対応してくれた人の名前 ：会長 浅井 董亮
調査員　 ： 唐澤晋平、蜂須賀 功
レポート作成者 ： 唐澤晋平
取材日　 ： 平成28年12月12日(月)
取材場所 ： おおだの森 クラブハウス

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

・月2回の定例活動は継続して行っている。植林のほうは一段落して、年に30~50本くらいになってきた。今年も市制100周年記念で桜を植える。維持管理が大変で、桜は陽樹なので支障木や下草刈りに手間がかかる。

・活動が継続できていることを誇らしく思う。メンバーは楽しいから参加してくれる。物理的には何も無くても、精神的に満たされるものがある。学校の先生も、おそらくお偉いさんだったと思われる人も、おばちゃんも、みんなでワイワイやるのが面白い。

・毎日のように登りに来る常連さんもいるし、週末には親子連れも来る。岡崎市内で整備されていて見晴らしのよい山は少ない。感想ノートを置いているが、良いコメントがどんどん増えて嬉しい。

・初日の出イベントの参加者は毎年増えており、今年は400人以上参加した。若い人も結構来てくれる。毎回山頂で豚汁やコーヒー、お汁粉を振舞うが、今年は初めて品切れになってしまった。

・今年から岡さんぽ(岡崎商工会議所等が中心となって仕掛けている岡崎の街歩き企画)で山歩きを実施している。初回は急なキャンセルもあり参加者は少なかったが、喜んでもらえた。今後も実施して行く予定。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？

・おおだの森は50haほどあり、70人くらいの山主から借りているが、相続して代替わりしたら桜の木を切って元に戻してほしいという人が出てきた。何とか収まったが、今後そういった意見が出てくるのが心配。活動に理解をいただくためにイベントの案内を山主にもまめに出すようにした。

・新しい参加者は時々入ってくる。はじめはメンバーが知り合いの人を連れてきたり、岡崎市の広報だよりを見たりして、その後も継続して来てくれる方がいる。それでもメンバーは60代以上が中心なので、若返りが必要。範囲が広くて手が回りきらない。もう1団体あっても良いくらい。

・獣害に困っている。食べられたり枝が折られてしまう。いろいろ試したが、柵で植林した範囲をぐるっと囲ってしまうのが一番効果的。時々シカが中に入ってしまうがそれほど問題でないレベル。ただし柵に引っかかってそのまま死んでいるものもいて、そうなると片づけが大変。ただし、環境学習に来る子どもたちにはサル・シカ・イノシシも自然の一部であって悪者ではないんだと伝えている。

・お客さんに対してもっとアカデミックなことを話せるようになっていきたい。自分たちで桜の研究をしてみたい。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

自分も昔恵那に住んでいたので懐かしく思う。今度むらさきかん(岡崎市東部地域交流センター)で近くの地域で活動している団体の交流会が企画されているが、そういう機会があると他の団体とも交流しやすい。

写真

クラブハウスにて語る浅井会長。前日の活動で使ったチェンソーのメンテナンス中だった。

登山道沿いに植えたカエデも大きくなり、紅葉が楽しめるようになってきた。

回収された獣害対策用のネット等。

2. 山村ミーティングについて

資料8

矢作川流域懇談会　山部会　山村ミーティングの経過と進捗状況（未定稿）

文責：丹羽健司

●経過

①流域の森林整備を担っている森林組合作業班員が寄り合う機会（山村ミーティング）を作ることで、林業現場で働く者（その多くはアイターン）が感じる山村と林業の課題を明らかにして課題解決の方策を探ることを目指して寄り合いを呼びかけて開催した。

②しかし集まりは悪く、開催継続は困難となった。理由は、開催時間、呼びかけ方、議題等多種。

③堅い話では困難との判断から、北海道中川町の「きこり祭り」の矢作川版を提案。

④足助の林業者のお祭り「もみじ祭り」の開催も収量が決まり寂しくなる。9月開催の「矢作川感謝祭」での共催を呼びかけるが2016年9月は種々の事情で川だけの単独開催に。

⑤森林組合幹部の危機感が変化してきている。以前なら作業班員ヒヤリング協力を依頼したら拒否されていたと思われるが、認識が近づいた感。流域ヒヤリングＧｏ！

⑥「矢作川感謝祭」、もろもろの事情を乗り越えて毎年秋の恒例行事化に向けて、11月から実行委員会を開き一緒に進めていくことに。

●今後の企画

★「矢作川感謝祭（仮称）」2017年開催にむけて実行委員会に加わる。

→流域の林業プロも素人山主も森ボラも一緒に「山の恵み」を感謝し、「山仕事」を誇れるお祭りにする。

★「矢作川流域林業担い手ヒヤリング（仮称）」の実施

＊現状認識：流域の森林整備はほぼ100%森林組合作業班が担っている。その若手現場作業員の多くは他産業からの志高い転職・アイターン者である。その新人教育と定着は大きな課題であるが、いまその中堅技術者たちの離脱が深刻な課題となっている。

①エリア：矢作川流域

②時期：2016年12月～

③対象：根羽村、恵南、豊田、岡崎森林組合作業班員（現・前：60歳未満）

④方法：４組合宛に協力依頼→対組合ヒヤリング

個人：→アポとり→個別ヒヤリング

⑤調査者：丹羽健司ほか

⑥テーマ：かつては「新人定着」が、今は「中堅離脱」（離脱＆独立）が深刻課題

巨大製材所、大森林組合、零細事業体、自伐林家、素人山主の共存

資料：平成10年愛知県林業振興基金調査

★「あいちモリコロ基金」（～100万円、～

応募（実施：2017年4月～1年間）

主体：「矢作川森の健康診断実行委員会」＋矢作川流域懇談会

3. 森づくりガイドラインについて

平成２８年度　森林課主要事業と予算（豊田市 森林課）

（　）：前年予算増減額

（1）　継　続

森づくり構想（4 事業）　78,278 千円（　25,707 千円）

・森づくり構想リニューアルプロジェクト
・森林ＧＩＳ管理費
・モニタリング調査費
・水源かん養機能モニタリング調査費

具体的施策

①間伐推進プロジェクト関連（5 事業）　128,207 千円（▲　8,137 千円）
・市が予算で関係する間伐面積･･･526ha

②団地化促進プロジェクト関連（2 事業）　64,054 千円（▲　3,466 千円）
・団地計画樹立面積････1,200ha

③林業労働力確保プロジェクト関連（2 事業）　23,091 千円（▲　754 千円）
・団地化推進員･･･8 名分
・とよた森林学校…人材育成コース

④林業用路網整備プロジェクト関連（11 事業）　347,516 千円（▲　5,713 千円）
・林道開設･･･ 3 路線　120m　作業道･･･3,406m　搬出路･･･12,500m
・林道舗装･･･10 路線 3,447m　林道改良･･･6 路線　橋りょう修繕工事…2 橋

⑤素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト関連　1,056 千円（▲ 10,236 千円）
・高性能林業機械施業促進費補助･･･2 台

⑥木材利用促進プロジェクト関連（4 事業）　11,784 千円（▲ 41,667 千円）
・木質バイオマス活用促進補助金･･･466t
・木材利用施設整備促進費交付金･･･前年度協議済見込み
・地産地建ハウス促進事業･･･地域材需要促進の啓発活動
・地域材加工流通体制整備費･･･中核製材工場を活かした木材利用調査

（2）廃　止

①足助農林センター管理費･････解体処分を完了し管理費が不要となったため。
②森林活動の森費…事業実施上予算化を要しないため

（3）新　規

①中核製材用地整備費　437,000 千円
・環境調査、造成用地伐採、造成工事

②特用林産振興対策費　3,000 千円
・漆工芸の継承を見据え小原地区に漆苗を植樹

矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績

2016. 6. 17 蔵治光一郎

		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
岡崎市	計				365.2	423.9	524.0	418.5	396.4	369.1	246.9	
	公共造林				152.0	104.4	190.0	45.2	43.1	15.3	41.5	23.8
	治山				103.8	87.9	79.1	50.6	38.1	27.6	16.1	
	矢作川水源基金				89.1	109.3	98.8	121.7	128.3	88.2	64.0	82.6
	青木川流域造林					2.6	1.0	0.9	1.8	0.5	5.7	1.6
	県税					66.4	126.5	115.1	126.3	203.3	94.2	150.0
	加速化					13.8	21.8	28.0	7.6	23.4		
	森林農地整備センター				13.5	19.7	1.4		8.6	2.8		
	県独自事業等							0.3	5.2	0.0	12.0	
	闇苅国有林					15.4		8.4	20.2	6.1		
	農林公社				6.8	4.3	5.5	48.5	17.2	2.0	13.4	
豊田市	計	1270.0	1351.0	1280.0	1276.0	1477.0	1403.0	1383.0	1112.0	1137.2	1056.0	913
	保安林	347.0	346.0	421.0	319.0	234.0	228.0	167.0	83.0	96.8	76.0	79
	農林公社	254.0	151.0	106.0	87.0	108.0	179.0	322.0	44.0	73.7	83.0	33
	県税				5.0	205.0	416.0	436.0	506.0	580.5	391.0	356
	県有林	43.0	47.0	14.0	26.0	23.0	42.0	46.0	32.0	29.6	45.0	20
	山主自力		10.0	8.0	6.0	34.0	21.0	24.0	91.0	22.6		
	市補助伐り置き	546.0	697.0	680.0	724.0	788.0	407.0	289.0	217.0	243.8		
	市補助巻き枯らし			3.0	5.0	3.0	1.0	2.0	2.0	0.0	0.0	
	市補助利用	80.0	100.0	48.0	104.0	82.0	109.0	97.0	137.0	90.1		
	公共造林				431.0	455.0	270.8	113.3	126.6	94.6	119.0	
	矢作川水源基金				197.0	218.0	156.9	163.2	139.0	155.5	119.0	89
	高齢級							4.1				
	巻き枯らし				0.0	1.0	1.2	1.5	1.8			
	水道水源保全基金				97.0	99.0	32.6	30.5	24.4	20.3	20.0	100
	市有林				108.0	100.0	55.9	75.2	64.7	39.2	31.0	
	市単独補助						6.0	6.0	2.0	24.3	106.0	15
	その他										66.0	62
恵那市	計	907.0	1048.0	1015.0	1040.0	1076.0	1299.0	1032.0	575.7	802.9	501.2	
	造林補助金							291.6	306.6	162.0	151.6	
	条件不利							656.7				
	加速化間伐								0.0	41.0		
	県税								153.4	506.0	294.9	
	美しい森林							13.2	11.3	10.2	5.8	
	保安林							29.4	48.8	28.0		
	矢作川水源基金							14.3	13.1	10.0	14.4	
	国有林							21.2	24.9	35.1	4.5	
	その他							5.7	17.7	10.6	30.0	
根羽村	計				363	398	288	247	262	215	137	
	森林造成等	416	393	346	230	226	265	166			103	
	治山保安林	84	91	33	77	24	27				27	
	緑資源公団	4	16	13	57	26	10	8				
	村単独					26	27	6				
	その他	18	3			16	23	13			8	
	素材生産業者分											
	根羽村の値の計	522	502	392	364	318	352	193				
	長野県の値				363	398	288	247	262	215	137	
								2013年は聞き取りによる推定値				
平谷村	計				191	321	210	207	280	250	26	
	森林造成等										18	
	治山保安林											
	緑資源公団											
	村単独											
	その他										8	
	長野県の値				191	321	210	207	280	250	26	
	飯伊森林組合の値						61	66	60	73	57	
								2014年は下伊那地方事務所からの報告				

注
数値は県の林業統計書数値を引用
数値の内訳は不明なため集計数値のみ記入
国有林はH23年からの数値を記入

2-1

平成27年度　間伐実績一覧　(豊田市森林課)

区分			面積[ha]
県事業	治山事業		79
	あいち森と緑づくり事業		356
	小計		435
市事業	間伐促進事業（公共上乗せ）		91 ✓
	間伐促進事業（市単独）		49 ✓
	市水道水源保全基金		100
	矢作川水源基金		89
	水源環境林	補助事業	20 ✓
		市単独	0
	市有林事業	補助事業	0
		市単独	15
	小計		363
その他			62
間伐実績①			**860**
県等	農林公社		33
	県有林		20
	小計		53
間伐実績②			**913**

H27年度

◆下表に示す流域の関係団体より間伐面積の推移および森づくりの事例の回答があった。流域市町村における間伐面積では、2010 年度以降減少がみられ、2014 年度には 2010 年度の半分程度に減少した。また、特徴的な森づくり等の事例では、長野県下伊那地方事務所、恵那市、安城市より情報提供があったが、矢作川流域圏には他にも特徴的な森林と巨木・並木があるものと推察される。そこで、WG においても部会員の情報提供を募ることにした。マップ上にこれらの地点を配置すると、矢作川流域圏の特徴的な巨木・並木は上流域の山間部だけでなく、安城市や西尾市の下流域にも分布することがわかった。

表　森づくりに関する事例等の提供依頼先一覧
（敬称略）

依頼先	
中部森林管理局	森林整備課長
愛知県	西三河農林水産事務所長
	豊田加茂農林水産事務所長
岐阜県	恵那農林事務所長
長野県	下伊那地方事務所長
平谷村長	小池　正充
根羽村長	大久保　憲一
恵那市長	可知　義明
豊田市長	太田　稔彦
岡崎市長	内田　康宏
西尾市長	榊原　康正
安城市長	神谷　学
幸田町長	大須賀　一誠
碧南市長	禰宜田　政信

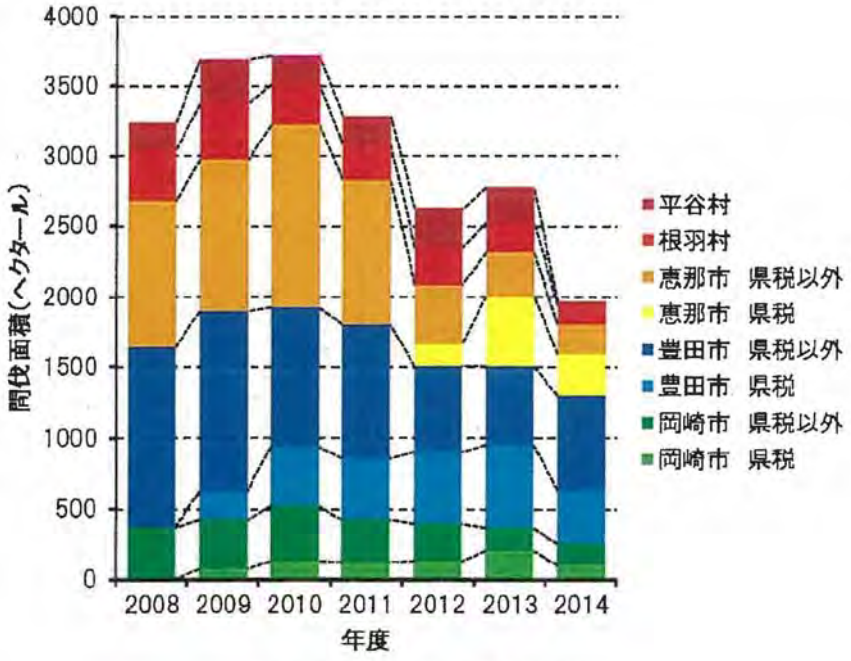


図　流域市村の間伐実績の推移

3

資料　2

２０１６．７．２２

森づくりガイドラインの策定へ向けて

蔵治光一郎

【背景】

１．矢作川流域圏内における中規模製材工場の稼働（３万～５万立方メートル／年、2018年度稼働開始予定）→　皆伐が増加する可能性

２．豊田市森づくり構想の見直し（2016～17年度）

３．岡崎市水循環推進協議会緑のダム部会が市長からの諮問に対する答申（2015～16年度）

【ガイドラインに盛り込む内容の案】

１．矢作川流域圏の森づくりについての基本的な考え方（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）

２．皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20年後に崩壊リスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、ニホンジカ食害リスク）

３．搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系）

４．伐り置き間伐についての考え方（置き方など）

５．渓流沿いの人工林についての考え方（流木リスク軽減のための樹木除去など）

６．尾根筋の人工林についての考え方（針広混交林化など）

７．広葉樹二次林についての考え方

８．その他

【水盤】	1-5	公共施設・公共事業における地元材の利用促進	林務課	①人道橋、東岡崎駅周辺整備など公共施設で、地元材を利用してはどうでしょうか。木は人の心を和ませるなど人にやさしい。岡崎市として公共施設利用の目標を設けて、促進したらどうでしょうか。森の駅などと協力も必要では。（檀委員） ②２「公共建築物木造化検討委員会」とは何か説明してほしい。地元産材使用のH27実績を示してほしい。（蔵治委員） ③公共施設なので地元材を利用することは大賛成しております。その上で、期待される効果に「需要を増やすことで」とありますが、木材を安価に販売するために、皆伐される可能性があります。皆伐は、安全性、環境への負荷が高くなります。市は皆伐された木材を購入するのでしょうか。市は皆伐された木材は購入しない、持続可能な林業（岡崎市の認めた林業方法など）をしているものからしか購入しないというルールを設けないと、安価に販売するために皆伐されてしまう可能性があります。間伐を促進し地元材を利用したことで、森が良くなり、持続可能な林業となるよう、森づくりと販売（利用）が連携した対応を行うことが大切だと思いますが、そのことについてはどのような対応を考えていらっしゃいますか。（長谷川委員）	①本市では公共建築物等の木材利用の促進に関する基本方針を定めており、その中で低層の公共建築物で延床3,000㎡以下のものについては原則木造化することとしている。 なお、人道橋については岡崎市産材を活用することを前提に事業が進んでいる。 ②「公共建築物木造化検討委員会」は、先述の基本方針を踏まえ、新たな公共建築物の設置にかかる木造化及び木質化についての方針を決定する機関である。H27年度では木造化及び木質化した新たな公共施設の設置実績は、百々保育園、六ツ美中学校柔剣道場、本宿小学校プール更衣室において一部木造化及び木質化が行われました。 ③皆伐は環境的な観点からみれば、ご指摘のとおり、間伐よりも環境に与える影響が大きいと考えられるため、岡崎市森林整備計画では「皆伐に当たっては、気候、地形、土壌等の自然的条件及び公益的機能の確保の必要性を踏まえ、（中略）伐採面積の規模に応じて、20haごとに保残帯を設け、適確な更新を図る。」としている。 一方で林業振興の観点からみれば、施業コストの低減及び収益の向上、かかり木による災害リスクの回避といったメリットがある。 この２つの観点のバランスをどこでとるかということが森林整備を考える上で非常に難しい点であるが、間伐などの森林整備が進まない要因の１つが「経済的にハイリスクローリターン」となっているという実情を踏まえると、コストを抑えて施業できる皆伐を完全に禁止して森林施業の選択肢を狭めることは林業にとっては打撃となり、林業従事者の減少と森林整備の縮小による環境悪化につながる恐れがあると考える。

資料3

矢作川流域圏懇談会山部会　森づくりガイドライン　資料
2016. 9. 16

近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理(ヨーロッパの例)

指標	推奨される森林管理手法
汚染物質や窒素の濃度	チェーンソー潤滑油、燃料に生分解性のものを使用
	森林内での林業機械の洗浄、メンテナンス、修理の禁止
	渓流沿いの老木、不安定な木の除去
	渓流沿いの樹木の伐採
	燃料やオイルの保管場所、灰やほこりの集積場所を水場から遠ざける
	伐採を行わない林道の閉鎖
	重い林業機械使用の最小化、渓流内では禁止
土砂流出	流域を植生で覆うこと、裸地には先駆種を導入する
	天然更新を継続的に促す
	洪水時に流路が詰まらないように老木、不安定な木、倒木、地面から剥がれた切り株を除去
	表層崩壊防止のため深根性樹種を植える
	(アッシュ、オーク、メープル、ブラックアルダー、ファー、ハイマツ、オーストリアマツなど)
	作業道、搬出路は勾配のゆるいところに作設する
	搬出路の上側にダメージを与えるような丸太搬出などの作業を避ける
	大雨のシーズンは林道を閉鎖する
	すでに急勾配で建設されてしまった林道は、コンクリートまたはアスファルトで舗装する
	通行頻度の大きい林道や林内進入路の入り口は、砕石、丸太、枝条を敷いて固める
	崩壊が起きた場所では即座に治山工事を行い、その後100年間は伐採、火入れ、土壌攪乱を行わない
	水流や取水口の近くでは雨が降らない季節に作業を行う
	大規模な林業活動を行う場合は、地域の合意を得て、水道水の取水を一時的に停止する
流量	洪水軽減機能の大きい森林は、多様な林齢の樹木からなり、樹冠が閉鎖し、垂直構造が多様で、成長段階が均等な森林である
	無立木地、ギャップ、10年未満の若年性林を流域の10%に抑える
	あらゆる場所の森林の被覆率は70%以上とする
水温	ギャップの面積を流域の10%に抑える
	渓畔域の森林の被覆率は70%以上とする
	1つのギャップの面積を0.1ha未満に抑え、天然更新させる
	「生息域の木」として、単木の老木、森林内の倒木、渓流内の倒木を手をつけずに残す

(Pilas et al.(2011)Multidimentionality od Scales and Approaches for Forest-Water Interactions, Chaprer 20, M.Bredemeier et al. (eds) *Forest Management and the Water Cycle: An Ecosystem Based Approach*, Ecological studies 212, 351-380)

資料5

２０１６．７．２２

森づくりガイドラインの策定へ向けて

蔵治光一郎

【背景】

１．矢作川流域圏内における中規模製材工場の稼働（３万～５万立方メートル／年、2018年度稼働開始予定）→　皆伐が増加する可能性

２．豊田市森づくり構想の見直し（2016～17年度）

３．岡崎市水循環推進協議会緑のダム部会が市長からの諮問に対する答申（2015～16年度）

【ガイドラインに盛り込む内容の案】

１．矢作川流域圏の森づくりについての基本的な考え方（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）

２．皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20年後に崩壊リスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、ニホンジカ食害リスク）

３．搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系）

４．伐り置き間伐についての考え方（置き方など）

５．渓流沿いの人工林についての考え方（流木リスク軽減のための樹木除去など）

６．尾根筋の人工林についての考え方（針広混交林化など）

７．広葉樹二次林についての考え方

７．その他

資料2

2016．12．8

矢作川流域圏懇談会　勉強会
神奈川県山北町森林組合の案内による森林とダムと土砂の勉強会

山部会　蔵治光一郎

勉強会の目的

酒匂川は、静岡県・神奈川県を流れる延長 113km、流域面積 570km2 の二級河川であり、酒匂川水系の河内川に造られた三保ダムは神奈川県の水需要の 30%を支えるロックフィルダムである。三保ダムの堆砂量は、平成 22 年台風 9 号、平成 23 年台風 15 号、平成 24 年 7 月前線による豪雨等により、堆砂率が 3 年連続で急増し、現在 88%となっており、ダム維持管理費（アロケーション：水道企業団 84.3%、神奈川県治水 15.2%、東京発電 0.5%）のうち、堆砂対策費が約 40%を占めるに至っており、ダムへの土砂流入を抑制するために、森林等の整備等、必要な施策を流域圏が一体となって講ずる必要に迫られている。

三保ダムは、神奈川県山北町（面積：224.7km2、森林面積：203.28km2、森林率：90%）に位置している。山北町では、神奈川県の水源環境税（39 億円／年、全国最大の予算規模）により「渓畔林再生手法開発」「対照流域法モニタリング」など、すべての事業が行われている。これらの現場を水源環境保全・再生かながわ県民会議の委員と山北町森林組合の案内により見学することで、分野横断的な視点、市民の視点から、ダム、土砂、森林の問題について、矢作川流域との共通点と相違点を現地で確認し、矢作川流域圏懇談会の今後の議論に活かしていくことを目的とする。

先方の対応者

山北町森林組合　池谷専務理事

水源環境保全・再生かながわ県民会議　坂井マスミ委員

見学会の概要

集合：　1 月 28 日（土）9:00（厳守）　中川温泉「丹沢ホテル時之栖」

前泊希望の方は、三保ダム貯水池（丹沢湖）のすぐ近くの「信玄公の隠し湯　中川温泉（PH10 の超アルカリ泉）」にある「丹沢ホテル時之栖」（露天風呂あり）での前泊を手配します（1 泊 2 食付き 10,000 円を予定）。前泊を希望する方は、1 月 27 日（金）〇〇:〇〇に〇〇に集合し、マイクロバスでの移動になります。

なお 1 月 27 日の午前中には「地域部会山部会」を岡崎市内で行います。

日程表

予定時間 (所要分)	行程内容 現地事情による変更あり	解説内容 担当
9：00-（中川） 9:15-10:15 10:30-11:15	顔合わせ（日程・資料配布） 中川川上流：白石沢 箒沢荘カフェ(町の紹介等)	自己紹介 渓畔林事業 坂井
11:30-12:15	世附川上流：崩落現場 林道復旧状況	土砂発生 森林組合
12:30-13:30 13:30-14:00	昼食：丹沢湖周辺飲食店 質疑応答・懇談 三保ダム：ダムと地域	水源環境税と森林 森林組合
14:10-15:10 15:20-15:40	玄倉川上流：小菅沢(土砂) 向沢：20年契約終了地 玄倉：高度処理型浄化槽 火山灰崩落現場：山市場：	土砂・水源林 森林組合 水質対策 坂井
15:50-16:10	道の駅：休憩	西丹沢 坂井
16:30	終了地：山北町森林組合	

【注意事項】

1．森林や河川には都市部にはない危険が存在します。

・山は足元が不安定で滑りやすいところがあります。滑りにくい足に合った靴を履いてください。

・崩落した地点付近には近寄らないでください。

・山には春から秋までヤマビルがいます。足首の上まである靴下をはき、忌避剤をスプレーしてよい靴でご参加ください。ハチなどの虫もいます。刺激しないよう、黒っぽい服装は避け、また近寄ってきてもむやみに動かず、じっとして飛び去るのを待ってください。

・林業現場では山で目立つ色の服装と手袋をご準備ください。帽子・飲料・防寒等の対策もお願いします。

・河川の増水や天候の急変、自治体からの避難勧告や指示が出た時は、即時に中止します。

2．道路凍結等危険が予測される場合、車輌を停め、徒歩による移動をお願いすることがあります。

2

参考：自然災害史

(1)大正 9 年 8 月　　西丹沢　　集中豪雨

(2)大正 12 年　　関東大震災

(3)昭和 12 年　　東丹沢、他　大出水

(4)昭和 47 年 7 月　　西丹沢　集中豪雨(山北災害)

矢作川流域で 47 災と呼ばれている豪雨と同じ時に発生

(5)平成 22 年 9 月 8 日　台風 9 号　西丹沢、他　集中豪雨と富士の火山灰地の崩落

過去の水難事故

1999 年 8 月 19 日、上流の玄倉川流域でキャンパーがダムの放流水に流され、13 人が亡くなった。

2006 年 8 月 17 日、上流の静岡県御殿場市や小山町で局地的な豪雨が起こった。このため鮎沢川では急激な水位の上昇が起こり、下流で釣りをしていた 25 人が逃げ遅れて流されたり、中州に取り残されたりした。そのうち 2 人が岸までたどり着けずに溺れ行方不明になっていたが、1 人が神奈川県小田原市で、1 人は河口付近の海上で遺体として発見された。

資料3

ご依頼内容確認書（案）

神奈川県足柄上郡山北町山北 2833
山北町森林組合
電話 0465（75）3955　FAX（42）9905

行事名：　西丹沢見学会　　目的：水源環境保全税と森林組合・土砂発生現場

ご依頼者（領収証宛先）：　アジア航測株式会社　　様

実 施 日：　平成２９年１月２８日（土）　ご参加者氏名　大森正昭含み、　男 20 名：女４名

予定時間 （所要分）	行程内容 現地事情による変更あり	解説内容 担当	そちらでご手配 いただく内容	経費：お 支払方法
9：00 9:15～10:15 10:30-11:15	顔合わせ（日程・資料配布） 中川川上流：白石沢 箒沢荘カフェ（町の紹介等）	自己紹介 渓畔林事業 坂井	案内料 10,800 円	現金 各自支払
11:30-12:15	世附川上流：崩落現場 林道復旧状況	土砂発生 森林組合		
12:30-13:30 13:30-14:00	昼食：丹沢湖周辺飲食店 質疑応答・懇談 三保ダム：ダムと地域	水源環境税 と森林 森林組合	 ダムカード：希望者	各自支払
14:10-15:10 15:20-15:40	玄倉川上流：小菅沢（土砂） 向沢：20 年契約終了地 玄倉：高度処理型浄化槽 火山灰崩落現場：山市場：	土砂・水源林 森林組合 水質対策 坂井		
15:50-16:10	休憩：道の駅	西丹沢 坂井		お買い物
16:30	終了地：山北町森林組合			

【注意事項】

1．森林や河川には都市部にはない危険が存在します。事前に周知徹底し、注意を促してください。
- 山は足元が不安定で滑りやすいところがあります。滑りにくい足に合った靴を履いてください。
- 崩落した地点付近には近寄らないでください。
- 山には春から秋までヤマビルがいます。足首の上まである靴下をはき、忌避剤をスプレーしてよい靴でご参加ください。ハチなどの虫もいます。刺激しないよう、黒っぽい服装は避け、また近寄ってきてもむやみに動かず、じっとして飛び去るのを待ってください。
- 林業現場に入る場合は手袋や手ぬぐい等をご準備ください。帽子・飲料・防寒等の対策もお願いします。
- 河川の増水や天候の急変、自治体からの避難勧告や指示が出た時は、即時に中止します。

2．道路凍結等危険が予測される場合、車輌を停め、徒歩による移動をお願いすることがあります。

3．保険加入などは、事前に貴団体にてお手続きください。

注意事項を確認し、以上の内容で依頼します。

平成　　年　　月　　日　ご住所　豊橋市中野町字平西１－６

団体名　矢作川流域圏懇談会（事務局：国土交通省豊橋河川事務所）

連絡先☎（ご担当）事務局　大森、宇野（0532-48-8107）

事務局補佐　アジア航測（株）　中田、石原

開催概要

1.【ご要望】

(1) 水源環境保全税の事業地

・渓畔林
・水源林
・林業、搬出
・土壌保全(スコリア・県有林)
・水質対策

(2) 三保ダムの土砂流入状況

・対策と上流の状況

2.【ご依頼者】参加者を募集中

3.【各事業概要・第2期5か年計画概算額・(主な事業内容)】

(1) 水源の森林づくり 67億4900万円 (一般競争入札、長期施業受委託、森林塾)

・後継者問題
森林塾卒業生
世代交代
平成39年度以降も残る条件
・平成39年度以降の展望
所有者の意識
・地代
・林家と森林組合の役割
・森林経営か伐採業か
・時代の流れ
・将来展望 木材価格と需要創出、材の品質確保
・一般会計との関係 林業職の意識と育成 フォレスター不在 経営とも林学とも乖離
・土壌保全 丹沢という山の成り立ち、宝永の火山灰

(2) 丹沢大山 12億8400万円 (山ゴミ、土壌流出、ワイルドライフレンジャー)

・レンジャー:一般競争入札の1年契約
・土壌流出対策、リター調査、ブナ林調査と薬剤使用(堂平)

(3) 渓畔林 8000万円 (県有林内渓畔林のうち、杉の人工林)

・間伐、鹿柵、丸太筋工
・試行の後、整備の手引き作成

(4) 搬出促進 12億8500万円 (日本一高い搬出助成金)

・日本一高い搬出コスト 作業道指針がない山
・流通—加工の川上から川下のプロセス破壊
・平成39年度以降に向けた対策の担い手

2

（５） 地域水源林　31 億 4000 万円　（県がお金を出して市町村が整備する）
・進む市町村の林務担当者の手薄
・県に依存する体質が定着
・県が整備した森林への見回り手薄
・第 3 期の予算拡大

（６） 河川・水路の自然浄化　17 億 7100 万円　市町村に指導・助成する
・ダム下から取水堰までの浄化、浄化槽助成
・ダム下から取水堰の間の下水道整備見直し地区まで含む
・H25 整備指針による整備

（７） 地下水　3 億 2200 万円（秦野、箱根、足柄平野）
・秦野盆地（過去の調査と現在の対策）
・温泉地学研究所の調査（足柄平野）
・温泉地学研究所の支援（箱根町）

（８） ダム集水域の公共下水道整備促進　13 億 7100 万円
・過疎地で本来進めるべき事業の縮小が進まない
・ダム下との不整合

（９）ダム集水域の高度処理型合併処理型浄化槽 20 億 7600 万円（高度処理型の 100％普及）
・相模川と酒匂川のダム上流域の人口の違い
・相模川水系のダム湖と丹沢湖のダム水質の違い

（１０）相模川水系上流域　3 億 6500 万円　　H24～　山梨県への助成
・森林整備の半額
・桂川清流センターの脱リン装置

（１１）水環境モニタリング　8 億 5700 万円
・自然環境保全センター　対照流域法　4 か所
・環境科学センターの生物調査
　他にセンター独自に化学物質調査

（１２） 県民参加　2 億 3000 万円
・県民会議
・フォーラムチーム
・コミュニケーションチーム
・モニターチーム
・施策調査専門委員会
・市民事業専門委員会）

3

資料4

日程（案）

矢作川流域圏懇談会　勉強会
神奈川県山北町森林組合の案内による森林とダムと土砂の勉強会（移動はマイクロバス）

○1日目　：1月27日（金）

豊橋駅、JR岡崎駅にて迎え
10:00～12:00　山部会地域部会（ぬかた会館）
12:30　出発
12:40　新東名高速道　岡崎東IC
長篠設楽原PAにて昼食（40分）
駿河湾沼津SAにて休憩（20分）
15:50　新東名高速道　御殿場IC
16:30　中川温泉「丹沢ホテル時之栖」　着

中川温泉「丹沢ホテル時之栖（たんざわほてる　ときのすみか）」　泊
神奈川県足柄上郡山北町中川448-2
（1人1泊　夕食・朝食付き　1万円の予定

○2日目　：1月28日（土）

9:00　中川温泉「丹沢ホテル時之栖」出発
16:30　山北町森林組合
16:45　東名高速道　大井松田IC

19:45　東名高速道　豊川岡崎IC

JR岡崎駅、豊橋駅にて送り

4. 木づかいガイドラインについて

平成 28 年 6 月 15 日
13:30～
豊田市職員会館

木づかいガイドライン作成資料について

1　平成 27 年度　木づかいガイドライン活動総括について

2　平成 28 年度　木づかいガイドラインの活動方針について

3　木づかいガイドラインの原稿作成について

4　木づかいライブ　スギダラキャラバンについて

5　応急仮設住宅の建築体験について

6　その他

1　平成27年度　木づかいガイドラインの活動総括について

① 平成26年度の総括は「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を行うことにより、広く市民に対して矢作川流域材の活用による「木づかい」推進を図ると共に、流域の方々が連携して地域の生活空間を自らのアイデアと行動でスギダラケにしていこう、ということであった。

② 平成27年度はこの総括に基づき、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合が中心となって「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を実施し、里山市民グループ・地域の団体等と連携しながら、流域内の様々なイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成するよう努めた。その実施内容は別紙のとおり

③ 特に本年度は、木づかい推進活動を通して、豊田市、安城市、岡崎市、恵那市の各行政機関と連携の輪が強化されると共に、豊田市フリーペーパー誌との協働企画による木づかい推進活動を行い、今後の新たな展開力を得られたものが多かった。

④ 中でも、安城市デンパーク、豊田市駅前での「あそべるとよたプロジェクト」における木のアイテム展示・木工作体験等による木の魅力や楽しさの発信は、改めて「木」は多くの方々を魅了するものであること、集客効果をもたらす「プレイスメイキング＝場所の力づくり」にも大きく貢献するものであることが認識できた。

⑤ 同時に、スギダラ天竜支部とのコラボである「矢作川流域ものさし」やスギダラ商品の一環として「動く木のおもちゃ」、「貸切風呂　根羽の湯」、「根羽物置」等、木のアイテムの開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案した。

⑥ 部会では別紙「山部会　木づかいガイドライン作成の取組整理表」を作成して活動内容を整理した。その内容は次のとおり。今後、ガイドラインの作成を中心として、最終目標である矢作川流域内の木を活用した木づかいの定着に向けた様々な活動を展開し、これらの活動と併せて適切な森林整備、水資源の安定供給、林産業の振興、地域の活性化等に結びつけたい。

　① 木づかいの楽しみや取り組みを紹介するガイドラインの作成
　② 木の魅力と楽しさを地道に市民に伝える「木づかいライブ　スギダラキャラバン」の継続的な取り組み
　③ 木のある暮らしを楽しむための様々な木のアイテム提案・開発
　④ 矢作川流域内の木を活用した木づかいの定着「矢作川ディス」、「木づかい市民活動」、「フェアトレード」、「流域連携」への展開

2　平成28年度　木づかいガイドラインの活動方針について

① 平成26年度に作成した提案型「木づかいガイドライン　さあ～しよう」の原案を基本に、各提案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う

② 「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく

③ 並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合がまとめ役となって、里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、流域内の様々なイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する

④ 「木づかいライブ・スギダラキャラバン」開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく

⑤ 同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る

⑥ こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動で身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす　森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイル　矢作川ディズ」を確立する

⑦ 具体的な活動内容は、別紙「山部会　木づかいガイドライン作成の取組整理表」にに掲げた内容等とし、これらの実施内容もそれぞれの事業主体に応じて「木づかいガイドライン」の掲載していくものとする

平成 28 年 1 月 15 日

山部会　木づかいガイドライン作成の取組み整理表

区　　分	主 体 者	内　　容
木づかいガイドライン	市民 行政 業界 研究者	「さあ～しよう」提案
木づかいライブ　スギダラキャラバン	根羽村森林組合	別紙　スギダラキャラバンの実施 スギダラ天竜支部との連携 木の魅力と楽しさを「森の民」が伝える 木製品の受注販売 木づかい推進の取り組みに対する公的資金による支援(公園等の木づかい推進拠点)
-4- 様々な木のある暮らしのアイテム提案	根羽村森林組合	どこでもシリーズ　→　水平展開から垂直展開へ 動く木のおもちゃ　→　木の魅力に釘付け・木の魅力への導き 流域ものさし　→　全国共通アイテム化・私の流域甲子園 根羽物置　→　手が届く価格・実用的・自由設計・自分で建てられる 安曇野市　中房温泉　貸切風呂「根羽の湯」　→　露天風呂交流・青少年の動機付
矢作川ディズ・木づかい市民活動・フェアトレード・流域連携	あそべるとよたプロジェクト 流域フェス 豊田市 市民 東幡豆漁業組合と根羽村森林組合 安城市と根羽村森林組合 中房温泉と根羽村森林組合 信州大学等と根羽村・根羽村森林組合 豊田市製材工場と根羽村森林組合 流域内工務店と根羽村森林組合	市民提案・参加型プレイスメイキングによる流域連携の拠点創設 流域連携イベント　→　市民活動に向けたキックオフ 川会議による流域連携 私の流域物語・スギダラキャラバンへの参加による木の魅力の気づき 漁礁及び憩いの浜辺プレイスメイキング(場所の力づくり) 木材利用指針・公的資金支援・カーボンオフセットを原資とした木づかい推進活動 愛知県小中学生を対象とした温泉・山岳・森林・木づかいファンづくり 流域資源活用・持続可能な流域づくりのための流域内知の集積ツアー お互いに補完しあう矢作川流域材の生産・流通 木づかい推進活動と連携した「子供の時から始める木の家づくり物語」 テーマ性・デザイン性・遊び心満載の二地域居住者向けコンパクト住宅

木づかいガイドライン作成・活動方針（案）

1　木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について

提案者・モニター・場所についての考え方は下表のとおりとして、共通認識を持って、その役割を担う方・場所を選定したい

区　分	内　　容
提案者	・すでに木づかいの実績のある方 ・その取り組みが将来的な木づかい推進に結びついている方 ・心から本心でその木づかいに取り組まれている方
モニター	・その提案に対する見込客と考えられる方 ・その木づかい推進の中心的な対象（年代）と考えられる方 ・その方に教えると多面的な展開が期待される方
場所	・その取り組みの実績がある場所 ・その取り組みを発信する際、中心的な方・組織の存在する場所 ・その取り組みの活動拠点が作れるところ
イベントの性格	・木づかい需要創造イベント ・木づかい体感・センスオブワンダーイベント ・木の感謝祭イベント

2　木づかいガイドラインの原稿依頼について

木づかいガイドラインの原稿依頼については、次のとおり共通認識を持ちたい

・提案者は上記のモニターと一体となって、その取り組みを広げていく「木づかいの潮流」を意識して、原稿を作成する

・特にモニターを「見込客」と意識することから、モニターに何を感じてほしいか、興味を持ってもらい点は何か、を明確にして提案する

NO	原稿依頼者	テーマ	時期

・当面、すぐに記載が可能な根羽村森林組合・豊田森林組合からスタート

・趣旨の説明文

・ガイドラインの案内文

3　木づかい推進・木づかいガイドライン事業の各市町村連携による予算化について

今後の「木づかい推進・木づかいガイドライン事業」を進め、木づかい推進による「地域森林資源の整備と活用」、「木づかい上下流連携によるフェアトレードの実現」、「木づかい推進スタイルの確立による持続可能な地域づくり」等、実効性を高めるためには、矢作川流域圏懇談会に参加されている各県・市町村・関係団体の持続的・共通認識的な予算化による支援が必要と考えられる。

そこで、こうした各関係団体が「木づかい推進」の必要性を認識し、予算化しやすくするため、国土交通省及び「山部会からの提案＝各県の木づかい推進を願う市民」からの声として、矢作川流域圏懇談会に参加されている各関係団体へ「木づかい推進・木づかいガイドライン事業」の予算化を要望していきたい。そのまとめ役は国土交通省とし、その内容（案）は以下のとおりである。

予算依頼者	事業名	ポイント
県	・木づかい推進活動拠点支援事業	・木づかい推進に必要な活動拠点となる施設・空間の提供・設置に対する支援 ・木づかい推進活動の「道の駅」利用に対する斡旋
市町村	・木づかい推進活動支援事業	・木づかい推進活動に必要な人件費・試作材料費・活動場所提供等に対する支援
団体	・木づかい推進事業	・木づかい推進・普及を図るための独自予算化

平成 28 年 6 月　日

（ 案 ）

関 係 者 各 位

矢作川流域圏懇談会
山部会座長　蔵治　光一郎

「木づかいガイドライン」等の原稿作成について(協力依頼)

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、国土交通省豊橋河川事務所所管の「矢作川流域圏懇談会」では、長野県から愛知県に至る矢作川に関連する様々な課題を解決し、流域にすむ私達の暮らしを豊かにするため、平成 22 年度から山、川、海の 3 部会を創設して、市民や各関係者が定期的に集まって検討を進めています。

特に山部会においては、上流域の森林資源を下流域で活用することが、森林整備の推進や水源かん養機能の発揮、地域振興に結びつくことから、「森づくり」や「木づかい推進」をテーマに継続的な活動を展開しています。

そこで今後、矢作川流域内で「森づくり」、「木づかい推進」活動をより積極的に展開していくきっかけとして、皆様ひとり一人の先進的な取り組み・考え方を「木づかいガイドライン」等として取りまとめ、広く流域市民に紹介していきたいと思います。

ついては、当趣旨をご理解いただき、下記のとおり原稿を作成の上、取材担当者にお渡しいただきますようよろしくお願いします。

記

1　事例紹介原稿　　市民編、市町村編、業界編、研究者編のどれかを選択してください

2　提 出 期 限　　平成 28 年 11 月 30 日までに取材担当者に提出してください

3　取 材 担 当 者　　こちらで紹介させていただきます

〒441-8149
愛知県豊橋市中野町字平西 1-6
国土交通省豊橋河川事務所
担　当
TEL　0532-48-8107
FAX　0532-48-8100
Email　uno-t85aa@cbr.mlit.go.jp

（例）

今すぐはじめる木のある暮らし

矢作川流域　「木づかいガイドライン」

矢作川流域圏懇談会

木づかいガイドラインを始めて手にした方々へ

「木のある暮らし」を始めるためのガイドラインの楽しみ方

「木づかいガイドライン」はあなたが主役になって、あなたのライフステージを「木のある暮らし」に変えていく楽しい提案がたくさんのっています。最初は、あなたが取り組めそうなテーマを選んで、ご自身自ら楽しんでみてください。テーマは様々な木つかいから、森に出かけていって楽しむものまでとてもたくさんあります。

あなたが「木のある暮らし」の扉を開くと、そこには森や、森や木に関わる人達のとても大きな人の輪につながる無現の世界が広がっています。　その世界は、あなたの心の中にきっととても魅力的で豊かな時間を作りだすことでしょう。

木の楽しみの原点は何でしょうか。それは、自分の好きな木を使って、自分の思い通りに様々なものをつくることができることです。木を手に取って、まず木の温もりを感じてください。その木と友達になってください。木の木目や色合いや香りを感じてください。そこから、あなたが木と共に過ごす時間と比例して自然に高まる知識や技能を楽しんでください。今まで知らなかった魅力的な世界が目の前に一杯広がっていることをあなたは感じることでしょう。自らの手づくりよって「木のある暮らし」を始めることによって、木と友達になって自分の時間を作り、そして自らの知識と技能を高めて「生活の品質」を高めてみてください。

いくつものテーマの中で、あなたができるようになったもの、それは、今度あなたがその場面で主役になれるということです。そのテーマの技術を使って今度はあなたが主役になって木の魅力を多くの人に伝えてほしい、と思います。そこで、なにか課題を感じたらこのガイドラインにのっている方々に相談してみてください。きっと、参考になるたくさんのヒントを教えてくれることでしょう。また、新しく得られた知識・経験・技能は木づかいガイドラインに提案してください。皆で、矢作川流域の木づかいの場面や品質を高めていきましょう。

木づかいガイドラインを作った私達は、これから矢作川の流域圏を活動対象とした「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を開始します。この取り組みはできる限り、各地域のイベントやお祭りなどの時に、木を楽しむイベントを開催して、木の魅力を伝え、同時に木づかいガイドラインも配布して、木のファンを増やしていくことが目的です。このイベントに皆さんが参加され、一緒に木のお祭りを各地で展開していきましょう。あらゆる立場の方々がその立場の垣根を越えて「木づかい」で新たな絆を結びつけていきましょう。そして、流域に住む住民が協力しあいながら、矢作川の流れと共に魅力ある「木のある暮らし」を進める「矢作川ディズ」を楽しみましょう。

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす
森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い
矢作川ディズ～

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の３県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

根羽村の子供が魚つかみの先生です

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。

山村の若者たちが楽しい出会い企画を作りました

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそ

れを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。

住民によって整備された矢作川古川水辺公園

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていたくなる魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（市民編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
いつ	
どこで （位置図）	
内　容	
対象者	
対応する者	
面白い点 魅力的なところ	
必要な時間	
必要な金額	
準備するもの	
イメージ（映像）	
お薦めポイントは	
参加者からのレビュー	

対象年齢	衝撃度	神秘度	リピーター率	安全性	ステージ表

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（市町村編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
内　　容	
対 象 者	
対象者の条件	
魅力的なところ	
必要な時間	
必要な金額	
準備するもの	
イメージ（映像）	
お薦めポイントは	
利用者からのレビュー	

対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（業界編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
内　　容	
対 象 者	
対象者の条件	
魅力的なところ	
必要な時間	
必要な金額	
必要なメンテナンス	
イメージ（映像）	
お薦めポイントは	
利用者からのレビュー	

対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（研究者編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
内　　容	
対 象 者	
研究の魅力的なところ	
必要な時間	
事 業 費	
イメージ（映像）	
研究のお薦めポイントは	
研究者からのレビュー	

市民貢献度	衝撃度	おすすめ度	他県普及性	発展性

木づかいガイドライン　市民編Ａ（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	根羽
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
3	自分でマイお箸を作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	ネバリン	小学生	根羽
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	根羽小	大人	根羽
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	ネバリン	小学生	根羽
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	根羽小	小学生	マイルーム
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	原っぱ
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	丹羽	ファミ	恵那
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう（サクラ山・花の山）	伐採者秀美	新婚	根羽
11	木の幹（マイツリー）にハンモック（どこでもマイウッドデッキも）を吊るして涼しく昼寝してみよう・山の中のコーヒータイムを楽しもう	丹羽・ハンモック 2000	ファミ	恵那
12	ツリーハウスに遊びに行こう	豊中建設	ファミ	根羽檜原
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	ネバリン	女子	根羽檜原
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	根羽小	女子	お風呂
15	日本の代表 50 種の樹木を覚えよう（葉の標本づくりにチャレンジ）	豊田森組	大学生	豊田
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	豊田森組	小学生	豊田
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう（中房温泉）	中房温泉沖・松井	熟年・青年	安曇野
18	チェンソーアートを学ぼう	ネバリン	青年	根羽
19	色々な木のおもちゃづくりや木工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
20	きれいな川で遊ぼう	ＪＴＮ	小学生	根羽
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	こもれび	女子	根羽
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう（ブックレビューもつくろう）	ネバリン	読書人	安城
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう（信州大学農学部ゆりのき）	信・名大生	高校生	信大・名大
24	筏（ボート）で川下りにチャレンジしてみよう	筏隊・アル	中学生	岡崎・飯田
25	木のお店案内ブックをつくろう・木のアンテナショップに遊びに行こう	沖・松井	お仲間	流域内
26	スギダラチームの輪を広げて全生活空間をスギダラけにしよう	若杉・丹羽・今村	木の人	豊田駅・トヨタ自・アイシング・ルーフ・安城市
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	星と森の人	小学生	根羽森沢
28	木の科学実験で木を良く知ろう・木を使おう・木を楽しもう 輪っぱ弁当箱づくりにチャレンジしよう	根羽小	小学生 ファミ	エコフルタウン根羽

29	自分達の力で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	南木	山親父	根羽・豊田
30	自分達の力で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	山岳会・店	豊田隊	根羽・豊田
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	矢作川研	豊田人	豊田
33	木の小屋においでよ（中村好文さんと連携）	中村好文	開拓者	遊休農地

木づかいガイドライン　県・市町村編B（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェンソーによる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
4	山主自力間伐講座に参加してチェンソーを使って自分の山を間伐しよう	豊田森組	豊田人	豊田
5	セミプロ林業作業者養成講座に参加して林業就業者を目指そう	豊田森組	豊田人	豊田
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	豊田森組	豊田人	豊田
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	豊田森組	豊田人	豊田
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	各森組	森林所有者	豊田他
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を建てよう	各県	お施主	各県
16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	各県・工務店	お施主候補	各県
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	豊田・根羽・工務店	市町村	豊田・根羽
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	各県	市町村	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	根羽村	お施主候補	根羽
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	ネバリン	各NPO	根羽
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	根羽村	村民	根羽
22	根羽スギ柱材50本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	根羽	お施主	根羽
23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	ネバリン	森林所有者	根羽
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	各森組	小中学生	全市町村

25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	ネバリン	市町村	根羽
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう（豊田市・番外飯田市）	豊田飯田	市町村	豊田・飯田
27	長野県　信州型エコ住宅推進事業　50～80 万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
28	長野県　信州型住宅リフォーム促進事業　20～50 万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
29	岐阜県　産直住宅建設支援制度　105,000 円相当の木材支給を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
30	岐阜県　ぎふの木で家づくり支援事業　20 万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
31	岐阜県　ぎふの木で内装木質化支援事業　10 万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
32	岐阜県　ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
33	愛知県　あいち認証材利用促進事業　構造材・造作材等 8,000 円/㎥の助成	愛知県	お施主候補	岐阜
34	材料施工分離発注方式で適正な木材製品価格で計画的に建築材料を入手しよう	豊田市	各市町村	豊田

木づかいガイドライン　業界編C（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	ネバリン	中・高校生	根羽
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	ネバリン	信大・名大・岐阜女子大他	根羽
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	ネバリン	山の人	根羽
4	森づくりの達人（森の民）になるために様々な技能を身につけよう	各森組	山の人	全流域
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	豊田森組	森林所有者	豊田
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう（オーダーメイドの山づくり）	ネバリン	秀美	根羽
7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	各森組	山の人	全流域
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	ネバリン	山の人	根羽
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	根羽・恵南	山の人	根羽・恵那
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	洲崎	女子	豊田
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	お施主	お施主候補	全流域
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	阿部建設	ファミ	根羽
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	阿部建設	ファミ	根羽
14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	販路開拓	ファミ	長野
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞き	事例集	市民	全流域

	にいこう			
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	ネバリン	山の人	根羽
17	住宅建築フェアを見に行こう	ネバリン	お施主候補	開催地
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	ネバリン	保育園	東京
19	ナイス企画　需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	ナイス	市民	豊田
20	ナイス企画　ナイスパワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	ナイス	市民	豊田
21	木曽川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	ナイス	市町村	豊田
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	ネバリン	山の人	全流域
24	スギダラどこでもシリーズで世の中をスギダラけにしよう	ネバリン	市民	全流域

木づかいガイドライン　研究編D（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	信大	市町村	根羽
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	信大	市町村	根羽
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	信大	山の人	根羽
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	信大	森林所有者	根羽
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	信大	女子	根羽
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	信大	市町村	根羽
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	実践者	対象者	根羽
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	信大	市町村	根羽
9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	ネバリン	集落	根羽
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	ネバリン	工務店	根羽

（様式第１号）（第５関係）

信州の木活用モデル地域支援事業実施計画書

28根振第　　号
平成28年5月9日

林務部長　殿

長野県下伊那郡根羽村1762
根羽村
村長　大久保　憲一

平成28年度において、信州の木活用モデル地域支援事業を実施したいので信州の木活用モデル地域支援事業実施要領第５第１項の規定により、事業実施計画書を下記のとおり提出します。

記

１　信州の木活用モデル地域支援事業実施計画書
　　別紙事業計画書のとおり

２　その他添付書類
　　事業主体の規約及び構成員等がわかる書類
　　事業の公益性、確実性、有効性、発展性、地域の主体性、情報発信性　等について、それぞれ優位性を記した書類

（別紙）

事業計画書

1　事業の目的

根羽村では長野県内をはじめとして、矢作川流域市町村等を対象に村内の森林資源を活用した林産業により、木造住宅の建築部材や「身近に木のある豊かな暮らし」をテーマに、様々な木のアイテムを提供する等の木づかい推進を進めているところである。

今年度は、根羽スギ等を活用した「移動式林業教育ジオラマ」、「流域・上下流連携交流人口拡大促進自転車ラック」及び「私の流域物語木札」をモデル的に製作する。

「移動式林業教育ジオラマ」とは、昨年度から実施している「木づかいライブスギダラキャラバン」という木のアイテムの展示と木工作体験イベントに新たに林業のイメージを持ってもらうために設置する「根羽スギを使用した林業の情景立体模型」であり、長野県及び愛知県等の児童やそのファミリーを対象にして、子どものときから身近な森林で行われている森林整備や林業の仕組みを可動式の林業情景模型によって伝え、「南信州と矢作川流域で行われている林業」に興味関心を持ってもらうものである。

「流域・上下流連携交流人口拡大促進自転車ラック」とは、豊田市の自転車愛好家グループ「しもやま再来るプロジェクト」が考案したロードレーサー用「自転車ラック」のことで、これを根羽村森林組合との共同企画で愛知県内や南信州の店頭に置いて普及させることにより、間伐材の有効活用ＰＲと、最近人気が高まっているロードレーサーによる長距離ツーリングの駐輪に対応するものである。このことによって、高価なロードレーサーを安心してライダーの目につくところに駐輪させることができると共に、ライダー受け入れ店の意思表示による地域店舗の収入アップや、汗臭いロードレーサーライダーに対しては、安心して立ち寄れるお店という安心感を与えることができる。こうした「自転車ラック」を置いたお店を組織化して、矢作川流域連携及び上下流連携による交流人口を拡大し、県境を越えた民間の一体的な地域連携により地域経済発展のきっかけとしたい。

「私の流域物語木札」とは、上記の「自転車ラック」を設置したお店に立ち寄っていただいた際に、原則的にそこの郷土樹種の木の札を渡すもので、この木札をたくさん集めてもらうことにより、様々な各地域の魅力を見つけてもらうものである。できる限り里山の様々な樹種を用意して、そのお店固有の木札を用意することによって、ロードレーサーライダーは木札コレクターとして楽しみながら、矢作川流域や南信州の魅力を楽しむことができる。将来的に「しもやま再来るプ

ロジェクト」と根羽村森林組合等が協働して、そうして木札を集めていただいた方々との交流イベントを開催して、各人が魅せられた木やその地域の特色、そしてライダーによる「私の流域物語」を各人で発表していただきながら、継続的に交流人口の輪を広げたい。

また併せて、こうした交流イベントの際に、昨年度当事業で取り組んだ、スケール長を矢作川河川延長の縮小版を基本とし、流域内の樹種を組み木とした「流域をひとつにする矢作川流域ものさし」を製作体験していただき、流域内の多様な森林資源についての理解を高めたい。

2　事業計画

（単位：千円）

事業種目	事業内容	事業費	事業費の内訳			工期	
			県費補助	自己資金	その他	着手（予定）年月日	完了（予定）年月日
県産材・道の駅等販売促進モデル	移動式林業教育ジオラマと流域・上下流連携交流人口拡大促進自転車ラック等製作事業	3,300	2,500	800		28.8.1	29.3.29
		3,300	2,500	800			

（注）　1　事業種目の欄は、事業実施要領第4に規定する項目から選択し記載すること。

2　事業内容の欄は、活動の内容がわかるように記載すること。（添付資料でも可）

3　収支予算

（収入）

（単位：千円）

区分	予算	（決算）	（差引増減）	備考
県費補助	2,500			
自己資金	800			
その他				
計	3,300			

（支出）

（単位：千円）

予算科目	予算	（決算）	（差引増減）	経費の内訳
賃金	300			別紙のとおり
製作料	3,000			〃
計	3,300			

（注）　1　予算科目の欄は事業実施要領第6に規定する補助対象経費を記載すること。

４　事業完了（予定）年月日

平成29年3月29日

（参考様式）

申請者名　根羽村

事業名	林業教育ジオラマと自転車ラック等製作事業
事業種目 (いずれかにチェック)	□地域分散型木質バイオマス等利用促進モデル □木の香り漂う街並みづくりモデル ○□県産材・道の駅等販売促進モデル
実施箇所	長野県・愛知県でのイベント展示及び各店舗における設置・販売
事業の詳細	**1　事業目的** **（事業を行う背景・課題・必要性を記載すること）** **背景・課題** 根羽村では、根羽村森林組合から根羽スギ等の住宅建築部材を年間約130棟程度、工務店等へ販売しているところである。今後、さらに根羽村の森林資源を活用した木づかい推進を図るためには、建築部材以外に県民のライスタイルの中で活用される木製品の開発や、長野県の自然の魅力の中で木製品と楽しく過ごせる時間を意識した、観光客等に喜んで利用していただけるインパクトのある木製品を提供していく必要がある。 また今後、根羽スギを取り扱っていただける工務店を確保していくためには、根羽村が県内や愛知県等の保育園・小学校を対象とした木育活動を推進し、木の楽しさや魅力を特に子どもやそのファミリー層を対象として重点的に伝え、木のファンとして育成していく必要性がある。また、里山に存在する身近な美しい景観等の小さな魅力を伝え、交流人口の拡大を図るためには、すぐに通過してしまう車での旅よりも、最近増加しているロードレーサーライダーによる主体的なツーリングにスポットを当てて、新たな展開を試みることが望ましい。 このため、「木づかいライブ　スギダラキャラバン」で現在不足している林業ＰＲのために「移動式林業教育ジオラマ」、愛知県、長野県との流域・上下流連携による交流人口の拡大を目指した「自転車ラック」、それをさらに促進する「私の流域物語木札」を製作したい。 **2　事業内容** **（実施の時期、場所、規模、方法等について具体的に記載すること）** 根羽村では「身近に木のある豊かな暮らし」を推進するため、根羽村、根羽村森林組合、根羽村商工会、シルバー人材、根羽村小学校、NPO「ねばりん」等を構成員とする「ネバリン特殊木工部隊　スギダラ」を組織し、全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支部を発足させ、県民のライスタイルの中で活用され、かつ観光客

等に喜んで利用していただけるインパクトのある木製品を開発してきた。
今回「林業教育ジオラマ」、「自転車ラック」、「木札」を製作し、イベント等による巡回展示を行う他、オーダーに応じて製作販売を行う。

① 「移動式林業教育ジオラマ」 1セット製作・展示・販売
時期:平成28年8月1日～3月29日
展示:根羽村ネバーランド(1セットのため巡回設置)
根羽村保育園・小学校
豊田市浄水北小学校
西尾市八つ面小学校
安城市デンパーク
長野県・愛知県内の各道の駅・託児所・公園
長野県・愛知県「木づかいライブ スギダラキャラバン」

販売:オーダーに応じて販売する

② 「自転車ラック」 80セット製作・設置・販売
時期:平成28年8月1日～3月29日
設置:南信州をはじめとする長野県及び矢作川流域を中心とする愛知県の各店舗80店。なお、豊田市の「しもやま再来るプロジェクト」メンバーと協働して、これらの設置店を開拓する。

販売:オーダーに応じて販売する

③ 「木札」 5,000枚製作・設置・販売
時期:平成28年8月1日～3月29日
設置:南信州をはじめとする長野県及び矢作川流域を中心とする愛知県の各店舗80店に各50枚ずつを「自転車ラック」と共に配布し、ロードレーサーライダー等に地域情報と共にお店から手渡しする。これ以降の木札補充は原則的に各店舗に依頼する。

販売:オーダーに応じて販売する

3 事業の優位性
(以下の各項目について具体的に記載すること)
(1) 公益性(地域の実情や住民ニーズへの対応等について記載)
根羽村では、県民のライスタイルの中で活用され、かつ観光客等に喜んで利用していただけるインパクトのある木製品を開発するために、根羽村、根羽村森林組合、根羽村商工会、シルバー人材、根羽村小学校、矢作川流域圏懇談会等が連携して「根羽村木のある暮らし講座実行委員会」(核心的で技能的な木工作員チームは「ネバリン特殊木工部隊 スギダラ」と言う)

	を設立し、「根羽村木のある暮らし講座」を開設している。対象者は広く子供やファミリー等一般県民、観光客である。対象者・モニターの声を聞きながら、木製品の開発を継続して進める。 「移動式林業教育ジオラマ」は、かねてより木育に力を入れている根羽村であるが、直接木のアイテムによって林業のイメージを伝えるアイテムがないことから、今回製作に取り組むものである。また、現在実施している「木づかいライブ　スギダラキャラバン」においては、木の楽しさや魅力を伝えられるものの、林業については地域産業としてのイメージが伝えられていないため、特に青少年等にその独特な動きをする林業機械の模型を、山地等の情景を含めてジオラマ化して製作することによって再現し、理解を高めようとするものである。 「自転車ラック」については、豊田市の「しもやま再来るプロジェクト」のメンバーが、ロードレーサーライダーが頻繁にしもやまの里山を訪れていることから、彼らが再びしもやまの里山を訪れてもらうことを願って、地元間伐材を利用してラックを製作されたものである。これを根羽村森林組合が安城市に紹介したところ、安城市からこの自転車ラックについての問い合わせがあり、今後の展開に期待したい話があったことから、今回の協働プロジェクトを実施する運びとなった。このような地域的な実情と県民のホビー的なニーズを活かして今回のプロジェクトに結びつけたい。 「木札」については、「自転車ラック」と併せて手渡しすることにより、コレクター商品として地域への再訪や様々な地域への来訪を促進することができるため、「自転車ラック」の上手な配置による地域の活性化を図りたい。 （２）確実性・有効性（確実性の裏付け・事業効果等について記載） ・「移動式林業教育ジオラマ」については、木のアイテムの中でも類似性がなく、木育アイテム的にも取り上げられてこなかったため、このようなアイテムの必要性は高いと考えられる。また、保育園、小学生児童を対象とした木のおもちゃはあるものの、教育的な視点からのアイテムは少なく、ある程度の展示的な需要はあると考えられる。 ・「自転車ラック」については、国道 153 号線やその周辺の沿線に実際に多くのロードレーサーライダーを見かける機会が増えていること、また、そうした状況でありながら、高価なロードレーサーを駐輪できる施設がほとんどないことなど、「自転車ラック」設置の必要性は高い。ライダーの立場においても、汗臭く独特なスタイルであることから、お店への入店に対する遠慮があり、こうした「自転車ラック」の設置は入店への精神的ハードルを下げることができるためありがたいもの、と考えられる。 ・飯田市においては全日本のロードレースである「ジャパンツアー南信州ステージ」が開催されており、ロードレーサーライダー数が多く、こうした「自転車ラック」の需要は高いと考えられる。 ・「根羽村木のある暮らし講座」開設に関して、長野県及び矢作川下流

域の森林・木のファンから、木材を供給できる林業地域での木工作体験や材料調達の要望が高い。

・「木札」については、こうした取り組みを地域が一体となって実施しているという、地域的なセンスを感じてもらうことが、地域へのリピート率を高めることに結びつくと考えられる。

・根羽村森林組合をはじめ「ネバリン特殊木工部隊　スギダラ」の構成員のやる気・団結力は強く高い。

（3）新規性（新たな視点や仕組み等について記載）

・「林業教育ジオラマ」は類似品がないため極めてオリジナル性が高く、また、林業立村を標榜する根羽村が製作するところに意義があり、林業機械の独特の動きを根羽スギの模型によって再現することにより、子供やファミリーを惹きつけたい。また、現在実施している「木づかいライブスギダラキャラバン」における「動く木のおもちゃ」等の展示と併せて、普段目にすることがなくイメージを持つことの難しい林業という地域産業の理解について、地元材を使用し当事者自らが模型によって再現して伝えようとする試みに新規性があると考える。

・「自転車ラック」については、間伐材を活用し、かつ各店舗にそれを共通認識のもとに設置し、また、「木札」を手渡すことにより、里山の樹種の多様性への理解や、「木札」コレクターとして店舗を回る目的性を発生させ、このことによって地域経済の活性化へ結びつけようとしたことに新規性があると考えられる。

（4）継続性・発展性（将来計画等について記載）

・「林業教育ジオラマ」については、県内をはじめ、愛知県等への設置個所の拡大化を進め、同じ流域で取り組まれている林業という地域産業の理解を高めるため、今後下流域等への小学校等での展示を図りたい。

・「自転車ラック」については、今後各店舗等の反応が良ければ、逐次設置店舗を拡大していきたい。

・現在、村と契約している豊田市のフリーペーパー誌「耕ライフ」にこうしたアイテム及び取り組みについて掲載を依頼し、展示や販売促進を図る。

（5）地域の主体性（地域住民参画の仕組み等について記載）

根羽村は森林組合を中心にトータル林業（一次・二次・三次産業、全世帯森林組合員、端材・オガ粉・樹皮の木質エネルギー利用等）を実践しているが、さらに大工・小学生を含む村民参加により木づかい推進活動「スギダラ」（街中等、いたるところをスギだらけにする活動）を進める。

根羽小　木の授業　　7人×5回＝35人

根羽中　山の授業　　27人×3回＝81人

	森林組合(スギダラキャラバン)　3人×20回＝ 60人 木の駅プロジェクト　30人× 4回＝120人 木のある暮らし講座　15人× 4回＝ 60人 矢作川流域圏懇談会　2人× 8回＝ 16人 （6）情報発信性（県民の関心の高さ、事業自体のインパクトの強さ、事業の広報手段等について具体的に記載） ・木工品には「根羽村森林組合」及び「しもやま再来るプロジェクト」の焼印等を刻印する ・森林組合ホームページから定期的に情報発信をする ・愛知県豊田市フリーペーパー「耕ライフ」に根羽村の木づかい推進の活動として年4回掲載（17,000部発行） ・アイシングループとの交流事業で紹介（500人参加） ・SBCラジオの定番森林組合紹介番組によりラジオトーキングで紹介 ・各道の駅等に設置ＰＲ ・年8回程度開催される矢作川流域圏懇談会、山、川、海部会で紹介 ・「木づかいライブ　スギダラキャラバン」を年20回開催しＰＲを図る ・長野県・愛知県における各サイクルショップと木づかい推進の連携を図る

※必要に応じて欄を広げ、数ページにわたり記載してください。
※必要に応じて、内容や金額の根拠となる資料を添付してください。

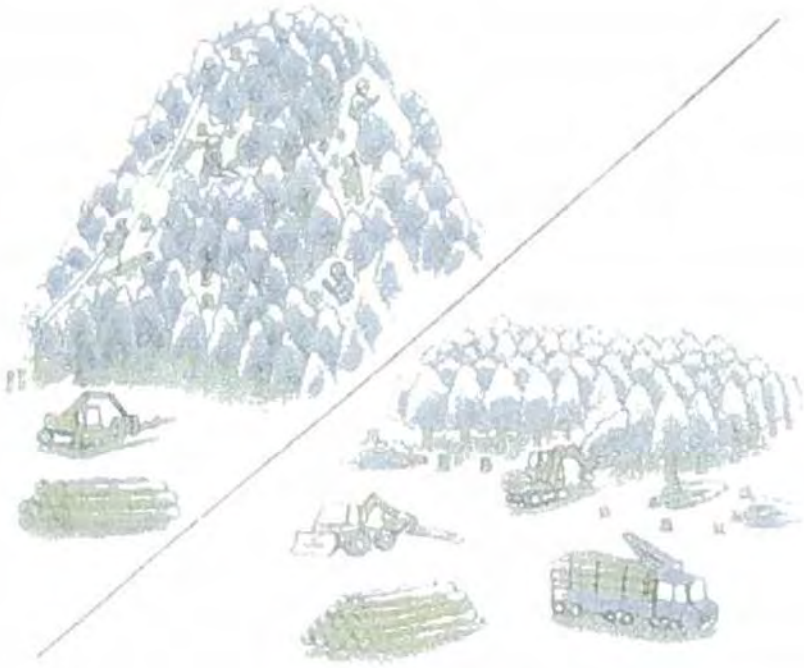
（別紙）

平成28年度　根羽村　信州の木活用モデル地域支援事業　見積内訳表

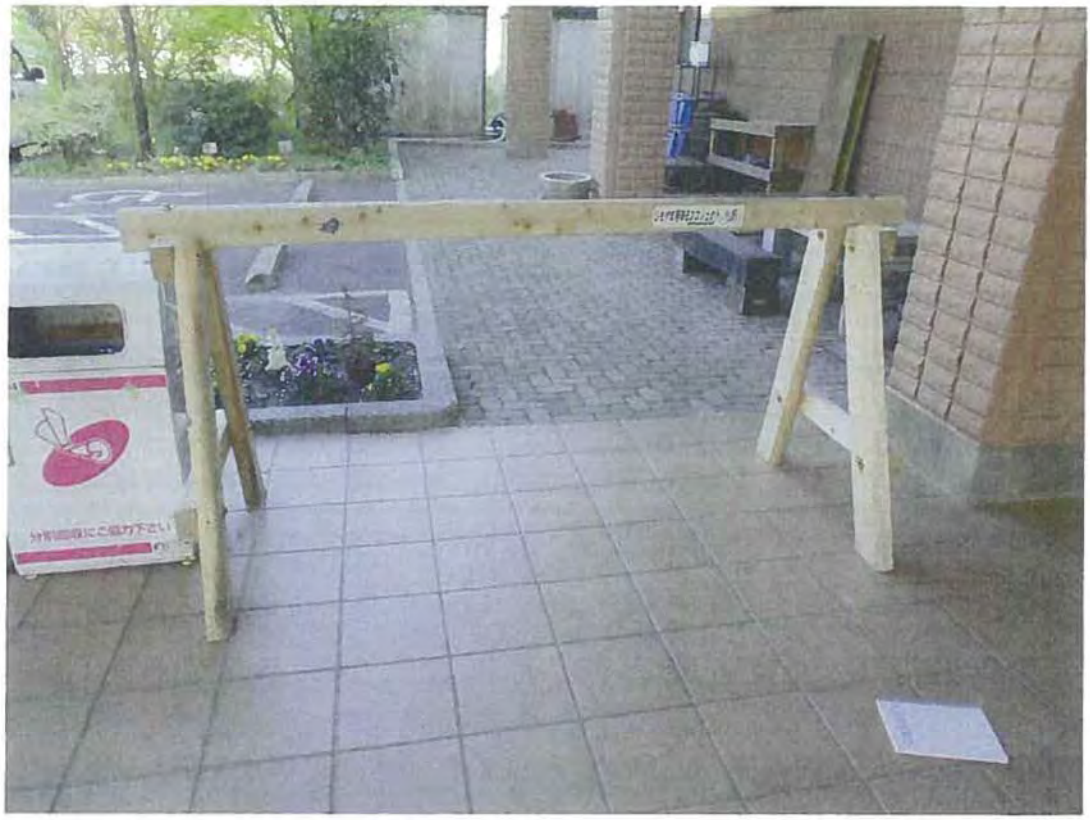
単位:千円

区分	項目	品目	金額	内訳	対象者
移動式林業教育ジオラマ	製作料	移動式林業教育ジオラマ	800	20千円/日×2人×10日＝400千円 100千円/㎥×4㎥＝400千円 (移動式のため軽トラの荷台に入る大きさ)	根羽村森林組合
流域・上下流連携 交流人口拡大促進 自転車ラック	賃金	製作指導及び自転車ラック・ 木札設置店開拓協力費	300	15千円/日×2人×10日	しもやま再来るプロジェクト
	製作料	自転車ラック	1,200	15,000円/台×80台	根羽村森林組合
私の流域物語木札	製作料	木札	1,000	200円/枚×5,000枚	
計			3,300		

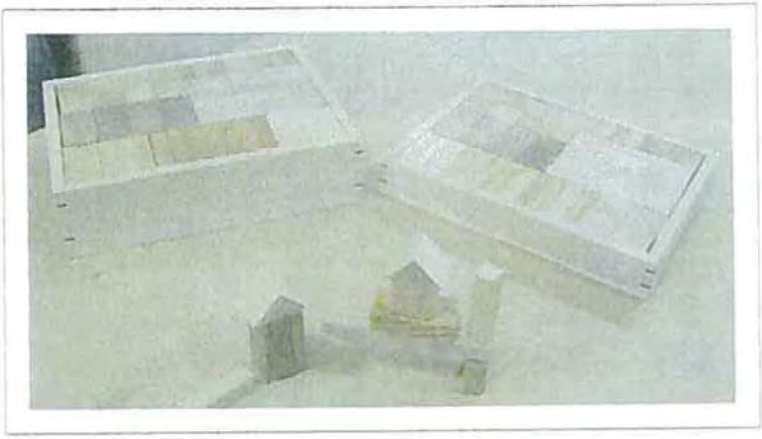
林業教育ジオラマのイメージ



自転車ラック試作品



木札のイメージ



しもやま再来るプロジェクト

調査団体名　：しもやま再来る(サイクル)プロジェクト　　団体代表者名　：木下貴晴
設立年　　：2012年(6月)　　対応してくれた人の名前　：木下貴晴・川合寿佳
団体URL　：https://www.facebook.com/shimokuru
活動拠点　：手づくり工房山遊里　　調査員　　：大森正昭・高橋伸夫
取材日　　：2015年12月05日　　レポート作成者：高橋伸夫

活動内容

下山地区の活性化を目的として主に土日曜日、下山地区在住の主たるメンバー7名で下山地区をサイクリストのパラダイスとすることを目的に活動している。間伐材を利用した自転車ラック(スポーツ自転車の駐輪装置)を地区内の店舗等に設置することを考え、20台作製して店舗に設置してもらった。アンケートで得られたサイクリストやトライアスリートの需要「ごく軽い食事」や「短時間の休憩」等を提供するための「ちょい食べ企画」(おしるこ、おにぎりなどの販売、しもやま茶の試飲提供、冬場は薪ストーブでの暖提供等)を考えて実施中。他に下山地区の周辺で行われている自転車関係の行事へのお手伝い等も実施している。

キャッチフレーズ

「走りながら考えよう　まずは行動」
「エコフルタウン豊田市を車と自転車の町に！」

会のモットー(何を大切にしているか)

自転車乗りに優しい地域づくりで下山へ再び来ていただくことを目指す。(これが会の名前の由来)

設立から現在に至るまで変化したこと

設立当初(2012年6月)は資金面で豊田市「わくわく事業」の補助金を考えていたが、条件が合わず断念。その後香恋の里しもやま観光協会と豊田市法人会の補助金の目処が付き2014年に申請、2015年に豊田森林組合に発注して自転車ラック20台を作製。地域の店舗には実費の半額程度で購入していただき、希望のあった店舗の前に設置していただいた。2015年4月18日他で当プロジェクトの記事が中日新聞に掲載されて、問い合わせなど多くの反響があった。

連携している団体・専門家・自治体など

豊田森林組合・香恋の里しもやま観光協会・豊田市法人会・NPO法人チャリンコ活用推進研究会・(株)トライアスロンステーション

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

間伐材を使用した自転車ラックづくり、・自転車ラックの設置や「ちょい食べ企画」などの受け入れ態勢を作って下山地区へサイクリストの誘致など、全て根底には地域の活性化・地域興しがある。(他に同地区で実施しているわくわく事業では、竹藪の伐採など景観整備やベンチの設置を実施している)

現在直面している課題

最大の問題は活動資金の調達。まだ本格的な事業化まで達していない。
その他には自転車文化の振興に対する行政等の関心不足・自転車のルールやマナー違反によるトラブルの発生。

今後やってみたいこと

自転車ラックの改良、自転車ラックを豊田市周辺中山間地へ普及させる、充実したサイクリングマップの作成、自転車マナー等の啓発(プロ等を講師に招いて正しい乗り方指導の講習会実施など)、自転車道路の整備および自転車用標識や案内板等を充実するため関係機関への働き掛け。
以上の他にも、地域の気象や道路状況などをリアルタイムの情報としてサイクリストへの提供ができないか、一般的な自転車ラックに使用されている樹脂製部品を木製で作製できないか、トヨタ自動車の新テストコースで自転車イベント(ジョギングやサイクリングイベント等)を実施させてもらえないか、三河湖の周辺に来訪者が楽しめるアート作品(佐久島の「おひるねハウス」のようなもの)の設置ができないかなど、やりたいことはたくさんある。
「自転車といえば下山が有名だよね」となることを目指している。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

矢作川流域圏懇談会も情報・人脈を得る上で力になりそう?

チームオリジナルの質問

<質問内容>
山遊里の対岸上流部分が整備されているが、誰が行っているのか?
<答え>
「しもやま再来るプロジェクト」メンバーも参加している地元団体が豊田市「わくわく事業」の補助金を得て行っている別事業で、地域の景観整備を行っている。伐採した竹をチップにして地面に敷き(舗装効果と雑草防止効果がある)、テーブルやベンチを設置している。

その他、伝えたいこと

「エコフルタウン豊田市を車と自転車の町に!」を目標に
行政(豊田市エコフルタウン)にバックアップしてもらえるような存在になりたい。

写真

取材風景

自転車ラック

ちょい食べ企画

● 「木づかいライブ・スギダラキャラバン」とは

「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、根羽スギなどの「木づかい」を推進していきたい根羽村森林組合が中心となって、長野県や愛知県内の里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、各地で行われる様々なイベントとジョイントして、表札づくりなどの木工作体験や、どこでも足湯などの色々な「木のある暮らしアイテム」の展示を行うイベントキャラバンです。

このことによって、根羽スギをはじめとする地域の木材を利用した「木のある暮らし」を提案して、森や木づかいのファンを増やしていくと共に、そうした方々が仲良くなることによって、地域に活力を生み出す「元気な人の輪づくり」も目指しています。

ちなみに「スギダラ」とは、スギをはじめとする人工林を利用して、あらゆる生活空間をスギダラケにしよう、という全国展開している活動のことです。根羽村森林組合は、愛知県を流れる矢作川の水源の村として、平成 26 年 9 月に設立された「矢作川流域支部」の事務局となっています。

こうした木づかいが進むことによって森林整備が推進され、また、山村における林業振興による地域の活性化が図られます。皆様ぜひ、スギダラキャラバンに遊びにきてください。

28「木の魅力と楽しさを伝える
木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績及び予定」

NO	イベント名	開催日	場所	備考
1	矢作川の源流 森の民と根羽村ツアー	4/15.16	根羽村	見学
2	おこしものをつくろう	4/16	豊田市 エコット	体験
3	野底山森林公園　さくら祭り	4/24	飯田市 野底山森林公園	展示
4	オールアイシン家族祭り	5/29	刈谷市 アイシン高丘工場	体験
5	矢作川流域ものさしをつくろう	6/29	根羽村	体験
6	木のおもちゃで遊ぼう 木育キャラバン	7/2.3	豊田市 エコット	体験
7	アイシン夏の陣	7/23	根羽村	体験
8	安城市デンパーク無料開放デー	7/23	安城市 デンパーク	展示
9	わくわくネイチャースクール	7/25.26	根羽村	体験
10	南信州木工作体験	7/27	根羽村	体験
11	エコネット安城　里山体験	8/1	根羽村	体験
12	わくわくネイチャースクール	8/3.4	根羽村	体験
13	矢作川流域ものさしをつくろう	8/6	根羽村	体験
14	輪っぱをつくろう 動く木のおもちゃ展	8/10.11	東京都 東急ハンズ新宿店	体験 展示
15	うるぎ星の森音楽祭	9/4	売木村 うるぎ星の森キャンプ場	体験 展示
16	伊賀良小木工作体験	9/18	飯田市 伊賀良小	体験
17	信州大学農学部祭	9/19	南箕輪村 信州大学農学部	体験 展示
18	安城市中部公民館芸能祭り	9/25	安城市 中部公民館	体験 展示
19	東急ハンズ新宿店 20周年記念イベント	10/4	東京都 東急ハンズ新宿店	体験 展示
20	メッセナゴヤ2016	10/26.27.28.29	名古屋市 メッセナゴヤ	展示
21	根羽村大杉祭り	10/28.29.30	根羽村 大杉公園	体験 展示
22	アイシン秋の陣	11/5	根羽村	体験

23	安城市明祥公民館祭り	11/12.13	安城市 明祥公民館	体験 展示
24	飯田合庁木づかい推進フェア	11/14～18	飯田市 飯田合庁	展示
25	安城市中央図書館イベント	1/22	安城市 中央図書館	体験 展示
26	南信州間伐材フェア	3/12	飯田市	展示

注) 体験とは木のペンダントづくり、表札づくり、輪っぱづくり等である。
展示とはどこでもブランコ、どこでもウッドデッキ、どこでもオセロ、根羽物置、動く木のおもちゃ等である。

平成 28 年 5 月 18 日

皆で「矢作川流域ものさし」をつくろう

根羽村森林組合
0265-49-2120

趣旨

矢作川の流域にある 23 種類の木を組木にして、素敵な「矢作川流域ものさし」を 3 個つくります。

ものさしをつくりながら、私達の身の回りにはどんな木があるのか、どんな肌ざわりや木の色をしているのか感じてみましょう。

ものさしと一緒に「わたしの流域ものがたり」も作ります。それには、根羽村の水源や四季折々のすてきな場所など、自分の大好きな根羽村の魅力を書いてみてください。

出来上がった「流域ものさし」と「わたしの流域ものがたり」1 セットを下流域の方々にプレゼントをして、根羽村の様々な魅力をひとり一人が伝え、たくさんの方々が矢作川流域の魅力に気がついてほしいと思います。

今回のプレゼントは静岡県浜松市天竜区熊（くんま）小学校の皆さんと、根羽小の皆さんで「矢作川流域ものさし」と「天竜川流域ものさし」を交換する予定です。

日　時　　6月4日(土)　10:00～15:00

場　所　　根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」

内　容

午前　「矢作川流域ものさし」づくり　ひとり3個

(持ち帰りはひとり2個になります)

午後　「ものさし」の作品発表

「動く木のおもちゃ・木っころ」を楽しむ

講　師　　根羽村森林組合　　小野隆治

デザイナー　　小粥千寿

スギダラ天竜支部長　袴田彩子

参加料　　①材料代・お昼付き　500円

お昼は五平もち2本・汁ものです

②材料代のみ　　100円

どちらか選択してください

切り取り

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿　　お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿　　お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

参加料　　計　　円

注)お名前の前に①または②を記入してください。保護者の方などどなたでも参加できます。

参加料は当日いただきます。5月26日までに提出してください。

わたしの 矢作川 流域ものがたり

名前：

①自分の家の位置に★印をつけよう！

②矢作川での思い出を書こう！

③行ったことのある場所（行ってみたい場所）に●印とその場所の名前を書こう！

④行ったことのある場所での思い出（行ってみたい場所：なぜ行きたいか？）を書こう！

⑤モノサシにも印をつけよう！

わたしの 矢作川 流域ものがたり

名前：

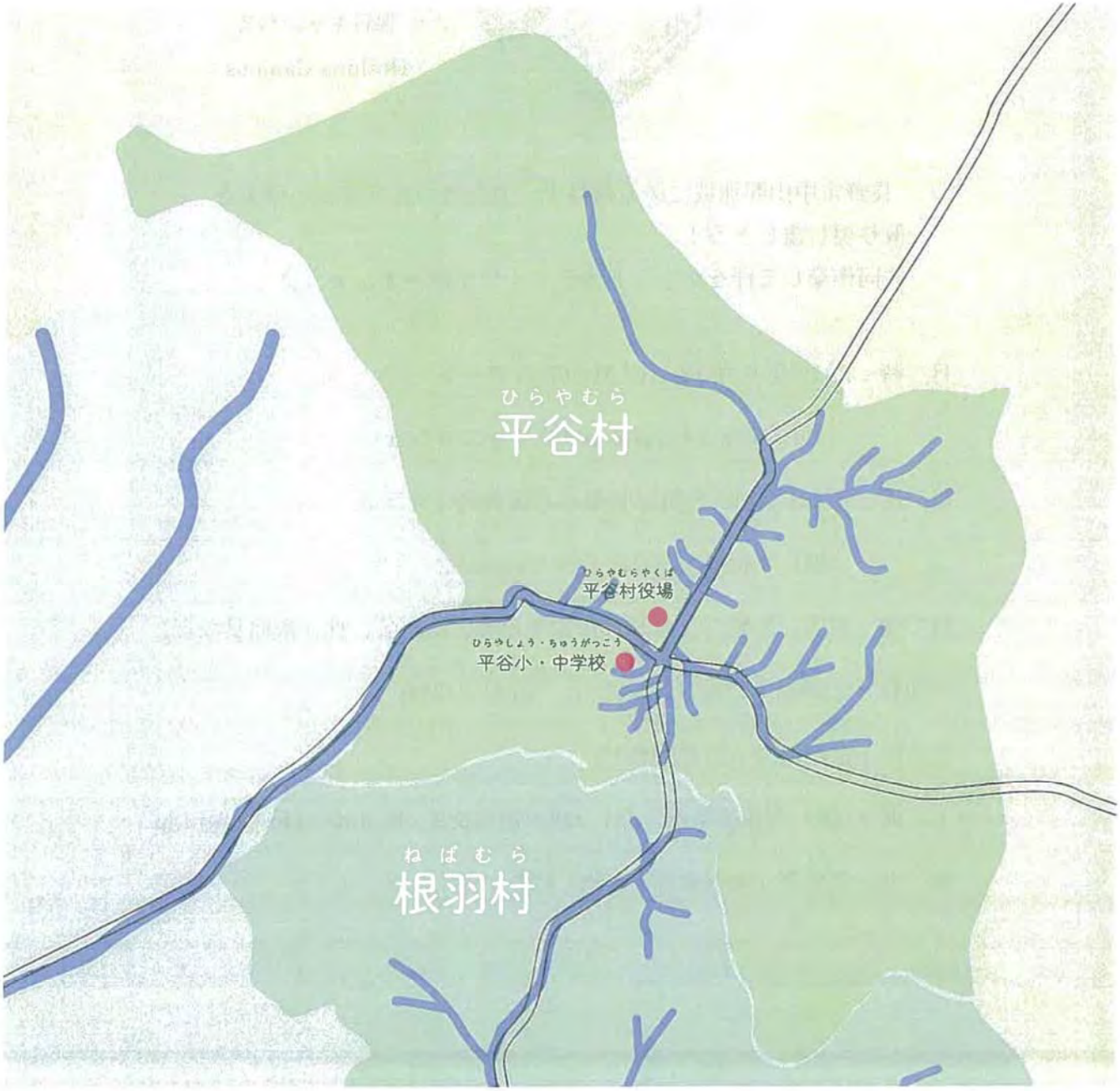
①自分の家の位置に★印をつけよう！

②矢作川での思い出を書こう！

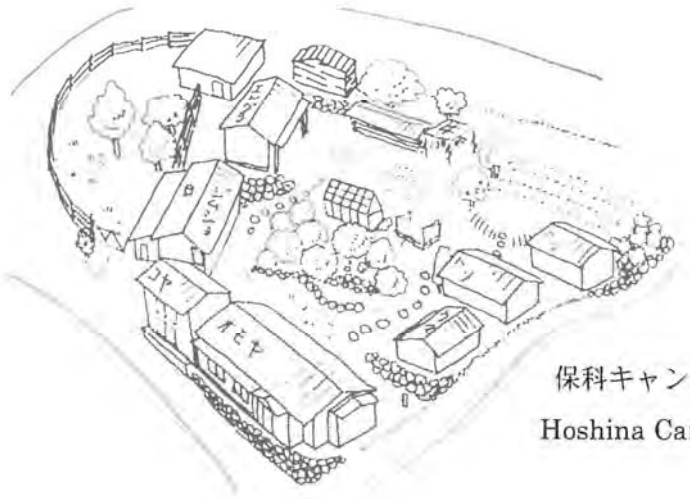
③行ったことのある場所（行ってみたい場所）に●印とその場所の名前を書こう！

④行ったことのある場所での思い出（行ってみたい場所：なぜ行きたいか？）を書こう！

⑤モノサシにも印をつけよう！



ほしなカレッジ合宿(案)
Hoshina College Gasshuku



保科キャンパス
Hoshina Campus

長野市中山間地域にある保科で、力を合わせて美しい里山を取り戻しましょう！
共同作業して汗をかいてお酒をワイワイ飲みましょう♪

日　時：2016 年 6 月 18 日(土)11:00 スタート

6 月 19 日(日) 16:00 フィニッシュ

場　所：〒381-0102 長野県長野市若穂保科４４５５

（株）文化事業部 Tel. 026-214-6282

持ち物：軍手、長靴、タオル（宿泊する場合は寝袋、枕、洗面具など）

参加費：2,500 円（18 日 1,500 円,　19 日 1,000）

その他：保科温泉入浴料 500 円

主　催：（株）文化事業部　Tel. 026-214-6282　E-mail. info@bunjil.jp

協　力：スギダラケ倶楽部、NPO 大地

スケジュール

■6月18日（土曜日）
11:30頃　ランチを取りながら参加者の紹介タイム
13:30時　作業開始（薪割り、草刈り、小屋の整理など）
17:00　　温泉
19:00　　BBQ
　　交流会

■6月19日（日曜日）
9:00頃　作業開始
12:00ランチ
16:00頃若穂保科を出て17時頃長野駅着解散。
東京組は17:34長野発19:12東京着はくたか570号

（株）文化事業部 代表
セーラ・マリ・カミングス
E-mail. info@bunjil.jp

第１回　ほしなカレッジ合宿　参加者名簿（スギダラ倶楽部）

地区	参加者氏名	所属	18日土曜	19日日曜	帰り	18日東京組ピックアップ	備考
東京	若杉浩一　Koichi Wakasugi	パワープレイス㈱	◎宿泊	◎	新幹線17:34長野発		
東京	千代田健一　Kenichi Chiyoda	パワープレイス㈱	◎宿泊	◎	千代田号		
東京	内田みえ　Mie Uchida	サイレントオフィス	◎宿泊	◎	新幹線17:34長野発		
東京	志村美来　Mira Shimura	内田みえさん長女	◎宿泊	◎	新幹線17:34長野発		
東京	小林健一　Kenichi Kobayashi	パワープレイス㈱	◎宿泊	◎	新幹線17:34長野発		
東京	髙山康秀　Yasuhide Takayama	㈱内田洋行	◎宿泊	◎	千代田号		
東京	伊藤喜久恵　Kikue Ito	スギダラ本部メンバー	◎宿泊	◎	千代田号		
東京	堀江ひろこ　Hiroko Horie	パワープレイス㈱	BBQまで	×	新幹線20:55長野発		
東京	堀江隆一　Ryuichi Horie	㈱内田洋行	BBQまで	×	新幹線20:55長野発		
長野	千代登　Noboru Chishiro	長野県庁林務部	◎宿泊	◎	千代号	内田みえさん親子	
長野	岩間光輝 Mitsuteru Iwama	長野県庁林務部	◎宿泊	朝出発	岩間号		
長野	日詰究 Kiwamu Hizume	長野県庁林務部	×	◎	日詰号		
長野	日詰さん　お子さん1		×	◎	日詰号		
長野	日詰さん　お子さん2		×	◎	日詰号		
長野	宮崎正毅　Masaki Miyazaki	長野県木材協同組合連合会	夕刻まで	×	宮崎号		
根羽村	今村豊　Yutaka Imamura	根羽村森林組合	◎宿泊	◎	今村号	堀江さんご夫妻	
飯田	山﨑由広　Yoshihiro Yamazaki	三遠南信つなげ隊	◎宿泊	◎	山崎号	若杉・小林	
飯田	小林美智子　Michiko Kobayashi	飯田市役所	◎宿泊	◎	山崎号		
飯田	原一樹　Kazuki Hara	長野県観光協会	夕刻まで	×	原号		

2016.6.10

根羽村への「山地酪農」導入に関する要検討事項

信州大・内川

＜導入可能性について　総論＞

現地調査の結果、村内の多くの箇所で十分な可能性があること、消費地も近く経営的にも有利なことが、中洞氏はじめ同行の実戦経験者の方達から指摘された。

初期実施地は、特にミルクプラントに近く、消費者への理解増進・リピーター確保、商品販売増にも直結し、かつ混牧林施業の実証展示にもなりうるネバーランド周辺は、有力な候補地と判断される。

また、国道153号線沿いの各地も多くの可能性をもつとされた。

なお、ムネバタ牧場は、周辺部が急傾斜かつ外周道路がないことから、牧柵管理に労苦を要することが懸念された。また、バラ等の掃除刈りにも少人数の場合は苦労が想定されるという。

ミルクプラントは20年前の設置ながら管理が非常に良く、十分であるとされた。

一方、経営についても数倍の販売増が可能と指摘された。

＜将来ビジョン＞

1．構想素案

・当面、現状の生産を維持しつつも、徐々に「山地酪農方式」にシフトする
・5年程度？を目途に切り換え、山地酪農の運営を軌道にのせる
・できるだけ早く試験放牧（3年程度の実施期間）を開始し、検討事項の洗い出しをする
・販売方法の切り換えにも、方法と時間を要するため試験期間を設け準備する

・販売までの6次化に当たっては明確な「理念」を確立する必要がある
（儲けのみ走らず、環境の継続性・持続性を最重要視する配慮が不可欠）
・それにあわせた、実証展示、情報発信、人材育成をあわせて充実させるべき

2．スケジュール素案

・別添　計画素案より5年間のながれ
「試験放牧」⇒「理念確立」⇒「販売」⇒「本格実施」⇒「展開」

(0)関係者の中洞牧場訪問　9月～10月：日程調整　メンバー

(1)試験放牧実施箇所の選定

1)概略対象地の森林資源調査

・ネバーランド周辺の村有地を中心に、国道からみえる景観を配慮して概略エリア設定
・概略対象地に対し、既存の状況データを把握（森林および下層植生）
・現況データ（単木および植生等）を踏まえ、実施候補エリア（2-3ha程度）を絞り込む

2)毎木調査（素材搬出（林業）面からの視点）
・混牧林地の性格（畜産面との融合コンセプトの明確化）
更新施業？を目指すべきか
広葉樹等の景観環境林とすべきか？
広葉樹等の生活環境林とすべきか？（椎茸・クルミ・桑等との組み合わせ）

3)林相調査（放牧管理面からの視点）
・広葉樹の配置（日陰地、防風・防雪への配慮等）
・景観面から

4)林床植生調査（放牧管理面からの視点）
・食草種分布および量

5)準備
・森林所有者への調査および許可依頼
・調査者への依頼と費用負担（森林組合？）
・調査結果を踏まえた適地選定の検討（村、中洞牧場、森林組合、大学等）
・実施計画の作成
（搾乳用簡易牛舎配置や乳輸送経路等も含む）

(2)試験放牧地の整備
1)保残木のマーク
2)除伐
3)伐木整理

4)牧柵設置箇所の刈払い等
・電気牧柵の設置
・木柵（景観配慮箇所）　※費用及び労力算定

(3)牛の導入
・開拓牛（先導牛）の導入（2頭？）
モニタリング

・搾乳牛（地元牛）のレンタル導入（1頭）
モニタリング
即時販売の可能性（目の前の牛から搾った牛乳の加工品）

(4)シバ地化観察
・中洞牧場シバの移植

3．村内全域のゾーニング
・本年度実施予定の「航空レーザ解析による『森林資源量調査・解析』」
・次年度、持続的な『地域森林管理計画』の検討・策定？

・①持続的生産林エリア、②保全環境林エリア、③集落周辺環境林エリア（混牧林含む）

(1)本年度早期の実施と、成果取りまとめ

(2)次年度、全村計画策定にむけた検討とゾーニング策定
・山地酪農導入候補エリアの明確化
・導入候補地の優先順位化（国道沿いを優先？）と用地に対する方針作成
・人材（地域おこし協力隊、森林組合内作業班？地元酪農家）

4．販売について

(1)現状
・販売額
乳製品　253万円/月　×12　＝3000万円/年
牛乳 21% ヨーグルト 57% ソフトミックス 11% アイスクリーム 11%
・販路
売店 44%（ネバーランド）
卸し 56%（飯田市 23%　刈谷市・安城市 33%）（定価の 8-7 割）

(2)当面における要検討事項
・賞味期限の短い「牛乳」は量を抑えつつも、「背景」説明の存在として位置づける。
・説明すべき「背景」が課題
（生産過程、自然環境影響、加工品への添加物・・・）
・「ヨーグルト」と「ソフトミックス」、「アイス」の加工品主体にし、バランスを考える

・「ソフトミックス」：8月の夏場に不足する（具体的な量？）
冬場にも生産、保管して販売すべき（保管場所の検討）
・現行設備の状況から３－４倍の売上げが可能では？との指摘
・「卸し」を抑えて「直販」の各種形態を模索すべきか（利益増）
（直販：個別販売（販路開拓）、共同購入グループ、「良い食品づくりの会」協力店等）

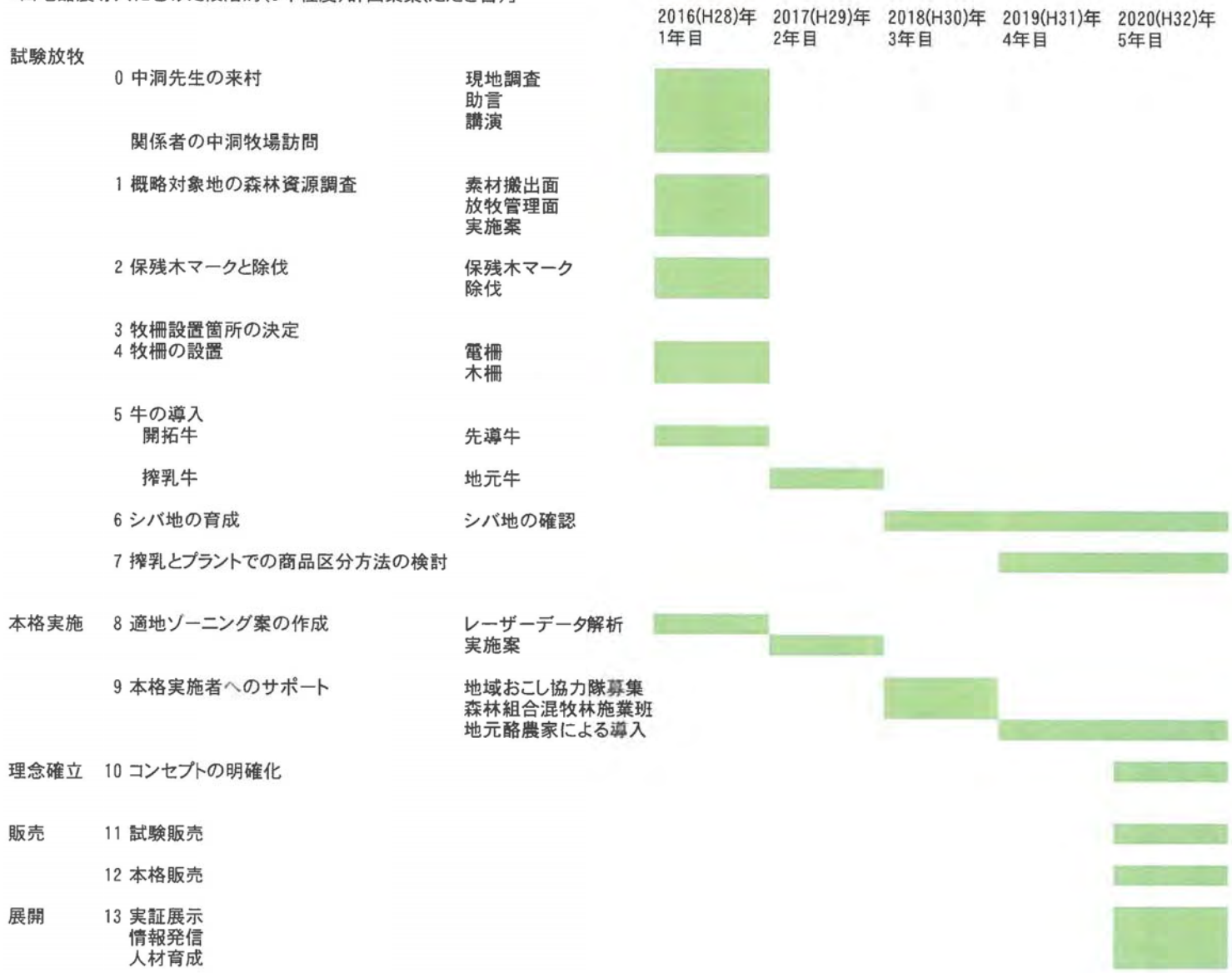
(3)将来にむけた切替期間
・「理念」の確立と切替ステップ案の作成
・試験販売

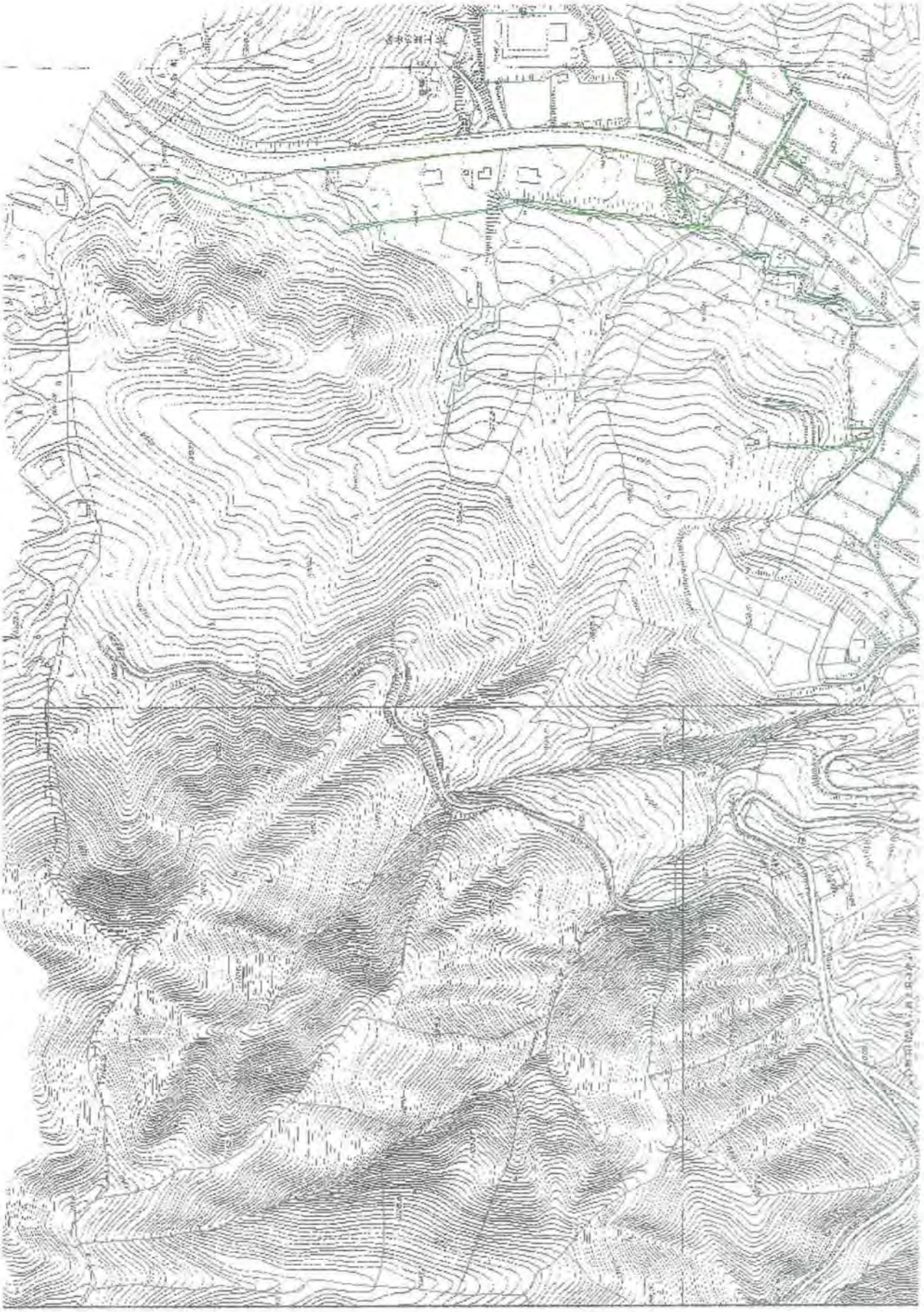
5．展開について

(1)実証展示
・ネバーランド周辺の実証展示用、案内板、導入路等の整備
・情報発信（山地放牧試験はじめました等）
・人材育成（試験放牧地への中洞牧場からのスタッフ派遣等）

20160609

「山地酪農導入にむけた段階的(5年程度)計画素案(たたき台)」





平谷村
4918-831
231,575 ㎡
保安林
根羽村
ネバーランド
コテージ
4918-806
10,451 ㎡
山林
根羽村

平成 28 年 7 月 22 日
13:30～
根羽村しゃくなげ

木づかいガイドライン作成資料について

1　木づかいガイドラインの原稿作成について

2　木づかいライブ　スギダラキャラバンについて

3　その他

木づかいガイドライン作成・活動方針（案）

1　木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について

提案者・モニター・場所についての考え方は下表のとおりとして、共通認識を持って、その役割を担う方・場所を選定したい

区　分	内　　容
提案者	・すでに木づかいの実績のある方 ・その取り組みが将来的な木づかい推進に結びついている方 ・心から本心でその木づかいに取り組まれている方
モニター	・その提案に対する見込客と考えられる方 ・その木づかい推進の中心的な対象（年代）と考えられる方 ・その方に教えると多面的な展開が期待される方
場所	・その取り組みの実績がある場所 ・その取り組みを発信する際、中心的な方・組織の存在する場所 ・その取り組みの活動拠点が作れるところ
イベントの性格	・木づかい需要創造イベント ・木づかい体感・センスオブワンダーイベント ・木の感謝祭イベント

2　木づかいガイドラインの原稿依頼について

木づかいガイドラインの原稿依頼については、次のとおり共通認識を持ちたい

・**提案者は上記のモニターと一体となって**、その取り組みを広げていく「木づかいの潮流」を意識して、原稿を作成する

・**特にモニターを「見込客」と意識する**ことから、モニターに何を感じてほしいか、興味を持ってもらい点は何か、を明確にして提案する

NO	原稿依頼者	テーマ	時期

・当面、すぐに記載が可能な根羽村森林組合・豊田森林組合からスタート

・趣旨の説明文

・ガイドラインの案内文

当面の対象者

市民編

根羽小学校、山村担い手事例集対象者、有志

県・市町村

愛知県、岐阜県、長野県、根羽村、豊田市、安城市、恵那市

業界

流域の５森林組合、JTN、各工務店、木材流通関係者、店舗

研究機関

矢作川研究所、東京大学、信州大学、岐阜女子大学、愛知教育大学

平成 28 年　月　日

（ 案 ）

関 係 者 各 位

矢作川流域圏懇談会
山部会座長　蔵治　光一郎

「木づかいガイドライン」等の原稿作成について(協力依頼)

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、国土交通省豊橋河川事務所所管の「矢作川流域圏懇談会」では、長野県から愛知県に至る矢作川に関連する様々な課題を解決し、流域にすむ私達の暮らしを豊かにするため、平成 22 年度から山、川、海の 3 部会を創設して、市民や各関係者が定期的に集まって検討を進めています。

特に山部会においては、上流域の森林資源を下流域で活用することが、森林整備の推進や水源かん養機能の発揮、地域振興に結びつくことから、「森づくり」や「木づかい推進」をテーマに継続的な活動を展開しています。

そこで今後、矢作川流域内で「森づくり」、「木づかい推進」活動をより積極的に展開していくきっかけとして、皆様ひとり一人の先進的な取り組み・考え方を「木づかいガイドライン」等として取りまとめ、広く流域市民に紹介していきたいと思います。

ついては、当趣旨をご理解いただき、下記のとおり原稿を作成の上、取材担当者にお渡しいただきますようよろしくお願いします。

記

1　事例紹介原稿　　市民編、市町村編、業界編、研究者編のどれかを選択してください

2　提 出 期 限　　平成 28 年 11 月 30 日までに取材担当者に提出してください

3　取 材 担 当 者　　こちらで紹介させていただきます

〒441-8149
愛知県豊橋市中野町字平西 1-6
国土交通省豊橋河川事務所
担　当
TEL　0532-48-8107
FAX　0532-48-8100
Email　uno-t85aa@cbr.mlit.go.jp

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（市民編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
いつ	
どこで （位置図）	
内　容	
対象者	
対応する者	
面白い点 魅力的なところ	
必要な時間	
必要な金額	
準備するもの	
イメージ（映像）	
お薦めポイントは	
参加者からのレビュー	

対象年齢	衝撃度	神秘度	リピーター率	安全性	ステージ表

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（市町村編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
内　　容	
対 象 者	
対象者の条件	
魅力的なところ	
必要な時間	
必要な金額	
準備するもの	
イメージ（映像）	
お薦めポイントは	
利用者からのレビュー	

対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（業界編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
内　　容	
対 象 者	
対象者の条件	
魅力的なところ	
必要な時間	
必要な金額	
必要なメンテナンス	
イメージ（映像）	
お薦めポイントは	
利用者からのレビュー	

対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン　「さあ～しよう」のフォーマット（研究者編案）

区　　分	内　　容
さあ～しようのテーマ	
内　　容	
対 象 者	
研究の魅力的なところ	
必要な時間	
事 業 費	
イメージ（映像）	
研究のお薦めポイントは	
研究者からのレビュー	

市民貢献度	衝撃度	おすすめ度	他県普及性	発展性

矢作川流域で進めたいスギダラ木づかい推進活動と
ウッドスタートの明るく楽しい未来への展望

スギダラ矢作川流域支部長
根羽村森林組合　参事　今村　豊

1　「木づかい」推進の目的と「森の民」としての努め

私は矢作川流域圏懇談会の山部会に参加しており、その部会で「木づかいガイドライン」作成の担当になっています。矢作川流域を巡る様々な課題の内、水資源の安定供給を図るには、これからも上流域の森林整備を積極的に進め、水源かん養機能を持続的に発揮させていく必要があり、そのためには、山村で暮らす森林整備や木材加工の担い手が、林産業によって経済的に自立し、安心して暮らせなければなりません。「木づかいガイドライン」には、こうした「木づかい」による森林整備と木材加工の推進により、人の暮らせる山村社会を作り出していく意義があります。

上流域にある森林資源を整備し、それを下流域等で活用していくことを「木づかい」と呼び、森林を整備し活用していく上流域の「林産業」＝「木づかい産業」の振興により、魅力ある森林と木材加工の職場を地域に確立し、安心して林産業で自立できる山村社会に導いていくことが「木づかい」推進の大きな目的です。

根羽村のスギ人工林

根羽スギの家にして良かった

山村に住む私達「森の民」の存在意義は、多くの先人達によって育成され充実した森林資源を、持続的・計画的に整備し、それらをきちんと活用して自分達の生活の糧とし、また、その森林や木の恩恵を下流域の方々にしっかりと伝え贈ることです。森林の整備を依頼された村民から「見栄えのある山になった、ありがとう」と言われることを最大の喜びとし、伐り出した木材はきちんと製材加工して、皆さんに「すごい木だなぁ、やっぱり木の家にして良かったなぁ、木のぬくもりに囲まれて幸せだなぁ」と言ってもらえることが、森や木に携わる「森の民」の誇りです。

植えられた木は植林されて長い間、水源かん養林として水資源の安定供給という公益的機能を果たしていますが、伐り出されて使われるようになってやっと始めて、

森林所有者や木を使われる方の役に立つことができます。恐らく木の嫌いな日本人はいないでしょう。木の自然な温もりは人の心を和らげます。「木の文化」のある日本なのですから、育てた木をきちんと使う、そんな普通の木の活用や使いみちを「森の民」は願い、下流域の方々にもっと身近な生活空間で木を使ってもらい、皆で木を使うことで人の集まる居心地の良い地域の公共的な空間も作っていただき、もっと木の魅力に気付いて欲しいと願っています。皆さん、木は大好きでしょ！

しかし、現在の日本においては「林業」という言葉は死語になりつつあり、教科書からは「林業」という言葉が消えています。林業の最前線で働く技能職員の姿は、一般社会からは見えることがないし、どんな風にして木を伐り出しているか、どんな苦労をしているのかは全く想像できないと思います。そんな状況ですが、この「林業」という産業を支えているのは、全国から集まった森林や木の仕事をしたい、という志を持った若者です。その多くの方は、森林や林業の専門的な勉強をしてきた訳ではありません。ではなぜ、彼らはやって来たのか。それは、自然の中で働きたい、自分の力や技能を活かしたい、都会や人間関係は煩わしい、歯車のひとつという感じから抜け出したい、森林や木が好きだ、小さい頃に森林を歩いた、アウトドアが好きだった、山登りに夢中だった、一資本家の奴隷でなく社会的使命感のある仕事に就きたかった等、様々ですが、やはり基本的には「自然の中で仕事がしたい」、「自分が主役になって成長したい」、「今自分が存在し働くことに対する実感を得たい、生きることへの真摯さが大切だ」という面から、林業が自分には最も相応しい、という思いがあってこの職業を選択されています。今は、実戦力と志のある「森の民」として活躍されていますが、ある意味、林業は「志産業」と言えます。

志のある山の技能職員

自分が伐採・搬出した森林の将来が楽しみ、と多くの職員は口にします。そんな頼もしい彼らと話し合うと、私達は彼らにとって夢のある職場にしなければならないと痛感します。そのためにもっと私達が社会に働きかけて、山村が生き残れて、経済的に安心して林業に取り組めるような社会的なシステムを構築しなければならないと思います。そうしないと、今働く技能職員のモチベーションの持続や、社会的に引き継がれていかなければならない将来的な林業の人材を確保することが困難であるし、夢や希望を持って山村や林業に就職する者が、本当に志のある限られた方に特化されてしまうと思います。現状は、こうした志ある

自分で伐採した山の将来が楽しみ

若者に支えられた産業と言っても過言ではないでしょう。「木づかい」推進は私達が今取り組める自助努力のひとつです。木を贈り届ける立場から、自らの存在意義も問いかけながら、木の持つ魅力、森林や木と過ごす豊かな時間を下流域や流域の方々に伝え、もっと身近な生活空間を流域の木で満たして欲しいと思います。

「木づかい」を推進する「木づかいガイドライン」は、例えば、このような森林組合の最前線の技能職員等が山村社会で安心して暮らせることや、青少年がこれから森林や木を対象とする職業に就けるように導く方法にも配慮しながら、現状を打開するためにはどんなトライが必要なのか、検討・提案しています。こうした検討・提案の中で、森林や木の活用、山村における農林業による持続可能な地域づくり、里山の活動グループ同士の新たな「木づかい」をきっかけとした連携、山村の様々な元気を生み出す新たな潮流づくりにも結びつけたいと考えています。「木づかい」が流域内の社会に広く浸透することで、山村の林産業の振興が図られて、上流域の山村等の雇用の場が確保されます。その結果、若者のＩターン受け入れ等による定住促進が進み、新たな「森の民」が誕生して過疎化が止まり、持続可能な地域づくりに結びつくような成果を期待しています。

また、山村では林業を支える若者の存在が常に身近にあるため、彼らの想いを知る機会が多く、物理的に厳しい職場環境、決して高くない給与、チームの和が必要とされる人間関係等から、彼らの本音や今後の将来設計について考えずにはいられません。組合経営的にも、森林整備部門と製材加工部門の戦略や、利益の向上に向けた取り組みが常に頭から離れません。

従って、私にとって「木づかい」とは、山村社会の存続に関わる必然的に取り組まなくてはならない課題であり、「森の民」として生き残るためには誰と、どんな「木づかい」の行動を、誰に対して展開していくのか明確にしなければならない、というモチベーションがあります。

森林組合の製材工場は山村の貴重な雇用の場

2　矢作川流域圏懇談会山部会における「木づかいガイドライン」とは

「木づかいガイドライン」は、矢作川上流域にある森林資源を下流域の流域住民に活用してもらう上下流連携により、流域内の森林整備を推進させ、同時に地域の林

さあ皆で樹木の配置を考えてみよう

産業等の地域産業の振興を図ることにより、活力ある流域社会を構築しようとするものです。同時に、流域の方々に森林や木の魅力を伝え、「木づかい」推進活動に私達と共に参加していただくように呼び掛けるものです。一緒に行動して検討したり、体験してもらう多くの場面を提供して、森林や木と過ごす時間の楽しさを感じていただければと思っています。

その内容は市民、行政、業界、研究機関が一体となって、現在実践されている「木づかい活動」も含め、これからどのような行動を展開していくことが、この流域の「木づかい」推進に結びつくのか、流域内には現在どのような取り組みが行われているのかを把握しながら、その一つひとつの取り組みを、その実践者から伝えたい相手を意識して、市民の目線から提示しようとするものです。山部会の他の２つのテーマである「山村担い手事例集づくり」、「森づくりガイドライン」の検討と併せて、毎回メンバー同士で、どのような「木づかいガイドライン」を作成するか検討しており、現在その原案が固まりつつあります。

信州大学による次世代に向けた低コスト造林地調査

「木づかいガイドライン」の意図していることは次のとおりです

① 市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと
② 現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取り組みを「見える化」すること
③ 「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること
④ その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しみを伝え、共感と活動を呼び起こすこと
⑤ 木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと
⑥ 「木づかいガイドライン」を手に取ると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること

3　「木づかいガイドライン」と矢作川流域で進めたいスギダラ木づかい推進活動

「木づかいガイドライン」は、市民、行政、業界、研究機関のそれぞれの立場の方々が、現在行っている「木づかい活動」を、今後対象者として働きかけたい相手を想定しながら「さあ～しよう」と言う形で、提案するものです。

インパクトがあって盛り上がった若杉さんの講演

今回、この提案の原案検討中に「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長をお招きしてご講演をお願いし、その活動内容を参考にさせていただきました。感想を一言で言えば、すごいの一言です。様々な立場の方々が、様々な公共施設等をスギダラケにする活動を全国各地で展開されていて、その仕掛人が若杉さん、ということですごいエネルギーだなぁーと驚きました。また、全国各地でどんどんスギダラケの活動が人々に伝播していく様子や、それも優れたデザイン提案をされる実力ある内容で、その上、何だか皆で踊りまで作って盛り上がっている、うーんすごスギる。感服しました。それに話が面白過ぎる。振り返って、私達の活動は（まだ始まっていないけど）固いのかなぁー。

いずれにしても、若杉さんが平成 26 年 9 月 19 日に根羽村に来ていただいたのをきっかけに、メンバーの丹羽さんの上手な取り計らいで「スギダラ矢作川流域支部」がめでたく発足いたしました。一応、今までの成り行きと村長の許可を得て、私今村が支部長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いします。まだ、皆様に確認しておりませんが、支部活動の方向性と目的（案）は次のとおりです。

支部活動の方向性と目的（案）

「スギダラ矢作川流域支部」は、「全国スギダラケ倶楽部」の活動趣旨に準じ、戦後の復興期に段階的に植栽されてきた矢作川流域のスギやヒノキを始めとする人工林をきちんと活用することにより、流域内の林産業や山村・里山に活力を生み出し、同時に、矢作川流域市民の全ライフステージを対象とした「スギダラ」活動による木づかいを推進することにより、市民生活の様々な場面において魅力的な木に彩られた生活空間を創造して「地域の人の輪」、「地域の元気」を生み出すことを目的とします。併せて、流域内の各市町村から「ウッドスタート」宣言をいただき、「木づかい推進活動」への参加と協力に向けて、流域一体となった取り組みを展開していきます。

注）「スギダラ活動」とは、流域内のスギ・ヒノキの人工林や広葉樹をきちんと活用して、あらゆる生活空間を「スギダラケ（ヒノキダラケ・広用樹ダラケ）」にする活動である。

現在、山部会のメンバーで検討している市民、行政、業界、研究機関による「木づかいガイドライン」による「さあ～しよう」の内容は次の表のとおりです。提案者、モニター、場所についてはまだメンバーによる検討（案）の段階であることをお断りしておきます。これらの名称について、公開するか迷いましたが、「全国スギタラケ倶楽部」のオープン性に準じ、また矢作川流域のリアル感を感じてもらいたいため、検討（案）のまま提示しました。これらの内容について、「スギダラ矢作川流域支部」活動の一環として展開していきたいと思います。また、こうした「木づかいガイドライン」による取り組みを矢作川流域一体で進めていく時の思想的なものとして「矢作川ディズ」も作りましたので、併せて紹介します。

根羽村での木づかい検討会・どこでもブランコの試乗

木づかいガイドライン　市民編A（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	根羽
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
3	自分でマイお箸を作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	ネバリン	小学生	根羽
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	根羽小	大人	根羽
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	ネバリン	小学生	根羽
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	根羽小	小学生	マイルーム
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	原っぱ
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	丹羽	ファミ	恵那
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう（サクラ山・花の山）	伐採者秀美	新婿	根羽
11	木の幹（マイツリー）にハンモック（どこでもマイウッドデッキも）を吊るして涼しく昼寝してみよう・山の中のコーヒータイムを楽しもう	丹羽・ハンモック2000	ファミ	恵那
12	ツリーハウスに遊びに行こう	T建設	ファミ	根羽檜原
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	ネバリン	女子	根羽檜原
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	根羽小	女子	お風呂
15	日本の代表50種の樹木を覚えよう（葉の標本づくりにチャレンジ）	豊田森組	大学生	豊田
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	豊田森組	小学生	豊田
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう（中房温泉）	中房温泉	青少年	安曇野

18	チェンソーアートを学ぼう	ネバリン	青年	根羽
19	色々な木のおもちゃづくりや木工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
20	きれいな川で遊ぼう	ＪＴＮ	小学生	根羽
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	こもれび	女子	根羽
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう（ブックレビューもつくろう）	ネバリン	読書人	安城
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう（信州大学農学部ゆりのき）	信・名大生	高校生	信大・名大
24	筏（ボート）で川下りにチャレンジしてみよう	筏隊・アル	中学生	岡崎・飯田
25	木のお店案内ブックをつくろう・木のアンテナショップに遊びに行こう	沖・松井	お仲間	流域内
26	スギダラチームの輪を広げて全生活空間をスギダラけにしよう	若杉・ 丹羽・今村	木の人	豊田駅・トヨタ 自・アイシング ループ・安城市
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	星と森の人	小学生	根羽森沢
28	木の科学実験で木を良く知ろう・木を使おう・木を楽しもう 輪っぱ弁当箱づくりにチャレンジしよう	根羽小・ 花野屋	小学生 ファミ	エコフルタウン 根羽
29	自分達の力で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	南木	山親父	根羽・豊田
30	自分達の力で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	山岳会・店	豊田隊	根羽・豊田
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	矢作川研	豊田人	豊田
33	木の小屋においでよ（中村好文さんと連携）	中村好文	開拓者	遊休農地

木づかいガイドライン　県・市町村編Ｂ（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェンソーによる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
4	山主自力間伐講座に参加してチェンソーを使って自分の山を間伐しよう	豊田森組	豊田人	豊田
5	セミプロ林業作業者養成講座に参加して林業就業者を目指そう	豊田森組	豊田人	豊田
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	豊田森組	豊田人	豊田
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	豊田森組	豊田人	豊田
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	各森組	森林所有者	豊田他
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を建てよう	各県	お施主	各県

16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	各県・工務店	お施主候補	各県
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	豊田・根羽・工務店	市町村	豊田・根羽
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	各県	市町村	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	根羽村	お施主候補	根羽
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	ネバリン	各NPO	根羽
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	根羽村	村民	根羽
22	根羽スギ柱材50本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	根羽	お施主	根羽
23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	ネバリン	森林所有者	根羽
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	各森組	小中学生	全市町村
25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	ネバリン	市町村	根羽
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう（豊田市・番外飯田市）	豊田飯田	市町村	豊田・飯田
27	長野県　信州型エコ住宅推進事業　50～80万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
28	長野県　信州型住宅リフォーム促進事業　20～50万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
29	岐阜県　産直住宅建設支援制度　105,000円相当の木材支給を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
30	岐阜県　ぎふの木で家づくり支援事業　20万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
31	岐阜県　ぎふの木で内装木質化支援事業　10万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
32	岐阜県　ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
33	愛知県　あいち認証材利用促進事業　構造材・造作材等8,000円/㎥の助成	愛知県	お施主候補	岐阜
34	材料施工分離発注方式で適正な木材製品価格で計画的に建築材料を入手しよう	豊田市	各市町村	豊田

木づかいガイドライン　業界編C（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	ネバリン	中・高校生	根羽
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	ネバリン	信大・名大・岐阜女子大他	根羽
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	ネバリン	山の人	根羽
4	森づくりの達人（森の民）になるために様々な技能を身につけよう	各森組	山の人	全流域
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	豊田森組	森林所有者	豊田
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう（オーダーメイドの山づくり）	ネバリン	秀美	根羽

7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	各森組	山の人	全流域
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	ネバリン	山の人	根羽
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	根羽・恵南	山の人	根羽・恵那
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	洲崎	女子	豊田
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	お施主	お施主候補	全流域
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	A建設	ファミ	根羽
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	A建設	ファミ	根羽
14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	販路開拓	ファミ	長野
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞きにいこう	事例集	市民	全流域
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	ネバリン	山の人	根羽
17	住宅建築フェアを見に行こう	ネバリン	お施主候補	開催地
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	ネバリン	保育園	東京
19	N社企画　需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	N社	市民	豊田
20	N社企画　パワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	N社	市民	豊田
21	木曽川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	N社	市町村	豊田
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	ネバリン	山の人	全流域
24	スギダラどこでもシリーズで世の中をスギダラけにしよう	ネバリン	市民	全流域

木づかいガイドライン　研究編D（案）

NO	内　　容	提案者	モニター	場所
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	信大	市町村	根羽
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	信大	市町村	根羽
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	信大	山の人	根羽
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	信大	森林所有者	根羽
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	信大	女子	根羽
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	信大	市町村	根羽
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	実践者	対象者	根羽
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	信大	市町村	根羽
9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	ネバリン	集落	根羽
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	ネバリン	工務店	根羽

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす
森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い
矢作川ディズ～

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の３県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。

根羽村の子供が魚つかみの先生です

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の

交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆とし

て、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていたくなる魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

4　ウッドスタートの明るく楽しい未来への展望

矢作川流域における「木づかいガイドライン」の内容や「矢作川ディズ」の思想は、市民から始める「ウッドスタート」と言っても過言ではありません。国土交通省豊橋河川事務所で取りまとめを行っている「矢作川流域圏懇談会」ですが、市民、行政、業界、研究機関が毎月 1 回のペースで会合しており、これほど多様な参加者でこれだけ頻繁に会合している事例は珍しいのではないかと思います。ただ、愛知・岐阜・長野の各県の職員と各市町村職員の出席については、会合のタイミングや出席の必要性から必ずしも出席率は高いとは言えませんが、こうした里山の担い手の把握・連携、森づくりや木づかいについて、流域を意識して広い範囲から関係者が集まることは、これから推進していきたい「ウッドスタート」にとっては良いことだと思います。

「ウッドスタート」とは、家庭や職場など身近な生活空間に意識して木のある場面を作り出そうとする木づかい活動で、多くの企業やいくつかの市町村で「ウッドスタート」宣言がなされて、すでに活動が始まっています。「木づかいガイドライン」や「スギダラ矢作川流域支部」では、こうした「ウッドスタート」を推進していくきっかけづくりになれば良いと考えています。

「木づかいガイドライン」検討時にすでに多くの意見が出されていますが、山部会に参加されるような方々の全員が青少年期に自然の中で過ごしたことや、木工作、山登り、自然景観に対する感動等、様々な自然や森林や木に出会った楽しい経験を持っていることがわかりました。こうした経験が青少年時の豊かな感受性によって受け止められて、現在の森林や木に結びつく職業に就いている構図が見られました。このことは、青少年期に自然や森林や木に出会うことの重要性を感じさせます。これらのことから、普段、森林や木に接している山村の「森の民」等が、下流域の青少年に自

然や森林や木に出会う機会を作ったり、森林や木と過ごす時間の豊さを伝えてあげることが重要であると思います。

また、青少年は大人の背中を見て育つものなので、やはり大人が森林や木の世界と仲良しであること、森林や木と共に過ごす時間を楽しんでいるところを見せてあげるべきでしょう。

森林を扱う考え方や技術、木を工作する技能、このようなものはあらゆる機会をとらえて、青少年に伝えたいものです。こうした活動は、世代間の隔たりを超えて可能ですし、むしろお年寄りや熟練技能者のすごい技を青少年に伝える、というのはとても理想的だと思います。青少年は技能を引き継ぎ、お年寄りや熟練技能者は自分の技を教え伝えていくことで、自己の存在感・経験値の肯定感・生きがいを感じられることでしょう。

こうした、矢作川流域のいたる所で、木を絆とした地域や世代を超えた一体感を感じられること、自然や森林や木やそれらを教えてくれる方々への共感や尊敬、木の感謝祭の開催、自然や森や木のイベントを皆で考えて実施してみること、等が始まると、とても素敵です。こうした、流域内で取り組まれる様々な「木づかい」活動が地域や人の輪をつくることに、直接結びついていくことでしょう。

最後にこうした「木づかいガイドライン」や「スギダラ矢作川流域支部」の発足をきっかけとして、各地で「ウッドスタート」の取り組みを発進させ、世代や行政の垣根を超えた矢作川流域の方々同士の人の輪を育成し、流域の森林資源の活用と森や木とのたくさんの出会いの場をつくることによって、矢作川流域を明るく楽しい未来に導きたいと思います。最後まで読んでいただき、どうもありがとう！！今後共、よろしくお願いします。

根羽村の木づかい推進担当者紹介
根羽村振興課長　小木曽秀美（右）
根羽村森林組合参事　今村豊（左）

☆☆　**山は素敵だ**　☆☆

連絡先
根羽村役場振興課　0265-49-2111
根羽村森林組合　　0265-49-2120

28「木の魅力と楽しさを伝える
木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績及び予定」

NO	イベント名	開催日	場所	備考
1	矢作川の源流 森の民と根羽村ツアー	4/15.16	根羽村	見学
2	おこしものをつくろう	4/16	豊田市 エコット	体験
3	野底山森林公園　さくら祭り	4/24	飯田市 野底山森林公園	展示
4	オールアイシン家族祭り	5/29	刈谷市 アイシン高丘工場	体験
5	矢作川流域ものさしをつくろう	6/29	根羽村	体験
6	木のおもちゃで遊ぼう 木育キャラバン	7/2.3	豊田市 エコット	体験
7	奥矢作川森林フェスティバル	7/16	豊田市	展示
8	アイシン夏の陣	7/23	根羽村	体験
9	安城市デンパーク無料開放デー	7/23	安城市 デンパーク	展示
10	わくわくネイチャースクール	7/25.26	根羽村	体験
11	南信州木工作体験	7/27	根羽村	体験
12	エコネット安城　里山体験	8/1	根羽村	体験
13	わくわくネイチャースクール	8/3.4	根羽村	体験
14	矢作川流域ものさしをつくろう	8/6	根羽村	体験 展示
15	輪っぱをつくろう 動く木のおもちゃ展	8/11.12	東京都 東急ハンズ新宿店	体験 展示
16	うるぎ星の森音楽祭	9/4	売木村 うるぎ星の森キャンプ場	体験 展示
17	エコネット安城	9/4	根羽村　根羽スギ弁当	食事
18	伊賀良小木工作体験	9/18	飯田市 伊賀良小	体験
19	信州大学農学部祭	9/22	南箕輪村 信州大学農学部	体験 展示
20	明治用水まつり	9/24	安城市	体験・ 展示
21	安城市中部公民館芸能祭り	9/25	安城市 中部公民館	体験 展示
22	東急ハンズ新宿店 20周年記念イベント	10/4	東京都 東急ハンズ新宿店	体験 展示

23	メッセナゴヤ 2016	10/26.27.28.29	名古屋市 メッセナゴヤ	展示
24	安城市グリーンツーリズム	11/2.3	根羽村 グリーンハウス森沢	体験
25	アイシン秋の陣	11/5	根羽村	体験
26	安城市明祥公民館祭り	11/12.13	安城市 明祥公民館	体験 展示
27	飯田合庁木づかい推進フェア	11/14～18	飯田市 飯田合庁	展示
28	田舎とまちの文化祭	11/20	豊田市	体験 展示
29	安城市中央図書館イベント	1/22	安城市 中央図書館	体験 展示
30	南信州間伐材フェア	3/12	飯田市	展示

注) 体験とは木のペンダントづくり、表札づくり、輪っぱづくり等である。
展示とはどこでもブランコ、どこでもウッドデッキ、どこでもオセロ、根羽物置、動く木のおもちゃ等である。

ブレーンストーミングの結果による木づかい推進の考え方

①ブレーンストーミングの結果、市民が主役となって生活の中で自然に木づかいを推進してもらうためには、市民のライフステージに合わせた取り組みが必要と考えられる。

②特に、子供の頃の自然との触れ合い等の原体験が、今後の自然観や森や木や水への関心度を高めることに対して、極めて重要であることが共通認識されているので、年少時からの木づかい推進の関わりを重視したい。

③矢作川流域ならではの森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイルをまず、市民生活の中において意識化（矢作川ディズ）させ、産官学の連携によって、中でも森林づくりや木づかい推進を特に意図しながら進めていきたい。

④市民のライフステージをベースにして多岐に渡る木づかい推進項目を整理し、各項目ごとにフォーマットを決めて検討を進めることで、テーマの絞り込み・集中化・関連する関係者の招集・ワーキング活動がやりやすくなると考えられる。例えば、今回のテーマは、Ａ－アー①という具合に。山部会での様々な木づかい推進アイデアを各ライフステージに盛り込んで形にしたい。

⑤推進項目のフォーマットが決定できれば、パターン化による電子媒体化・電子本・共通ホルダー化の作成も検討したい。場合によっては、市民からの情報収集も行いたい。

⑥市民が実践しているフリーペーパー「耕ライフ」誌のセンス・コンセプトを活かして、多岐に渡るテーマから順番にテーマを決めて、ポイント的に紹介して「矢作川ディズ」の見える化と推進を図りたい。

⑦推進項目やライフステージの区切りについては現行のイメージ（案）をベースに、ブレーンストーミングにより整理したい。

⑧ガイドラインの作成を進めるにあたり、森づくり・木づかいの最前線の方々の参加によるワークショップを実践したい。その方々の現行の取り組みやワークショップの取り組みをライフステージアタック表に整理して組み込むだけでも、矢作川流域オリジナルとなるトータル的な木づかいガイドラインが作成できると考える。

⑨各県の林業普及指導員が参加してくれることにより、森づくり・木づかい推進の各県の共通項目による情報収集・人の輪づくり・行政提案・活動実践がやりやすくなると考えられる。各県の指導員の密な連絡・連携体制を期待したい。

矢作川ディズ　市民が行動を開始できる木づかいガイドライン　ライフステージアタック表

（案）

矢作川ディズなライフスタイルを確立するためのライフステージアタック対象	ライフステージの特徴	市民編A 森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイル矢作川ディズへの誘い **自発的活動** **こんなことを目指してさぁ～しよう**	行政編B 木づかい推進に向けた社会環境・システムづくりと矢作川ディズへの支援 **施策への導き** **このような意図で施策的に取り組んでいるのでさあ～しよう**	業界編C 楽しい矢作川ディズの演出や木の製品提供とそのことによる持続可能な地域産業・生業の確立 **魅力の伝達** **こんな魅力ある商品なのでさあ～しよう**	研究編D 木のすばらしさを伝えて木づかいを進め、森林や矢作川の持つ役割の大切を普及させる **提案型** **だからさあ～しよう**
ア 赤ちゃん～ 保育園の入園前 対象者数	人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100までも	① センス・オブ・ワンダーの大切さを理解しよう ② 木のぬくもりで育児をしよう ③ 家族で自然の息吹を感じよう ④ 安心して野外で遊	① お父さんと母さんと赤ちゃんのための優しい緑の散歩道づくり ② お父さんとお母さんと赤ちゃんのための優しい緑の公園づくり ③ 子供とお父さんお	① 子供の安全な子育てに配慮したベビーベッド ② 安心して使える木の食器 ③ 木のおもちゃの提案 ④ お風呂に浮かべる木の玉プレゼント ⑤ 小さな子	① 幼児期における木との触れ合いがもたらす効果 ② 幼児期における緑の空間がもたらす効果

		ぼう ⑤ 記念植樹をしよう ⑥ お母さんに読んでもらいたい本	かあさんが過ごしたい木と緑に囲まれた憩いの空間づくり	供さんに配慮した緑陰樹を植える	
イ 保育園児 対象者数	人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100までも 五感の発達	① 自然を感じてみよう ② 木で遊ぼう ③ 木と森の物語を楽しもう ④ 子供と楽しもう	① 木造保育園の設置 ② 身の回りの木造製品の施設設置 ③ 窓辺を覆う緑のカーテンづくり	① 木造保育園モザイク床パネル ② 保育園児のための積み木のプレゼント（針・広の樹種）	① 木造校舎が児童に果たす様々な効果 ② 保育園児の好きな形・玩具の研究
ウ 小学校 対象者数	感受性の高まり 自我の芽生え センス・オブ・ワンダー 人間関係の構築（仲間に対する信頼・友情等） 自分の力の認知	① 自然を五感で感じてみよう ② 自然観察をしてみよう ③ 君に教えるふるさとの木の四季の姿（マイツリーを見つけよう・植えよう） ④ 木の工作をしてみよう	① 子供たちが入っても安全な学有林の設置 ② 先生のための木育指導ガイドブック（流域編） ③ 先生のための木育指導研修 ④ 先生のためのブックレビュー	① 児童と先生のための山仕度セット（地下足袋・鉈・鋸セット） ② 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ③ 木のキットハウスの提案（木の工作室）	① 自然との出会いがもたらす創造力・観察力・協調性の効果 ② 木造校舎が児童にもたらす情操効果 ③ 子供のための木の科学実験ガイドブック ④ 森の働きについての理解を高める教材づくり

		⑤ 木の面白科学実験で木を好きになろう ⑥ ネイチャーゲームで楽しもう ⑦ 森の中で秘密基地を作ろう ⑧ ボルダリングで岩を楽しもう ⑨ ツリークライミングで木を楽しもう ⑩ ツリーハウスを作ってみよう ⑪ こんな本を読んでみよう ⑫ 木と森の物語を楽しもう ⑬ 川に行ってプラナリアを見つけよう	⑤ 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ⑥ 入学祝い・卒業記念になる机・椅子セットのプレゼント ⑦ 少年たちに向けた地域と結びついた水と木と森の物語の創作 ⑧ 小学校の授業に山の授業を導入 ⑨ 地下足袋を揃える	④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り・ツリーハウス ⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント ⑥ 端材を活用した教材キットの開発	
エ 中学校 対象者数	思春期	① 木の名前と特徴を知ろう	① 森と木に親しむ中学生のた	① 児童と先生のための山仕度	

		② 仲間と海から水源（逆も可）を目指す流域の旅に出かけよう ③ 流域の面白い場所を見つけよう ④ 自然の中でチャレンジしてみよう ⑤ こんな本を読んでみよう ⑥ 山づくりのプロの技を見よう	めのチャレンジ読本の創刊 ② 森と木に親しむ技能ブックの紹介 ③ 大工と建てる木の家と内装 ④ 森と川と共に生きた人々を学ぶ	セット（地下足袋・鉈・鋸セット） ② 地元の木を使用した魅力的な木造小学校の建築 ③ 木のキットハウスの提案（木の工作室） ④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り ⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント	
オ 高等学校 対象者数	人生の選択	① 矢作川流域圏懇談会の調査に参加してみよう ② 身近な里山を活用するプランづくりをしてみ	① 緑と川と共に生きていくライフスタイルの提案 ② 木と緑と川の最前線で働く卒業生に	① 私達の木と緑の職業案内 ② 地域を活かした地域産業ガイダンス	① 木と緑と川のための新たな研究者を求めるガイダンス

		よう	今の職業を聴く ③ 地域づくりを目指す若者のためのふるさとの自然を教える行政主導のガイダンス		
カ 大学 専門学校 対象者数	自我の確立	① 森や木や流域に対するテーマを見つけてみよう ② 地域社会の改革にチャレンジしてみよう ③ 遊休農地・里山活用にチャレンジしてみよう ④ 地域で活躍している人たちに会いにいこう ⑤ マイチェンソーを持ちましょう	① 学生の研究や起業チャレンジのためのフィールド提供	① 各県の林業研究機関と連携した木質化推進テーマ研究	② キャンパス内の木質化・都市部等の木質化に関する研究 ③ 水源地域での大学演習林設置による市民に向けた森林学習

キ 就職 対象者数	社会人	① 自分の職場環境で木づかいを進めてみよう ②	① 就職記念の木のフィールド提供 ② 企業による毎年恒例記念植樹・緑の回廊づくりの場の提供	①木と共に暮らす様々なアイテム	
ク 市民・社会人 対象者数	ライフスタイルの確立	① 地元の木で家を建てよう ② 木のお店へ出かけてみよう ③ 木の木陰を見つけて散歩やサイクリングをしよう ④ 森や源流を訪ねて四季を楽しもう ⑤ 暮らしやすく魅力的な自然環境をつくろう ⑥ 身近な里山で母樹を見つけよう ⑦ 地域材住	① 市民や公共施設の木づかいを推進する様々な制度と支援策 ② 木づかいを推進するための業界と研究機関との連携やシステムづくり ③ 木づかいによる公共空間づくり市民活動スギダラ ヒノダラ 広ダラ 矢作川の実践 ④ 木と森と	① 地元の建築士・工務店による様々な木の住まい提案 ② 様々な木の製品を扱うお店からの住まい提案 ③ 各社の快適住まい最新提案 ・ 断熱 ・ 結露 ・ 防水 ・ 温度・湿度調整 ・ 防音 ④ 広葉樹の利用編 ⑤ 径級別建築部材確保による建築部材	① 木の住まいの魅力を伝える様々な科学的データ ② ウッドマイレージの考え方による国産材の普及 ③ 木造公共施設の低コスト建築方法

		宅の見学会に出かけよう ⑧ 木の住まいを考えるにはこんな本を読んでみよう ⑨ 里山の哲学と知的財産に会いに行こう	田舎との出会いバスツアー交通費支援 ⑤ 田舎の親戚制度で田舎を持つ ⑥ 木材のパイロット価格制度導入による木材の安定供給	の共通化 ⑥ 木材利用ポイント制度の普及	
結婚 対象者数	旅たち	① 記念樹を植えて木と共に生きよう ② 木の住まいを検討してみよう ③ ライフプランを考えよう ④ 素敵な木の教会での挙式 ⑤ 森に祝福される日	① 木づかいによる結婚式の素敵な演出・支援措置 ② 結婚記念林の設定	①木の結婚記念品の開発	
出産 対象者数	家族			① 木の出産記念品の開発	
マイホーム 対象者数	家族の和 生活拠点				
増改築	住まいの補修	① 現在の住	① 木づかい		

対象者数		まいを木造にしてみよう ② 室内の内装に木を使ってみよう	推進のための増改築支援		
セカンドハウス対象者数		① 仲間と集まる家を建てよう ② 里山サロンを作ってみよう ③ 遊休農地でクリエイティブな農業にチャレンジ	① 市民による木づかい推進・地域づくりのための活動拠点施設支援 ② 遊休農地活用と結び付けた里山活動拠点施設 ③ 田舎の親戚制度の創設	①小さく住まう住宅提案	
市民・社会活動対象者数	森づくり・木づかいを通しての人生の楽しみ	① 皆が集まる公共空間を木と緑の憩いの空間に変える ② 木づかいや流域を愛する気持ちをつなげ絆を高める矢作川ディ			① 森の健康診断の結果報告 ② 木づかい推進による持続可能な地域づくりは可能なのか

		ズ駅伝（海から水源（1日目、水源から海2日目水源から海）をやってみよう ③ スギダラ・ヒノダラ・広ダラ矢作川運動の推進			
人生の達人 対象者数	後世にスピリットを伝える 後世に技術・技能を伝える	① 森づくりやその歴史を語ろう ② 自慢の我が家を紹介しよう ③ 森や木や矢作川の流れと共に暮らした良き日々を語ろう ④ 人生の達人者のお話を傾聴しよう	① 地域文化の発信施設	② 技能・文化の継承 ③ 達人が伝えたい森・木づかいの場	① 偉人達の足跡を後世にわかりやすく伝える

平成 28 年 9 月 16 日
13:30～
恵那

木づかいガイドライン作成資料について

1　木づかいガイドラインの意図していること

2　木づかいガイドライン作成依頼者について

3　その他

1　「木づかいガイドライン」の意図していること

① 市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと

② 現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取り組みを「見える化」すること

③ 「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること
「繋ぐ」ことがとても大切で、ここに流域で取り組む市民活動化の意義がある

④ その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しみを伝え、共感と活動を呼び起こすこと

⑤ 木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと。

⑥ 山村担い手事例集にあるような様々な地域の様々な山村・里山活動家が「木づかい推進」というテーマで「繋がり」、それぞれが主役になって「木づかいネット網」として連携し、すべての年代層を対象にした「木づかい」の原体験を与えること

⑦ 「木づかいガイドライン」を手に取ると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること

⑧ 日本人として木の文化を身近なものにすること

2　木づかいガイドライン作成依頼者

①業界編　根羽村森林組合　矢作川流域で木づかい推進を先導し、幼年時から社会人に至るまで、人生のあらゆる時間と場所で木づかいの場を創造する

NO	区分	作成依頼者	さあ～しよう	想定対象
1	業界	根羽村森林組合	木っころで遊ぼう	ア
2			森を歩いて川で遊ぼう	アイ
3			積木で遊ぼう	イ
4			木はがきを書いてみよう	イ
5			弓矢・木のペンダント・表札を作ろう	イ
6			木の科学実験にチャレンジしよう	イ
7			動く木のおもちゃを楽しもう	イウエオ
8			地下足袋と鉈を購入して、間伐や山仕事をやってみよう	イウエオ
9			様々な木工作にチャレンジしよう	イウエオ
10			流域ものさしを作って「私の流域物語」を書いてみよう	イウエオ
11			輪っぱづくりにチャレンジしよう	イウエオ
12			木の器を使ったお弁当販売をしてみよう	ウエ
13			林業の搬出現場を見学しよう	ウエオ
14			製材工場を見学しよう	ウエオ
15			地域材の住まいを見学しよう	ウエオ
16			森林をテーマにした研究にチャレンジしよう	エ
17			立木のヤング係数を調べよう	エ
18			物置をセルフビルドしよう	エオ
19			小屋をセルフビルドしよう	エオ
20			里山と都市公園でプレイスメイキング(木の魅力によって人々を笑顔にする場所の力づくり)にチャレンジしよう	エオ
21			地域材の家・建物を訪ねて木の魅力に触れよう	エオ
22			住まいの性能や将来の自分の家を考えてみよう	エオ
23			地域の材で木の家を建ててくれる工務店を訪ねよう	エオ
24			自分の家を地域の木を使って建てよう	エオ

注) 想定対象及び事例

・原体験を与えたいメインの年代層　(原体験の大切さは H25 ブレーンストーミングより)

・ア幼年　イ小・中　ウ高校　エ大学　オ社会人(H26 ライフステージ別アタック概念より)

・様々な事例は H27　木づかいライブ　スギダラキャラバン等の実績より

②市民編　山村担い手事例集からの木づかい推進提案

集	N0	取り上げられた方	想定　さあ～しよう
Ⅰ	1	根羽村森林組合	前記のとおり
	2	ねば杉っこ餅	「根羽のはこいり娘」弁当を楽しもう 自家制しいたけ栽培にチャレンジしよう
	3	根羽村猟友会	木を使って獣を捕獲してみよう
	4	恵南森林組合	地域の森づくりを学ぼう
	5	串原林業	自分たちの力で林業にチャレンジしよう オーダーメイドの山づくりをしよう
	6	NPO 法人　奥矢作森林塾	炭焼き、河川・公園環境整備、古民家リフォーム、里山体験にチャレンジしよう
	7	NPO 法人　福寿の里自然倶楽部	エコツーリズム　アライダシ原生林を訪ねよう　教育体験プログラムをつくろう
	8	矢作川水系森林ボランティア協議会	森の健康診断を学び実践しよう
	9	とよた森林学校	これからの森林活用と林業を学び山仕事にチャレンジしよう
	10	とよた森林学校 OB 会	親子で自然観察会に参加してみよう
	11	とよた都市農山村交流ネットワーク	山里の知恵を学ぶ様々な農山村体験にチャレンジしてみよう
	12	豊森なりわい塾	皆で森林と里山について語り合い、里山生活を実践して現代の百姓を目指そう
	13	(株) M-easy	日本再発信、若者よ田舎を目指そうプロジェクトに参加しよう
	14	旭木の駅プロジェクト	木の駅プロジェクトに参加しよう
	15	千年持続学校	自然エネルギーや大工技術を学びながら住まいをつくろう
	16	おむすび通貨	子ども夢の商店街で木と物々交換してみよう
	17	Green mama	子どもは地域で育てる方針のもと、木育を考えてみよう
	18	農業生産法人　みどりの里	
	19	NPO 法人　中部猟踊会・三州マタギ屋	
	20	岡崎森林組合	森の魅力とそれを発揮させる森づくりの意義を考えよう
	21	おおだの森保護事業者会	おおだの森を皆の力で名勝地にしよう
Ⅱ	22	木の駅ねばりん実行委員会	木の駅プロジェクトに参加して村のおじいとおばあの心と体を温めよう

	23	きくの会	木型を使って「からすみ」をつくろう
	24	山のハム工房　ゴーパル	炭火でゆっくり乾燥させてサクラの薪でいぶすハムづくりを学ぼう
	25	三宅林業	三宅林業の山づくり、木づかいの思想を学ぼう
	26	たけうち牧場	ログハウスづくりと地域の景観植栽を学ぼう　価格競争しないフェアトレードを考えょ得
	27	アンティマキ	野山で採取した草木で染物やリースを作ろう　田舎暮らしを語ろう
	28	てくてく農園	木や農産物の「おすそわけ」を考えよう ゲストハウスや空き家活用を考えよう
	29	あさひ若者会	ふるさと探訪フィールドワークで地域の魅力を感じてみよう
	30	あすけ里山ユースホステル	自然観察イベント・里山活動に参加して田舎の豊かさを感じてみよう
	31	新盛里山耕流塾	次世代を担う子どもたちに美しい里山を引き継ごう
	32	近藤しいたけ園	原木しいたけ栽培を学び実践してみよう
	33	こいけやクリエイト	里山で魅力的な活動をされている方々の様々な情報を入手しよう
	34	アグロ・プエルタ	畑で使える東屋づくり考えよう
	35	とよたプレーパークの会	子どもが主役の公園をつくろう 中高生によるプレイスメイキングを実行しよう
	36	NPO 法人　矢作川森林塾	矢作川の竹林伐採による景観整備と河畔林再生に取り組もう　都市部に都市林をつくろう
	37	矢作川水族館	川遊びイベントに参加して川の楽しさを見つけよう
	38	じさんじょの会	地域に残っている茅葺屋敷を整備しよう 地域の良さを伝えて移住者を引き寄せよう
	39	額田林業クラブ	森林所有者が実践する山づくりと、その次世代と行う地域材活用の事例を学びに行こう
	40	宮ザキ園	皆で三河紅茶街道をつくろう
	41	東幡豆漁業協同組合	海の恵みや浜辺の暮らしの素晴らしさを体験しよう　山から海へ砂を運ぼう
	42	佐久島 Oyaoya café もんぺまるけ	薪づくり、小屋づくり、野菜も作って自分の

			力で暮らしてみよう　半農半Ｘを語ろう
Ⅲ	43	飯伊森林組合平谷事務所	森林施業プランナーの仕事を学ぼう 観光間伐にチャレンジしよう
	44	天下杉	木を使った手品や喜劇の基本を学ぼう 人々の顔を笑顔にするツボを学ぼう
	45	夕立山森林塾	安全で科学的な山仕事の楽しさを学ぼう
	46	おいでん・さんそんセンター	林業を生業にする「半農半林塾」にチャレンジしよう　田舎だから住みたいという社会をつくろう
	47	野外保育とよた　森のたまご	森の中で一日を過ごす「森のようちえん」を様々な場所で展開しよう　子どもも大人も一緒に成長しよう
	48	農村舞台アートプロジェクト実行委員会	豊田市の里山に存在している農村舞台をもっと活用しよう
	49	稲武山里体験推進協議会	自然体験、工芸体験、味覚体験等の魅力的体験を発掘して、里山の素敵な時間を楽しもう
	50	老人福祉センターぬくもりの里	やさしい美術作戦事業を発展させよう
	51	あさひ森の健康診断	子どもたちと行う地域住民主体の森の健康診断を広めよう　天然林も調査してみよう
	52	あさひ薪づくり研究会	自ら付加価値をつけて薪販売による収入を得よう
	53	有間竹林愛護会	矢作川の河畔の景観を良くし、散策ができる遊歩道をつくろう　たけのこ採りにチャレンジしよう
	54	あすけ聞き書き隊	お年寄りに昔の木づかいを聞いてみよう
	55	山里センチメンツ	
	56	しもやま再来るプロジェクト	自転車ラックや関連企画と景観整備で地域の魅力を高めよう
	57	コレカラ商店・コレカラ農園・コレカラご飯	人がやってもらいたいことをやってみようというライフスタイルで自立しよう
	58	First-hand	国産無垢材の家具と暮らしの道具に会いにいこう　人と木をつなげるプロジェクトを学ぼう
	59	額田木の駅プロジェクト	木の駅プロジェクトで山も地域も元気になろう
	60	日近太鼓	木の打楽器、太鼓をもっと楽しもう
	61	烏川ホタル保存会	烏川ホタルの里を皆で管理してホタルを楽しもう

	62	岡森フォレスターズ	山の自然や山仕事、山里暮らしの日常明るく歌おう　しんどい仕事の中でも楽しくやろうぜソウルを広めよう
	63	蒲郡市漁場環境保全協議会	豊かな魚場づくりを山からの視点で考えよう
	64	島を美しくつくる会	自然のままとアートの世界の木づかいを考えよう

「流域ものさし」を懇談会内でどのように展開したらよいか

まず、基本的な考え方は、次のとおりです。
キーワードは「繋がる」です。
「流域ものさし」は様々な木の組木で流域が繋がっています、私の想いで相手と繋がっています、という感覚です。

「流域ものさし」は、こうした「繋げる」アイテムです。繋がった人どうしで新たな活動が生まれるのが理想です。
ということで、各部会合同で「流域ものさし」を作ってもらうのがあらゆる意味でひとつの連携のきっかけになるかもしれません。
そこで、各人「私の流域物語」を書いて、まず流域内で交換して「繋ぐ」ということを実践できればと思います。

それも、どうせなら皆が各人の流域物語を読めるようにすると、各人の想いが伝わり、とても良いのでは、と思います。

連携テーマは木づかい、土砂、ごみですが、今までの各部会の活動実績を含め、改めて矢作川流域でそれらのテーマの理想とする「形」を提案する、ということでよいような気がします。

その理想提案に向けて、個人、業界、行政、研究機関等が、どれだけその重要性を理解して、統一性をもって動けるか、だと思います。

なので、

例えば木づかいなら、まず実践を通して皆さんの記憶に残ることを意識してきました。意図的で理想的な活動で記憶に残るということは、共感を得られたということだと思います。

その「共感」もキーワードで、この取り組みは「共感が得られた」、という感覚をとても大切にしてきました。なぜなら、その共感は市町村の予算化等、持続可能な活動の資金源となり、経済活動の一環として定着させられる可能性があるからです。

それで木づかいですが

①普遍的に必ず流域のどこかで森の民等が「木づかいライブ　スギダラキャラバン」的な体験等を行い、市民に木の魅力と楽しさを発信していること(市町村での予算化も理想)

②その地域で地元と結びついた小中学生等を対象とした木育活動が行われていること(市町村での予算化も理想)

③積極的に地域に地域の材料を用いた木造公共施設等を作っていること

④地元製材工場等と結びついて、小屋、物置き、暮らしの中で使える木のアイテム等が流域の木で作られ、また普通に生活の中で使われること

⑤そんな取り組みを「木づかいガイドライン」として「さあ～しよう」の形で見える化して、誰でも実践できるようにすること

⑥これらの取り組みを通し、最終的に流域内の山村等に定住して農林業や木づかい等を担う若者を生み出すこと

⑦そんな若者が流域連携を通して農山村での魅力的なライフスタイルを自ら発信し、農山村を楽しく元気あふれる空間に導いていくこと

という方向性を流域の「共通認識」とし、この認識によって流域内の個々が「繋がり」、個々のそれぞれの立場で方向性に沿った活動が実践できればよいのではないでしょうか。

山川海部会で繋がるアイテムは何でしょうか。森と川と魚と流れのアイテム(根羽村の根羽村里山プロジェクトのきれいな水のアイテム＋森＋イワナ＋アマゴ＋アユ＋海＋貝等の各一体的なアイテム)でしょうか。森、アユ等は木型で作成、水はアクリル等で作成したら面白いですね。予算化してチャレンジしてみますか。

さて、話が脱線しましたが、流域ものさしに関する展開は次のようなことをイメージしています。

「流域ものさし」の今後の展開

①「流域にある木を使ってものさし」をつくれる、ということを知ってもらう

②それに個人の想いを託して、自分の好きな場所や出来事等を紹介する「私の流域物語」を書くことによって、魅力的な流域の概念を個人が持つ

③流域ものさしと流域物語をセットにして、他流域の方と交換することよって、他流域と「繋げる」ことがポイントなので、皆のメッセージをまとめて

見えるようにストックする。例えば、今村の「私の流域物語」をストックしておいて、全国どの流域にも発信できるようにする。

④そのメッセージを他流域、例えば天竜川の流域の方と交換する。

⑤流域内でも同じで、川部会、海部会の人たちに「流域ものさし」と「私の流域物語」を作成してもらい、それを山部会の人たちと交換する。

⑥その時のポイントとして、グループ内で交換を実践するならその中で「私の流域物語」をオープンにすると良いと思います。

平成 28 年 11 月 25 日
13:30～
根羽村

木づかいガイドライン作成資料について

1　山部会、川部会、海部会が一体となった「流域の魅力を創造する市民参加型プロジェクト」について

2　木づかいガイドライン作成について

3　豊田市の空間デザインについて

4　その他

1　山部会、川部会、海部会が一体となった「流域の魅力を創造する市民参加型プロジェクト」について

①矢作川流域ものさしと私の流域物語を使って、ひとり一人が流域の魅力を発信する

山部会、川部会、海部会が一緒に「矢作川流域ものさし」を数本作成し、他部会と「ものさし」交換する。発展型は、流域活動が盛んな山梨県・神奈川県道志川流域等とコラボして、流域概念を矢作川以外にも広げる。流域の魅力を流域住民がお互いに伝え合うように、地域紹介・地域自慢となる「私の流域物語」を作成し、それをPDFで配信または耕ライフ別冊号で「私の流域物語」として特集して、きっかけづくりを図る。そこから継続できる市民労働参加型プロジェクトをブレーンストーミングにより検討する。

②山部会どこでもシリーズを使った旬の時期の旬のお祭りを開催する。矢作川流域まつり

旬の時に旬なことをそれぞれの部会が協力して相乗りイベントを行う。矢作川流域の山、川、海の魅力を感じさせるための市民参加型イベントを考える。

山の恵み	山菜、山取り緑化木、山の丸太、しし鍋、どこでもシリーズ、樹木しらべ
山の生活	木のチェンソー伐採・トリトンによる加工・木工製作して販売
川の恵み	鮎、船下り、スギ和船づくり、魚つかみ、透明度しらべ、生き物しらべ
川の生活	投網、竹林整備、ウナギとり
海の恵み	魚、貝、海産物、海のきらめき
海の生活	魚とり、海辺歩き、夕焼け鑑賞、堤防釣り

根羽村森林組合で新緑の頃「森と川と海の感謝祭」を開催する
豊田橋下広場で「川と森と海の感謝祭」を開催する
東幡豆漁業協同組合で「海と川と森の感謝祭」を開催する

③流域の魅力を創造する市民創造・労働参加型プロジェクトに取り組む

山村担い手事例集の方々を核として市民創造・参加型プロジェクトを発進させる。
茶臼山から矢作川河口までの自転車ルートを開拓し、森林組合、川漁業協同組合、東幡豆漁業協同組合が中継施設を斡旋する。矢作川の流れに沿って自転車スタンドの設置と活動拠点協力店を募集して、そこに立ち寄ると木と川と海の記念品をもらえるようにする。
水源の歩道づくり、遊休農地での苗木づくり、里山の植栽、その他

④市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトを考える

山の部会プレイスメイキングセットを矢作川流域のいくつかの公園施設を拠点として展開できるように、行政に協力を求め、川部会と海部会共同で展開する。
どこでも吊り橋、どこでも六畳ハウス設置、テーマ別山小屋、香嵐渓型プレイスメイキング

2　「木づかいガイドライン」の意図していること

① 市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと

② 現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取り組みを「見える化」すること

③ 「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること
「繋ぐ」ことがとても大切で、ここに流域で取り組む市民活動化の意義がある

④ その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しみを伝え、共感と活動を呼び起こすこと

⑤ 木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと。

⑥ 山村担い手事例集にあるような様々な地域の様々な山村・里山活動家が「木づかい推進」というテーマで「繋がり」、それぞれが主役になって「木づかいネット網」として連携し、すべての年代層を対象にした「木づかい」の原体験を与えること

⑦ 「木づかいガイドライン」を手に取ると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること

⑧ 日本人として木の文化を身近なものにすること

3　木づかいガイドライン作成について

①業界編　根羽村森林組合　矢作川流域で木づかい推進を先導し、幼年時から社会人に至るまで、人生のあらゆる時間と場所で木づかいの場を創造する

NO	区分	作成依頼者	さあ～しよう	想定対象
1	業界	根羽村森林組合	木っころで遊ぼう	ア
2			森を歩いて川で遊ぼう	アイ
3			積木で遊ぼう	イ
4			木はがきを書いてみよう	イ
5			弓矢・木のペンダント・表札を作ろう	イ
6			木の科学実験にチャレンジしよう	イ
7			動く木のおもちゃを楽しもう	イウエオ
8			地下足袋と鉈を購入して、間伐や山仕事をやってみよう	イウエオ
9			様々な木工作にチャレンジしよう	イウエオ
10			流域ものさしを作って「私の流域物語」を書いてみよう	イウエオ
11			輪っぱづくりにチャレンジしよう	イウエオ
12			木の器を使ったお弁当販売をしてみよう	ウエ
13			林業の搬出現場を見学しよう	ウエオ
14			製材工場を見学しよう	ウエオ
15			地域材の住まいを見学しよう	ウエオ
16			森林をテーマにした研究にチャレンジしよう	エ
17			立木のヤング係数を調べよう	エ
18			物置をセルフビルドしよう	エオ
19			小屋をセルフビルドしよう	エオ
20			里山と都市公園でプレイスメイキング(木の魅力によって人々を笑顔にする場所の力づくり)にチャレンジしよう	エオ
21			地域材の家・建物を訪ねて木の魅力に触れよう	エオ
22			住まいの性能や将来の自分の家を考えてみよう	エオ
23			地域の材で木の家を建ててくれる工務店を訪ねよう	エオ
24			自分の家を地域の木を使って建てよう	エオ

注) 想定対象及び事例

・原体験を与えたいメインの年代層　(原体験の大切さは H25 ブレーンストーミングより)

・ア幼年　イ小・中　ウ高校　エ大学　オ社会人(H26 ライフステージ別アタック概念より)

・様々な事例は H27　木づかいライブ　スギダラキャラバン等の実績より

②市民編　山村担い手事例集からの木づかい推進提案

集	N0	取り上げられた方	想定　さあ～しよう
Ⅰ	1	根羽村森林組合	前記のとおり
	2	ねば杉っこ餅	「根羽のはこいり娘」弁当を楽しもう 自家制しいたけ栽培にチャレンジしよう
	3	根羽村猟友会	木を使って獣を捕獲してみよう
	4	恵南森林組合	地域の森づくりを学ぼう
	5	串原林業	自分たちの力で林業にチャレンジしよう オーダーメイドの山づくりをしよう
	6	NPO 法人　奥矢作森林塾	炭焼き、河川・公園環境整備、古民家リフォーム、里山体験にチャレンジしよう
	7	NPO 法人　福寿の里自然倶楽部	エコツーリズム　アライダシ原生林を訪ねよう　教育体験プログラムをつくろう
	8	矢作川水系森林ボランティア協議会	森の健康診断を学び実践しよう
	9	とよた森林学校	これからの森林活用と林業を学び山仕事にチャレンジしよう
	10	とよた森林学校 OB 会	親子で自然観察会に参加してみよう
	11	とよた都市農山村交流ネットワーク	山里の知恵を学ぶ様々な農山村体験にチャレンジしてみよう
	12	豊森なりわい塾	皆で森林と里山について語り合い、里山生活を実践して現代の百姓を目指そう
	13	(株) M-easy	日本再発信、若者よ田舎を目指そうプロジェクトに参加しよう
	14	旭木の駅プロジェクト	木の駅プロジェクトに参加しよう
	15	千年持続学校	自然エネルギーや大工技術を学びながら住まいをつくろう
	16	おむすび通貨	子ども夢の商店街で木と物々交換してみよう
	17	Green mama	子どもは地域で育てる方針のもと、木育を考えてみよう
	18	農業生産法人　みどりの里	
	19	NPO 法人　中部猟踊会・三州マタギ屋	
	20	岡崎森林組合	森の魅力とそれを発揮させる森づくりの意義を考えよう
	21	おおだの森保護事業者会	おおだの森を皆の力で名勝地にしよう
Ⅱ	22	木の駅ねばりん実行委員会	木の駅プロジェクトに参加して村のおじいとおばあの心と体を温めよう

	23	きくの会	木型を使って「からすみ」をつくろう
	24	山のハム工房　ゴーバル	炭火でゆっくり乾燥させてサクラの薪でいぶすハムづくりを学ぼう
	25	三宅林業	三宅林業の山づくり、木づかいの思想を学ぼう
	26	たけうち牧場	ログハウスづくりと地域の景観植栽を学ぼう　価格競争しないフェアトレードを考えょ得
	27	アンティマキ	野山で採取した草木で染物やリースを作ろう　田舎暮らしを語ろう
	28	てくてく農園	木や農産物の「おすそわけ」を考えよう ゲストハウスや空き家活用を考えよう
	29	あさひ若者会	ふるさと探訪フィールドワークで地域の魅力を感じてみよう
	30	あすけ里山ユースホステル	自然観察イベント・里山活動に参加して田舎の豊かさを感じてみよう
	31	新盛里山耕流塾	次世代を担う子どもたちに美しい里山を引き継ごう
	32	近藤しいたけ園	原木しいたけ栽培を学び実践してみよう
	33	こいけやクリエイト	里山で魅力的な活動をされている方々の様々な情報を入手しよう
	34	アグロ・プエルタ	畑で使える東屋づくり考えよう
	35	とよたプレーパークの会	子どもが主役の公園をつくろう 中高生によるプレイスメイキングを実行しよう
	36	NPO 法人　矢作川森林塾	矢作川の竹林伐採による景観整備と河畔林再生に取り組もう　都市部に都市林をつくろう
	37	矢作川水族館	川遊びイベントに参加して川の楽しさを見つけよう
	38	じさんじょの会	地域に残っている茅葺屋敷を整備しよう 地域の良さを伝えて移住者を引き寄せよう
	39	額田林業クラブ	森林所有者が実践する山づくりと、その次世代と行う地域材活用の事例を学びに行こう
	40	宮ザキ園	皆で三河紅茶街道をつくろう
	41	東幡豆漁業協同組合	海の恵みや浜辺の暮らしの素晴らしさを体験しよう　山から海へ砂を運ぼう
	42	佐久島 Oyaoya café もんぺまるけ	薪づくり、小屋づくり、野菜も作って自分の

			力で暮らしてみよう　半農半Ｘを語ろう
Ⅲ	43	飯伊森林組合平谷事務所	森林施業プランナーの仕事を学ぼう 観光間伐にチャレンジしよう
	44	天下杉	木を使った手品や喜劇の基本を学ぼう 人々の顔を笑顔にするツボを学ぼう
	45	夕立山森林塾	安全で科学的な山仕事の楽しさを学ぼう
	46	おいでん・さんそんセンター	林業を生業にする「半農半林塾」にチャレンジしよう　田舎だから住みたいという社会をつくろう
	47	野外保育とよた　森のたまご	森の中で一日を過ごす「森のようちえん」を様々な場所で展開しよう　子どもも大人も一緒に成長しよう
	48	農村舞台アートプロジェクト実行委員会	豊田市の里山に存在している農村舞台をもっと活用しよう
	49	稲武山里体験推進協議会	自然体験、工芸体験、味覚体験等の魅力的体験を発掘して、里山の素敵な時間を楽しもう
	50	老人福祉センターぬくもりの里	やさしい美術作戦事業を発展させよう
	51	あさひ森の健康診断	子どもたちと行う地域住民主体の森の健康診断を広めよう　天然林も調査してみよう
	52	あさひ薪づくり研究会	自ら付加価値をつけて薪販売による収入を得よう
	53	有間竹林愛護会	矢作川の河畔の景観を良くし、散策ができる遊歩道をつくろう　たけのこ採りにチャレンジしよう
	54	あすけ聞き書き隊	お年寄りに昔の木づかいを聞いてみよう
	55	山里センチメンツ	
	56	しもやま再来るプロジェクト	自転車ラックや関連企画と景観整備で地域の魅力を高めよう
	57	コレカラ商店・コレカラ農園・コレカラご飯	人がやってもらいたいことをやってみようというライフスタイルで自立しよう
	58	First-hand	国産無垢材の家具と暮らしの道具に会いにいこう　人と木をつなげるプロジェクトを学ぼう
	59	額田木の駅プロジェクト	木の駅プロジェクトで山も地域も元気になろう
	60	日近太鼓	木の打楽器、太鼓をもっと楽しもう
	61	烏川ホタル保存会	烏川ホタルの里を皆で管理してホタルを楽しもう

	62	岡森フォレスターズ	山の自然や山仕事、山里暮らしの日常明るく歌おう　しんどい仕事の中でも楽しくやろうぜソウルを広めよう
	63	蒲郡市漁場環境保全協議会	豊かな魚場づくりを山からの視点で考えよう
	64	島を美しくつくる会	自然のままとアートの世界の木づかいを考えよう

豊田市　都心地区空間デザイン基本計画作成及デザイン監修

停車場線暫定形ワークショップ打ち合わせ　第１回

議事次第

１．顔合わせ

２．スケジュール確認
・今後の進め方の共有

３．デザイン　課題事項
・デザイン決定までのストーリー
・豊田市森林組合さんの関わり合い方
・製作にあたり、工務店の協力は？

プラチナ社会研究会

ご発表順

エントリーNo.	お名前	御所属	MEMO
1	井川　研司　様	(株)イトーキ	
2	今村　豊　様	根羽村森林組合	
3	岩上　寛　様	(株)本田技術研究所	
4	内山　隆太郎　様	東京共同会計事務所	
5	臼見　元恵　様	(株)日立製作所	
6	勝田　治　様	(株)ニコン	
7	加藤　榮一　様	(株)依佐美	
8	河野　通長　様	(株)ミチクリエイティブシティデザイナーズ	
9	佐藤　啓　様	NPO日本水フォーラム	
10	田邉　智　様	東京共同会計事務所	
11	阪野　宣昭　様	(株)依佐美	
12	丸　尚孝　様	(株)LIXIL	
13	吉永　謙嗣　様	日本製紙(株)	

35

Save Our Forest!
森林資源のフル活用に向けて
スギの用途を広げるビジネスアイデアソン
【本番】

プラチナ
社会研究会
新産業は、人が輝く暮らしから。

特定非営利活動法人 才の木
株式会社　三菱総合研究所

2016年12月8日

オリエンテーション

プラチナ
社会研究会
新産業は、人が輝く暮らしから。

1

プラチナ社会研究会

プレゼンテーション

お一人　4 分　ずつでお願いいたします。

簡単な自己紹介　＋　ビジネスアイデア発表

34

プレゼンテーション

プラチナ
社会研究会
新産業は、人が輝く暮らしから。

33

プラチナ社会研究会

プログラム全体の流れ

【Hop】 インプット講座
（森林・木材に関する基礎知識を得る）
2016年9月30日（金）
於：三菱総合研究所

【Step】 インスピレーション合宿
（森林の中で着想を得る）
2016年11月18日（金）～19日（土）
於：東京大学 富士癒しの森研究所

【Jump】 ビジネスアイデアソン
（次世代のために知恵を出す）
2016年12月8日（木）
於：三菱総合研究所

**成果物（アイデア）は、
主催者のメディア上で公開します。**

・写真撮影
・Web公開
・SNS配信
をご了承くださいませ。

2

プラチナ社会研究会

本日のご参加者

テーブル	お名前	会社名	ファシリテーター
1	井川　研司　様	(株)イトーキ	
	内山　隆太郎　様	東京共同会計事務所	
	岩上　寛　様	(株)本田技術研究所	
	福島　和彦　様	名古屋大学／NPOオの木	
	高橋　寿夫	(株)三菱総合研究所	○
2	田邉　智　様	東京共同会計事務所	
	勝田　治　様	(株)ニコン	
	石川　敦子　様	森林総合研究所/NPOオの木	
	竹村　彰夫　様	東京大学／NPOオの木	
	岡田　圭太	(株)三菱総合研究所	○
3	佐藤　啓　様	NPO日本水フォーラム	
	吉永　謙嗣　様	日本製紙(株)	
	加藤　榮一　様	(株)依佐美	
	蔵治　光一郎　様	東京大学／NPOオの木	○
	藤馬　裕一	(株)三菱総合研究所	
4	今村　豊　様	根羽村森林組合	
	阪野　宣昭　様	(株)依佐美	
	河野　通長　様	(株)ミチクリエイティブシティデザイナーズ	
	新谷　圭右	(株)三菱総合研究所	○
5	臼見　元恵　様	(株)日立製作所	
	丸　尚孝　様	(株)LIXIL	
	市田　憲　様	NPOオの木	
	宮崎　昌	(株)三菱総合研究所	○

3

プラチナ社会研究会

フリーディスカッション

【話題】

- インスピレーション合宿の成果について
- インスピレーション合宿ではフォーカスされなかったスギの用途について
- ビジネスモデリングについて

など

32

グループディスカッション

プラチナ
社会研究会
新産業は、人が輝く暮らしから。

31

プラチナ社会研究会

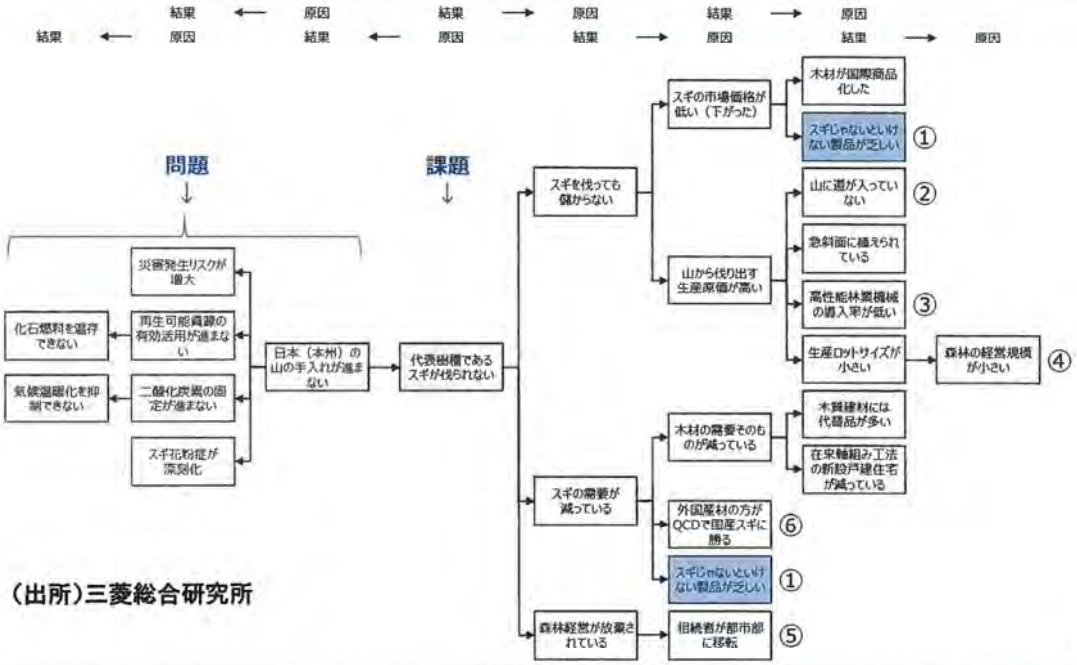
タイムテーブル

時間		内容
14:30	15分	開会、主催者ご挨拶、オリエンテーション
14:45	15分	インスピレーション合宿成果報告
15:00	45分	グループディスカッション
15:45	45分	ビジネスアイデアシート作成（個人ワーク）
16:30	10分	休憩
16:40	60分	プレゼン（お一人４分ずつ）
17:40	10分	投票
17:50		懇親会　乾杯
18:20		投票結果の発表、表彰
18:50		懇親会　中締め

4

プラチナ社会研究会

本プログラムの命題



（出所）三菱総合研究所

プラチナ社会研究会

サンプル

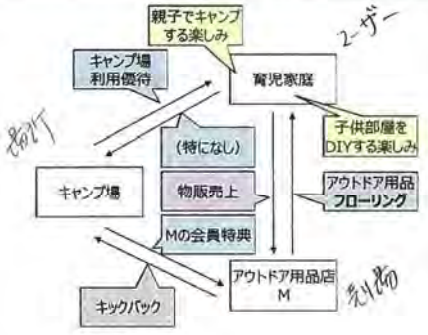
Save Our Forest! 森林資源のフル活用に向けてスギの用途を広げるビジネスアイデアソン【本番】

ビジネスアイデアタイトル	スギ無垢フローリングでキャンプファイアーを！ アウトドア用品店と連携した「子供部屋→キャンプ場」ホットライン
発表者	エントリーNo．99

ストーリー

息子が５歳になった。そろそろ親子でキャンプにいける年齢だな。
キャンプ用品を物色しにふらり立ち寄ったアウトドア用品店Ｍには、なんだか不思議なものが陳列されていた！
スギのムク板でできたフローリングである。どうして建材がこんなところに？
「子供部屋用。汚れたらキャンプファイヤーに！」と書いてある。
このスギの床材だが、サンプルに触れてみると、びっくり。あたたかく、やわらかく、香りもよい。これは触り心地がよい。でも確かに汚れそうである。
おっと、Ｍの会員になると優待されるキャンプ場もあるのか。そして、そこにこの床材を持っていくと、薪にして、焚き火が出来るという訳ね。
これは面白いかもしれない。焚き火は男のロマン。息子と一緒に、いまだけの特別な思い出をつくろう！！

バリューチェーン



【必要条件】
サービスB ≦ 価値A
カネC ≦ 価値C
サービスCの原価 ≦ カネC － カネD
サービスAの原価 ＋ サービスDの原価 ≦ カネD

プラチナ社会研究会

ワーク＆プレゼンシート（フリーフォーマット）

Save Our Forest! 森林資源のフル活用に向けてスギの用途を広げるビジネスアイデアソン【本番】

ビジネスアイデアタイトル	
発表者	エントリーNo.

29

インスピレーション合宿 成果報告

日時：2016年11月18日（金）19日（土）

会場：東京大学演習林「富士癒しの森研究所」

プラチナ社会研究会

新産業は、人が輝く暮らしから。

6

プラチナ社会研究会

参加者： 19名

20代～60代

男性（17名）
女性（2名）

林業従事者（2名）
木材産業従事者（5名）
農学部出身（9名）

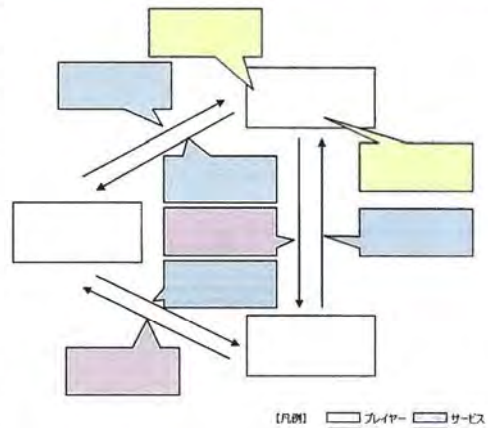
メーカー勤務（5名）
建設業勤務（1名）
不動産、介護サービス（1名）
大学教員（5名）
シンクタンク研究員（4名）
NPO（3名）
広告代理店OB（1名）

プラチナ社会研究会

ワーク＆プレゼンシート（三角取引）

Save Our Forest! 森林資源のフル活用に向けてスギの用途を広げるビジネスアイデアソン【本番】

ビジネスアイデアタイトル	
発表者	エントリーNo.

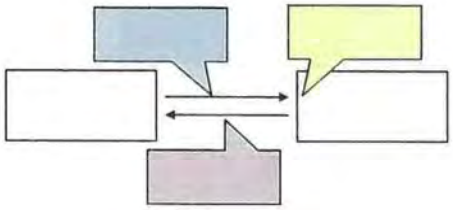
ストーリー	バリューチェーン
	

プラチナ社会研究会

ワーク＆プレゼンシート（相対取引）

Save Our Forest! 森林資源のフル活用に向けてスギの用途を広げるビジネスアイデアソン【本番】

ビジネスアイデアタイトル	
発表者	エントリーNo.

ストーリー	バリューチェーン
	

【凡例】 プレイヤー サービス カネ 価値

27

プラチナ社会研究会

演習林見学、紅葉狩り → インスピレーション

8

プラチナ社会研究会

建材の話、スギ製アイテムの体験 → インスピレーション

エンジニアリングウッド
＋木目調化粧

30mm板からの多様な展開、無塗装

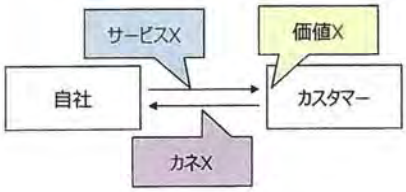
9

プラチナ社会研究会

ビジネスモデリング（バリューチェーン分析）

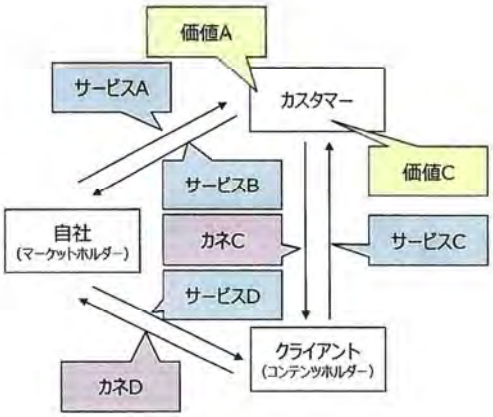
相対取引

注）
- ビジネスの原理は、ギブ&テイク
- サービスとは、何か（ヒト・モノ・カネ・情報）の使用権を与えること。
- メーカーは、製品（モノ）の使用権を与えるサービスを行っていると考える。



【必要条件】
カネX ≦ 価値X
サービスXの原価 ≦ カネX

三角取引



【必要条件】
サービスB ≦ 価値A
カネC ≦ 価値C
サービスCの原価 ≦ カネC － カネD
サービスAの原価 ＋ サービスDの原価 ≦ カネD

26

プラチナ社会研究会

ビジネスモデリング

What

How

商品

顧客

提供価値

×

収益モデル

25

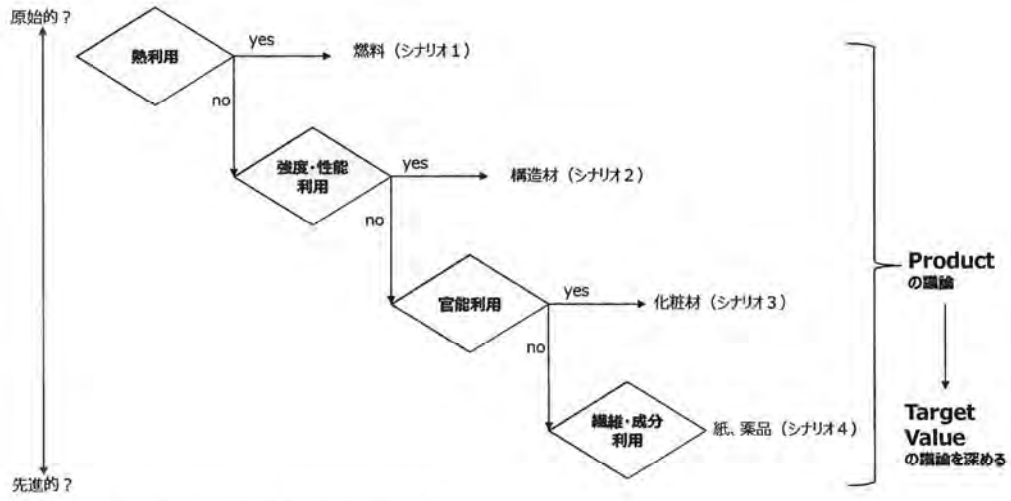
プラチナ社会研究会

新ストーブを囲んで懇親会 → インスピレーション

10

プラチナ社会研究会

ブレインストーミング：　スギの需要創造を考える切り口



※上記、シナリオ１～４、または組み合わせで着想

11

本日のワーク

プラチナ社会研究会
新産業は、人が輝く暮らしから。

24

プラチナ社会研究会

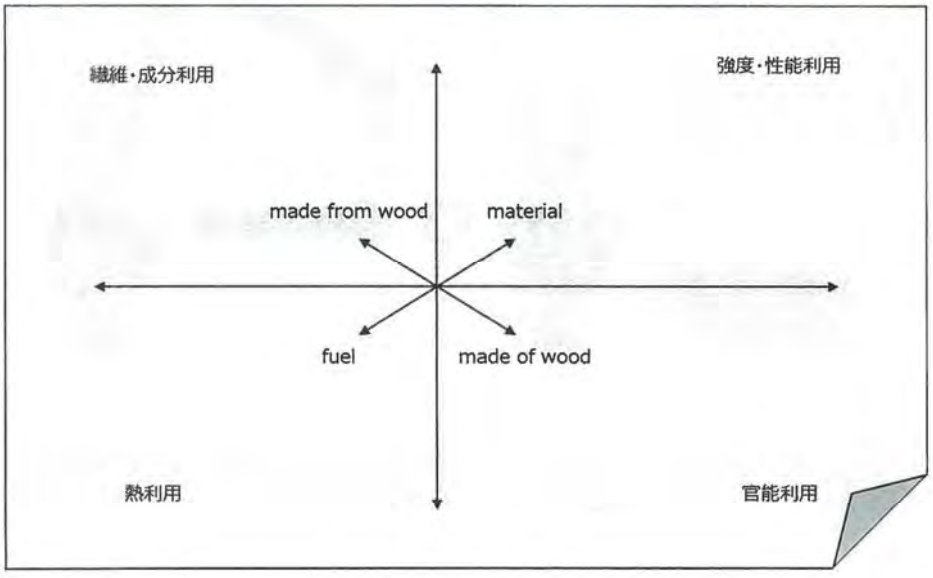
【参考】 焚き火とコンプライアンス

軽犯罪法	注意を怠ると刑法犯になる
自然公園法	指定箇所では焚き火は事前の許可が必要
自然環境保全法	原生自然環境保全地域での焚き火は原則禁止
都市公園法	都市公園の利用に著しい支障を及ぼす怖れのある行為は禁止 → 具体例：公園管理者が指定した場所以外で焚き火をすること
廃棄物処理法	廃棄物を燃やすのは規制の対象だが、焚き火は規制の対象外
消防法及び火災予防条例	消火のための準備をしていれば焚き火は可能
条例による規制	規模・場所・時間帯の制限や通知・注意義務がある自治体がある
管理組合等による自主規制	集合住宅地などで敷地内での焚き火が禁止されていることがある

23

プラチナ社会研究会

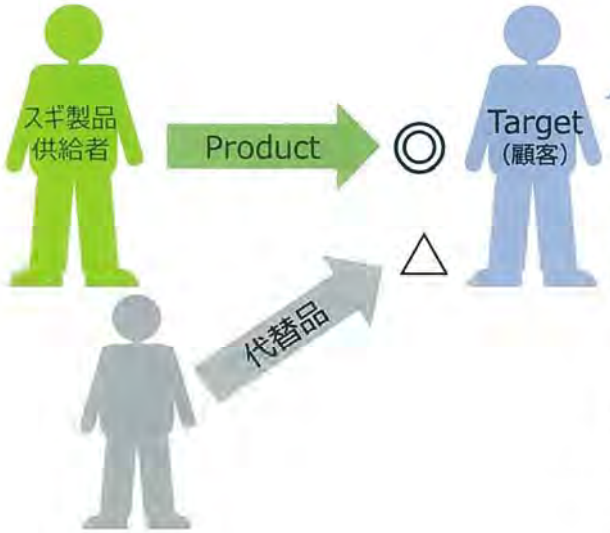
ブレインストーミング： スギの用途を考える下敷き



12

プラチナ社会研究会

ブレインストーミング： 商品 → 顧客 → 提供価値



顧客の深層心理を想像いたしましょう。

たとえば、「薪ストーブを使う人」は、単純に「熱」や「アメニティー」を求めているのではなく、「やさしくゆらめく炎の情景」や「特別に演出された空間での家族や仲間との団欒」を求めているのではないでしょうか？

（参考）「ハーレーダビッドソン」に乗る人は、「モビリティー」ではなく、「独特の音や振動」や「ロマン」を求めているといわれます。この顧客への提供価値を徹底追求しているがゆえにハーレーダビッドソンは、斜陽産業化した国内バイク市場において成長を続けています。

13

プラチナ社会研究会

例えば・・

	住空間（人が集う空間）の構成要素	焚き火（人が寄り添う非日常空間）
商品	普段は 丸太を積んだだけの壁	災害時には 炊き出しの燃料
提供価値	意匠としての面白さ	明かり、身体を温めてくれる熱 食事を作ることができる ※人間が野生で生きるための拠り所

いざというときに
薪にして焚き火

22

プラチナ社会研究会

例えば・・

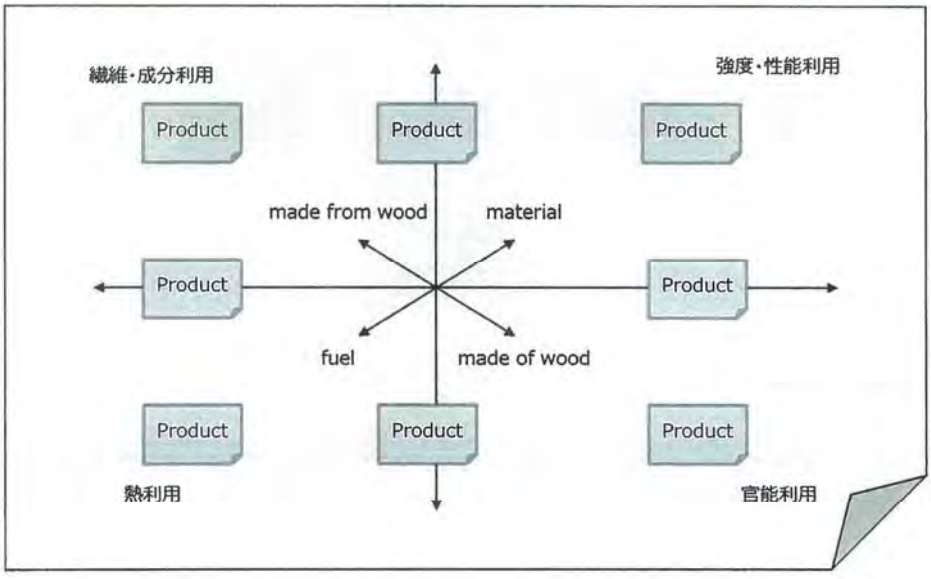
	住空間（人が集う空間）の構成要素	焚き火（人が寄り添う非日常空間）
商品	オフィスのフローリング ※靴を脱いで仕事をしよう！	職場の仲間たちとバーベキュー
提供価値	足裏への指摘による脳の活性化 冷え性の緩和 安らぎ	会社では見れない同僚の一面に触れる 仲間の絆

新調するときに
薪にして焚き火
（二段階利用）

21

プラチナ社会研究会

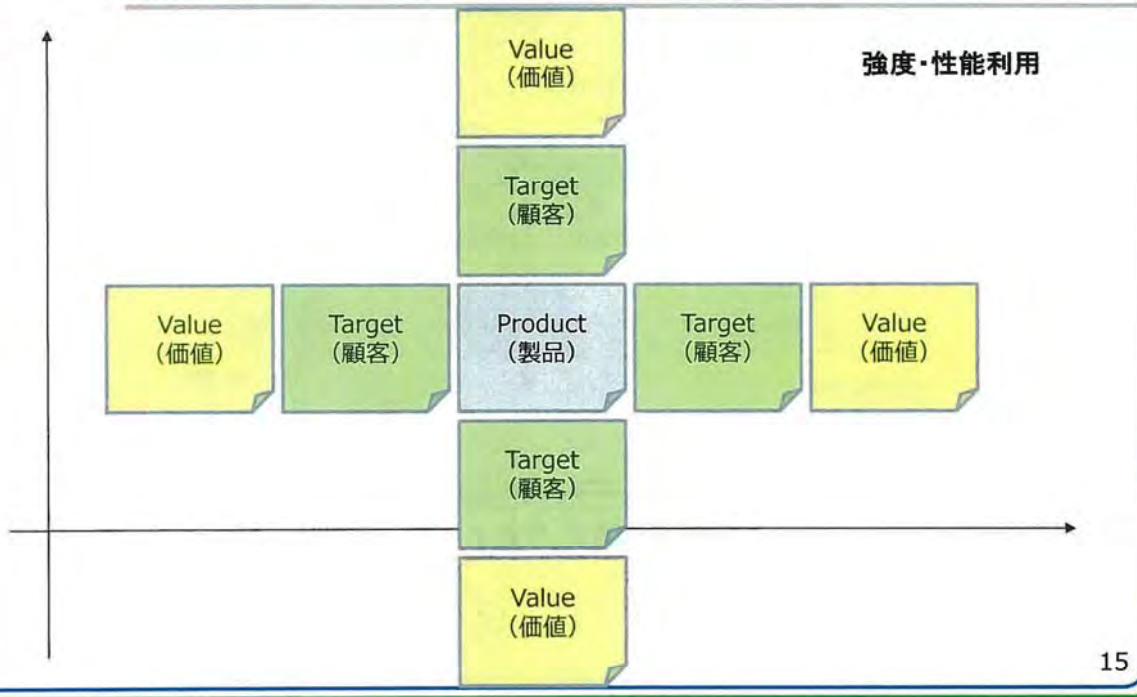
ブレインストーミング： アイデアのマッピングの仕方



14

プラチナ社会研究会

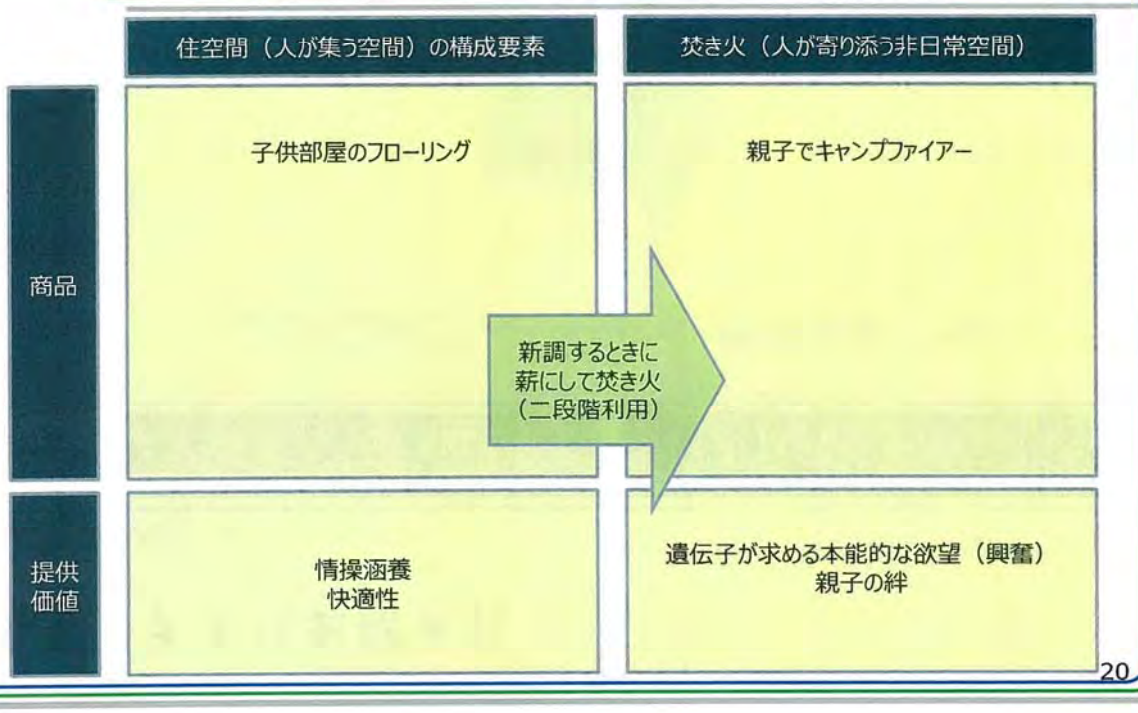
ブレインストーミング： アイデアのマッピングの仕方



15

プラチナ社会研究会

例えば・・



20

プラチナ社会研究会

共感が生まれたストーリー＝つくって楽しみ、燃やして楽しむ

	住空間（人が集う空間）の構成要素	焚き火（人が寄り添う非日常空間）
商品	内装材、外装材、家具、玩具、食器、小物 丸太や製材＋アルファの加工、無塗装 耐久性能は追求しない 消費者自身が組み立てる ※技能によって「コト」が実現	薪にする道具 安全に焚火できる場所 安全に焚火するための道具 後始末するための道具 ※技能によって「コト」が実現
提供価値	あたたかさ、やわらかさ、軽さ、香り がもたらす、安らぎや温もり ものづくりの楽しさ（わくわく） 新調したときの清々しさ	遺伝子が求める本能的な欲望（興奮） 人間が野生で生きるための拠り所（安らぎ） 自分の内面を見つめる時間 焚き火の香りにより想起される自然の情景

新調するときに
薪にして焚き火
（二段階利用）

19

プラチナ社会研究会

ワールドカフェ（4テーブル3回転）によるブレストの結果

16

プラチナ社会研究会

抽出されたキーワード

- 肌触り、あたたかみ、あたたかさ、やわらかさ、音
- 香り、お風呂、温泉気分、サウナ
- 割りやすさ（割裂性）、運びやすさ（軽さ）
- 調湿性

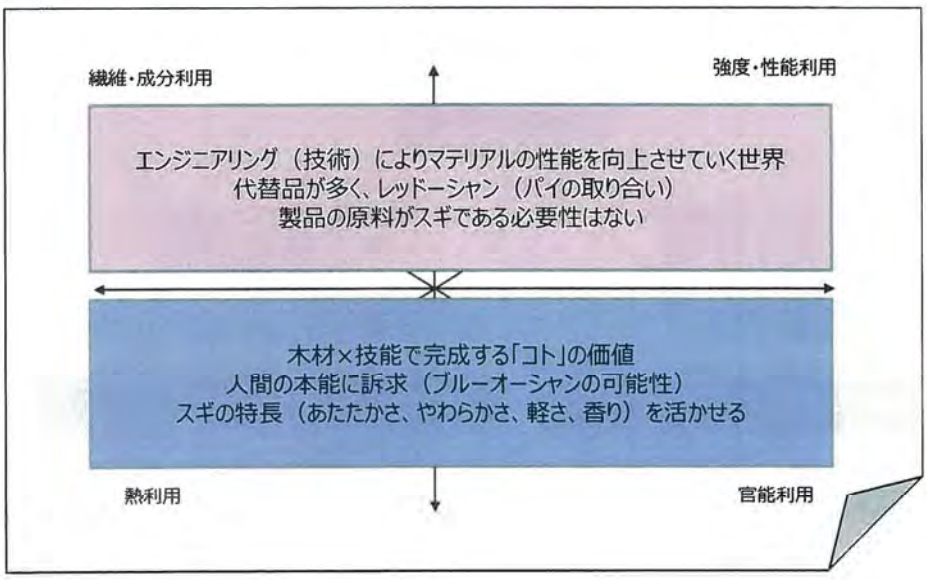
- 適度なローテク
- セルフビルド、DIY、リフォーム、衣替えハウス、パッケージ
- 変態商法、発想力、手作り感
- 焚き火、薪ストーブ
- キャンプ、グランピング、ログキャンドル、丸太皿、ダイナミック、非日常
- 人が集う、安全・安心

- 子育て、情操、保育園、木のおもちゃ、成長記録
- オフィスワーカー、ストレス、裸足、冷え性
- 高齢者、リハビリ、手や指の機能回復、かんおけ
- 老若男女
- 防災、災害時の燃料、炊き出し、都市公園

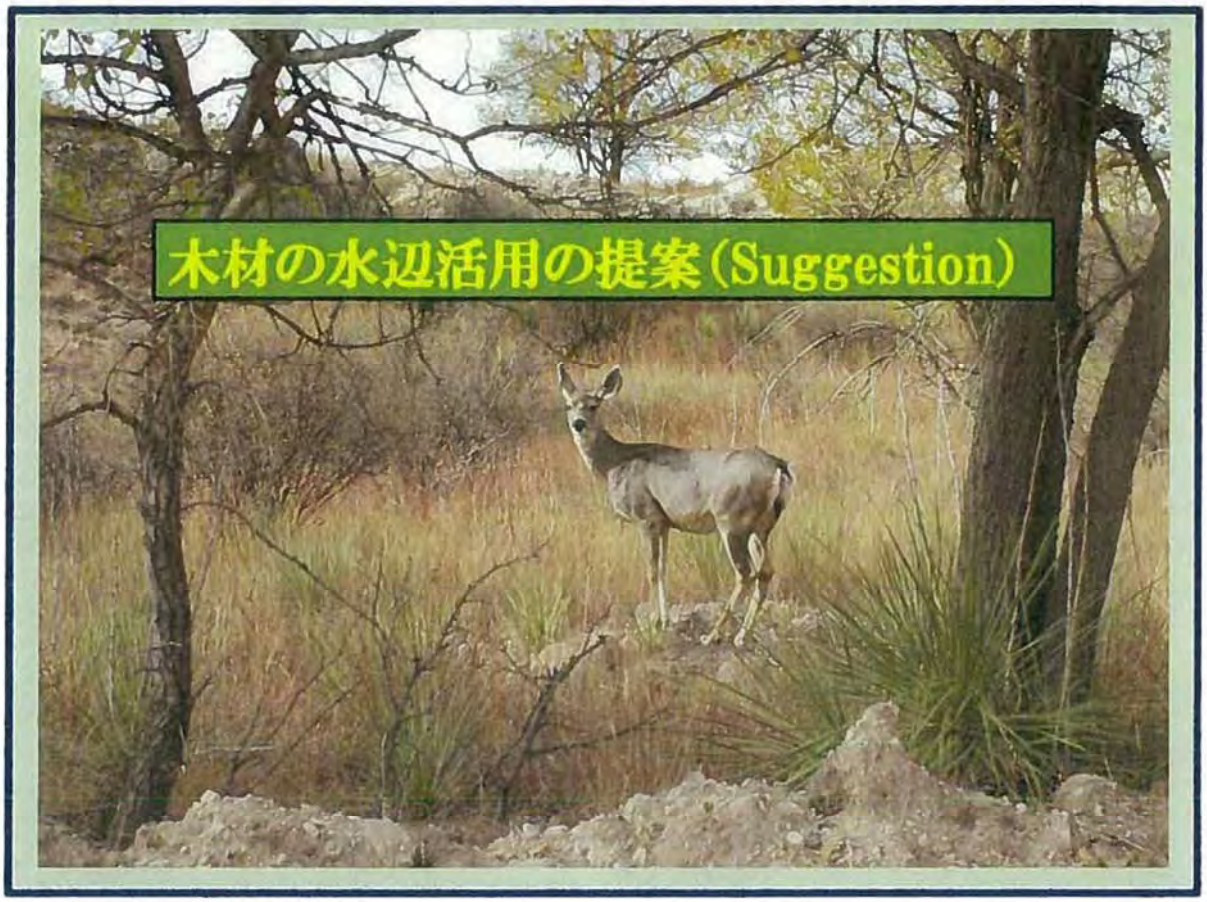
17

プラチナ社会研究会

インサイト：



18


木材の水辺活用の提案（Suggestion）

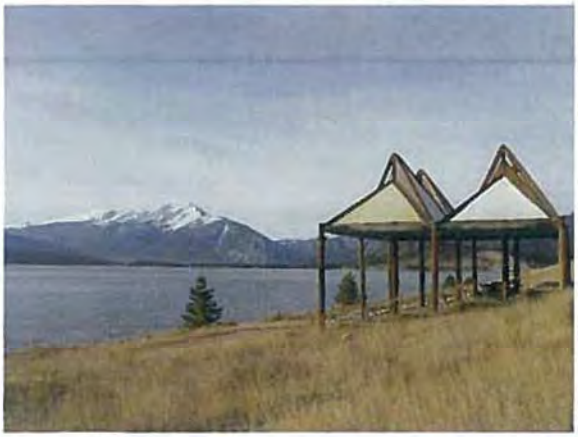
GRAND TETON

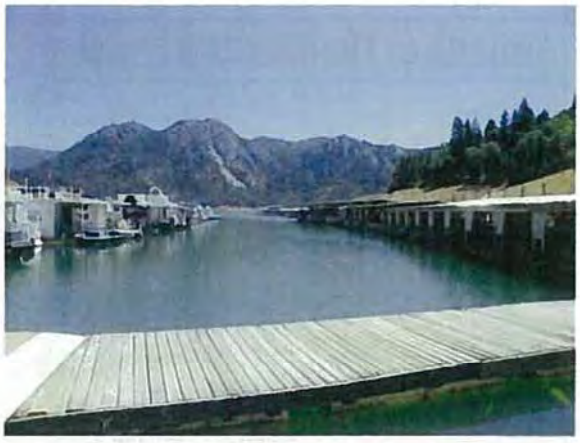
West Shore State Park

UNITED STATES
DEPARTMENT OF INTERIOR
BUREAU OF RECLAMATION
JACKSON LAKE DAM
AND
RESERVOIR

Ski Beach
LAUNCHING FACILITY

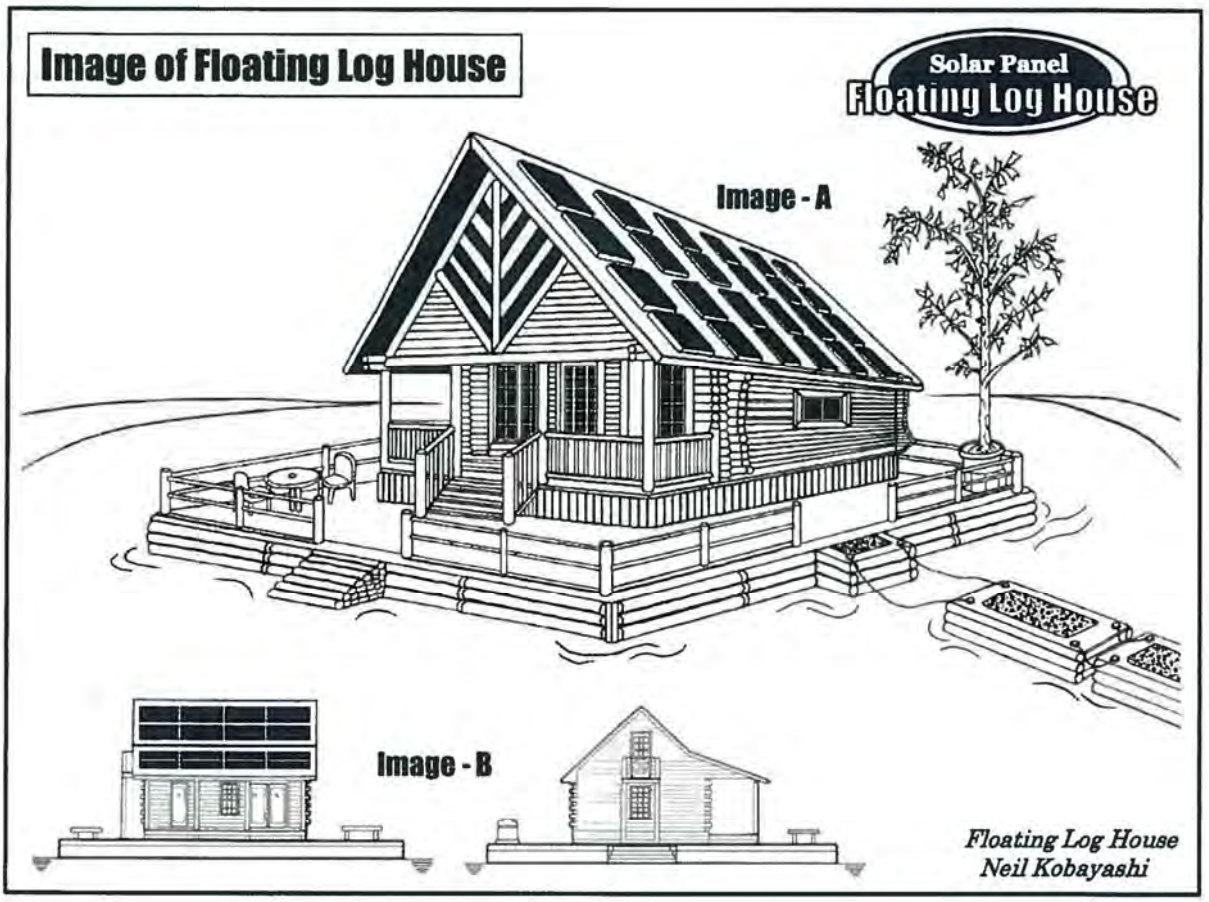
1ページ



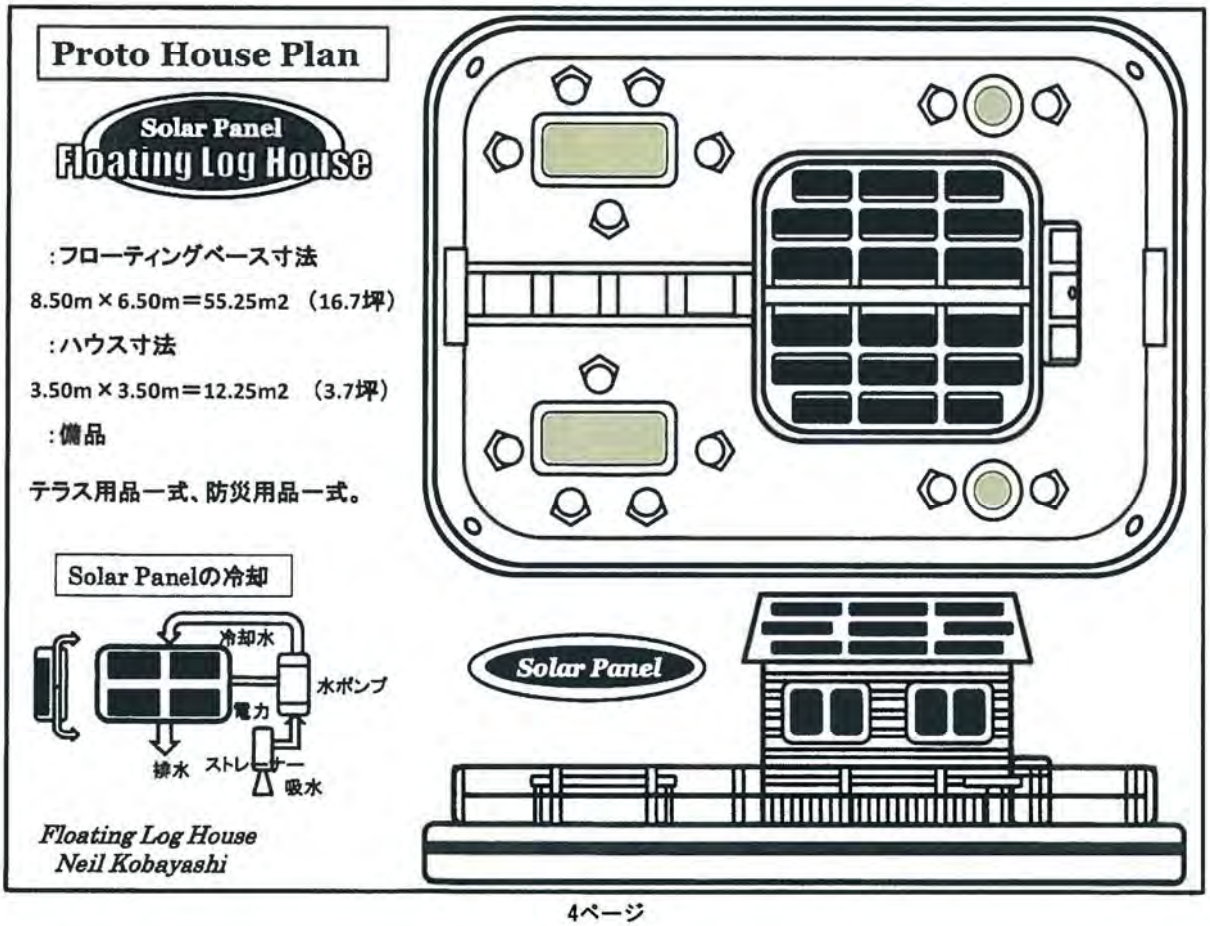


3ページ

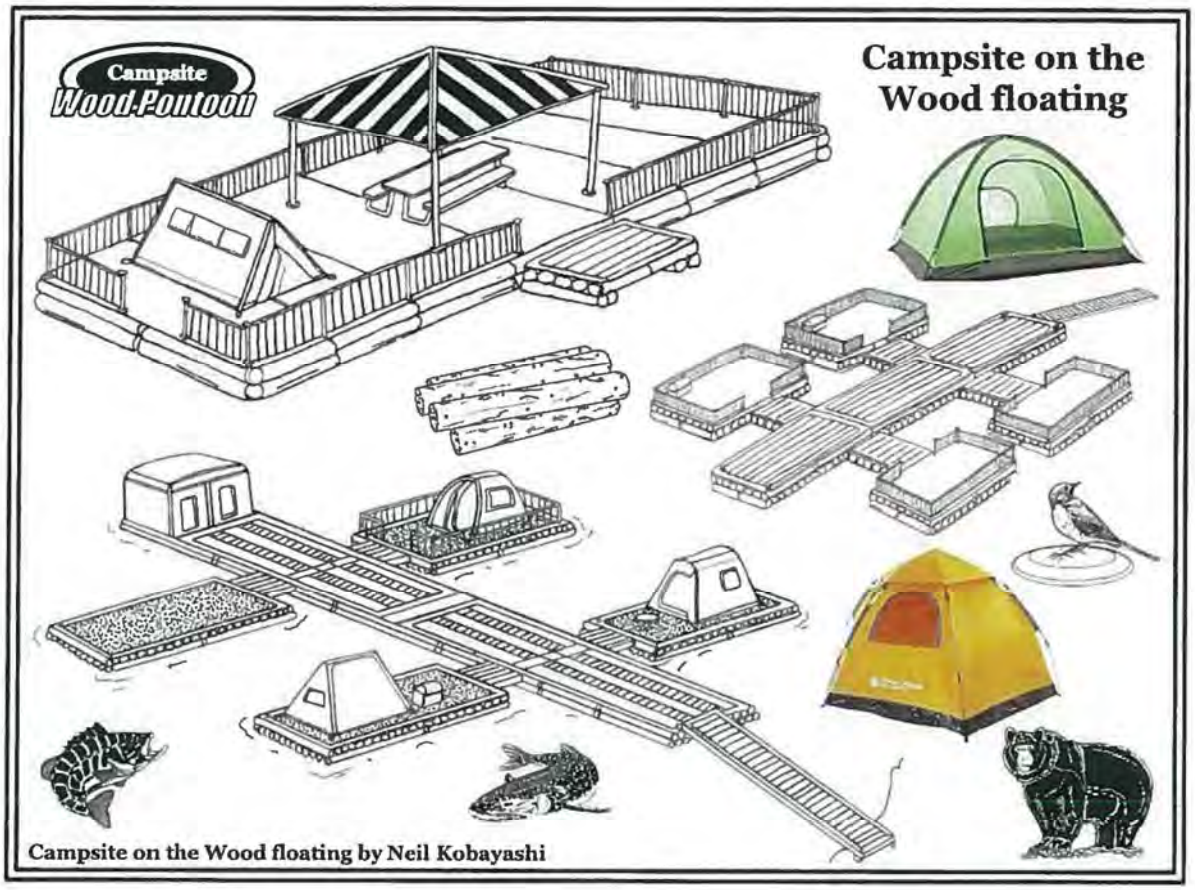
Image of Floating Log House

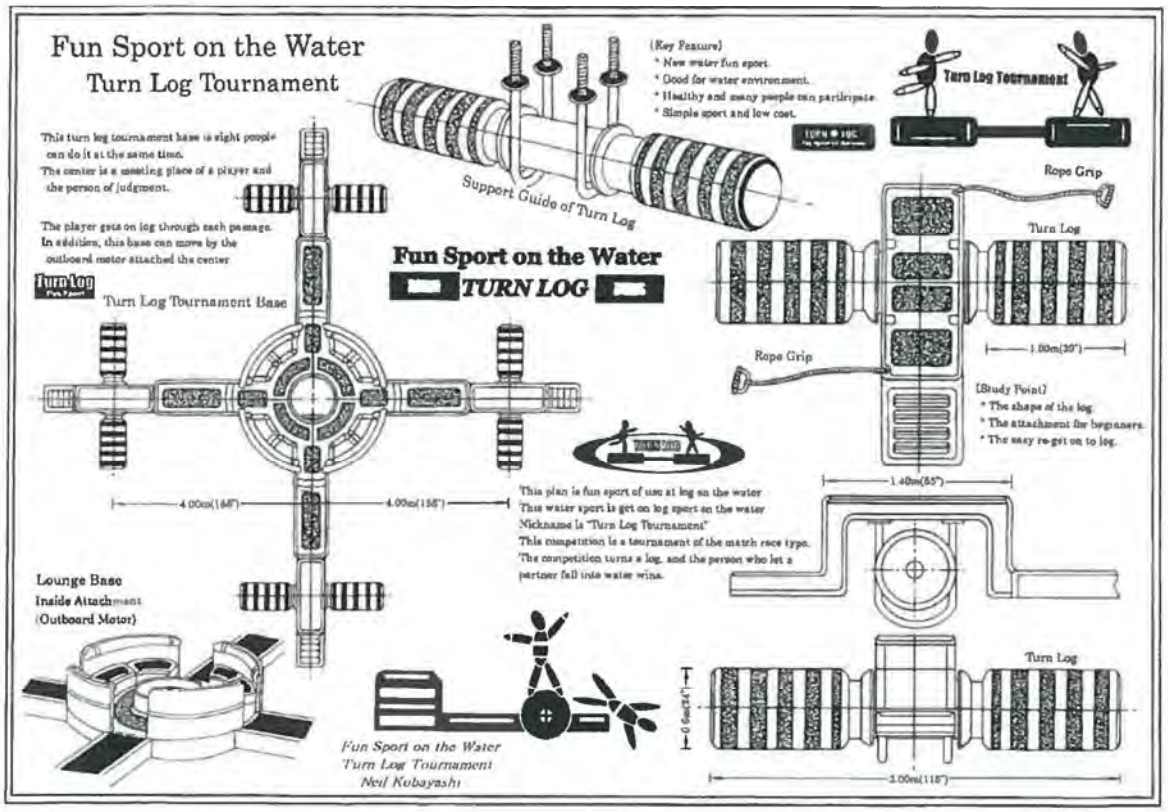


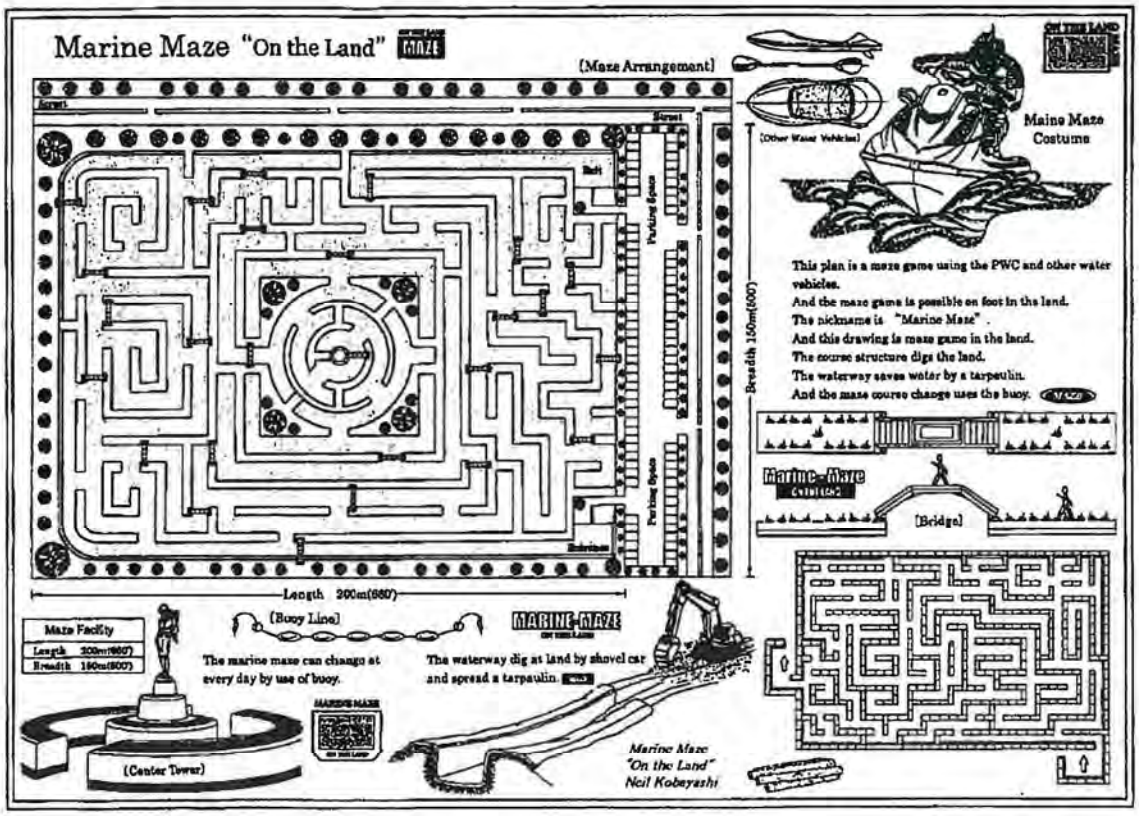
Proto House Plan



4ページ


Campsite
Wood Pontoon
Campsite on the
Wood floating
Campsite on the Wood floating by Neil Kobayashi


Fun Sport on the Water
Turn Log Tournament
This turn leg tournament base is eight people can do it at the same time.
The center is a meeting place of a player and the person of judgment.
The player gets on log through each passage.
In addition, this base can move by the outboard motor attached the center
Turn Log Tournament Base
Support Guide of Turn Log
(Key Feature)
* New water fun sport.
* Good for water environment.
* Healthy and many people can participate.
* Simple sport and low cost.
Turn Log Tournament
Rope Grip
Turn Log
Fun Sport on the Water
TURN LOG
Rope Grip
1.00m(39")
(Study Point)
* The shape of the log.
* The attachment for beginners.
* The easy re-get on to log.
4.00m(158")
4.00m(158")
1.40m(55")
This plan is fun sport of use at log on the water
This water sport is get on log sport on the water
Nickname is "Turn Log Tournament"
This competition is a tournament of the match race type.
The competition turns a log, and the person who let a partner fall into water wins.
Lounge Base
Inside Attachment
(Outboard Motor)
Turn Log
3.00m(118")
Fun Sport on the Water
Turn Log Tournament
Neil Kobayashi


Marine Maze "On the Land"
MAZE
(Maze Arrangement)
Length 200m(660')
Breadth 150m(500')
Maze Facility
Length 200m(660')
Breadth 150m(500')
(Buoy Line)
The marine maze can change at every day by use of buoy.
The waterway dig at land by shovel car and spread a tarpaulin.
(Center Tower)
Marine Maze "On the Land" Neil Kobayashi
(Other Water Vehicles)
Maine Maze Costume
This plan is a maze game using the PWC and other water vehicles.
And the maze game is possible on foot in the land.
The nickname is "Marine Maze".
And this drawing is maze game in the land.
The course structure digs the land.
The waterway saves water by a tarpaulin.
And the maze course change uses the buoy.
Marine Maze
[Bridge]

平成 28 年 12 月 16 日
13:30～
豊田森林組合

木づかいガイドライン作成資料について

1　スギの用途拡大について

2　木づかい事例について

3　田舎の先生制度について

4　その他

平成 28 年 12 月 1 日

「田舎の先生制度及び山里暮らし塾開講」準備会の開催について

NPO 法人　矢作川源流の森ねば
呼びかけ人　今村　豊

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、当 NPO では平成 26・27 年度の 2 ヵ年に渡って安城市の小学生を対象とした安城市主催の 1 泊 2 日の農家民泊「わくわくネイチャースクール」や、安城市及び豊田市等の市民を対象とした「木づかいライブ　スギダラキャラバン」と称する木工作等の木育活動を実施しており、共に一定の評価をいただいているところです。

こうした NPO 等のイベントの際に、根羽村に行けばいつもそうした木育や農家民泊、さらには様々な田舎の文化を楽しめるような受け入れ体制があるのか、といった多くの声を受けております。

そこで、今回こうした声を参考に、様々な里山の技能を持つ村民の皆様を「田舎の先生」として認識し、「山里暮らし塾」(仮称)を開講して、根羽村にある技能・文化・本物の体験等の魅力を広く伝えていきたいと思います。同時に、地域資源を活かした根羽村のファンづくりや、村民の皆様の所得増大に結びつくような新しいプロジェクトを検討したいと思います。

ついては、年末に向けご多忙のところ誠に恐縮ですが、下記のとおり準備会を開催いたしますので、有志の皆様は奮ってご参加いただきますようお願いします。

記

1　日　時　　平成 28 年 12 月 15 日(木)　午後 7 時 30 分から午後 9 時 00 分
2　場　所　　根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
3　内　容

① 木づかいライブ　スギダラキャラバンの取り組み
② 田舎の先生について
③ 山里暮らし塾について
④ その他

395-0701
根羽村森林組合内
NPO 法人
矢作川源流の森ねば
事務局　今村　豊
電話　0265-49-2120

平成 28 年 12 月 15 日

「田舎の先生制度及び山里暮らし塾」準備会について

今回の準備会の内容は、根羽村内のプレイスメイキング(場所の力づくり)及び別添の村民通知「田舎の先生制度及び山里暮らし塾」の開講にあたり、その内容等を検討していただくのが目的です。

この検討内容は最終的には、誰が、どこで、誰に、何を、どのように、いつ、いくらで、なぜ行うのか、といったマーケティングの基本的事項を作成するものです。

根羽村では村内でのイベント的な交流や、下流域へ出動する回数が比較的多いものの、地域資源や村民の技能などを活かした里山の魅力発進が遅れています。そこで、地域資源のプレイスメイキングや村民の技能の発信によって、根羽村に現代の桃源境を作りたいと考えています。

皆さんが足を運びたくなるような根羽村にするためには、どのようにすれば良いのか、一緒に検討してください。

ワークショップ

1　根羽村で取り組んでいること

2　田舎の先生と山里暮らし塾について

3　プレイスメイキング対象地について

4　これからの根羽村でのプレイスメイキングのヒント

5　誰がどこで何をやるか　そのためのプレイスメイキングとは

参考

村民　(志・田舎の先生)

⇩

どこで　(プレイスメイキング)

⇩

何をするか　(山里暮らし塾)

(ツアー・ワークショップ・体験等)

「根羽村田舎の親戚制度」及び「山里暮らし塾」の趣旨等

1　「根羽村田舎の親戚制度」の趣旨

「根羽村田舎の親戚制度」とは、現在遊休化している農地や森林を第三者に利用してもらうこと等により、所得の向上を図ろうとする根羽村民（以下、甲という）と、農地や森林を利用したいと願う都市部等の住民（以下、乙という）との間で締結する、意図的な親戚関係のことである。

親戚関係を締結することにより、乙が農地及び森林を利用する際の利用条件について明確化を図る共に、甲が利用者に対して責任を持って農林業等の指導を行い、親戚付き合いを通して利用者と交流の輪を広げ、四季に渡って根羽村の様々な素晴らしさを伝えることを目的とする。

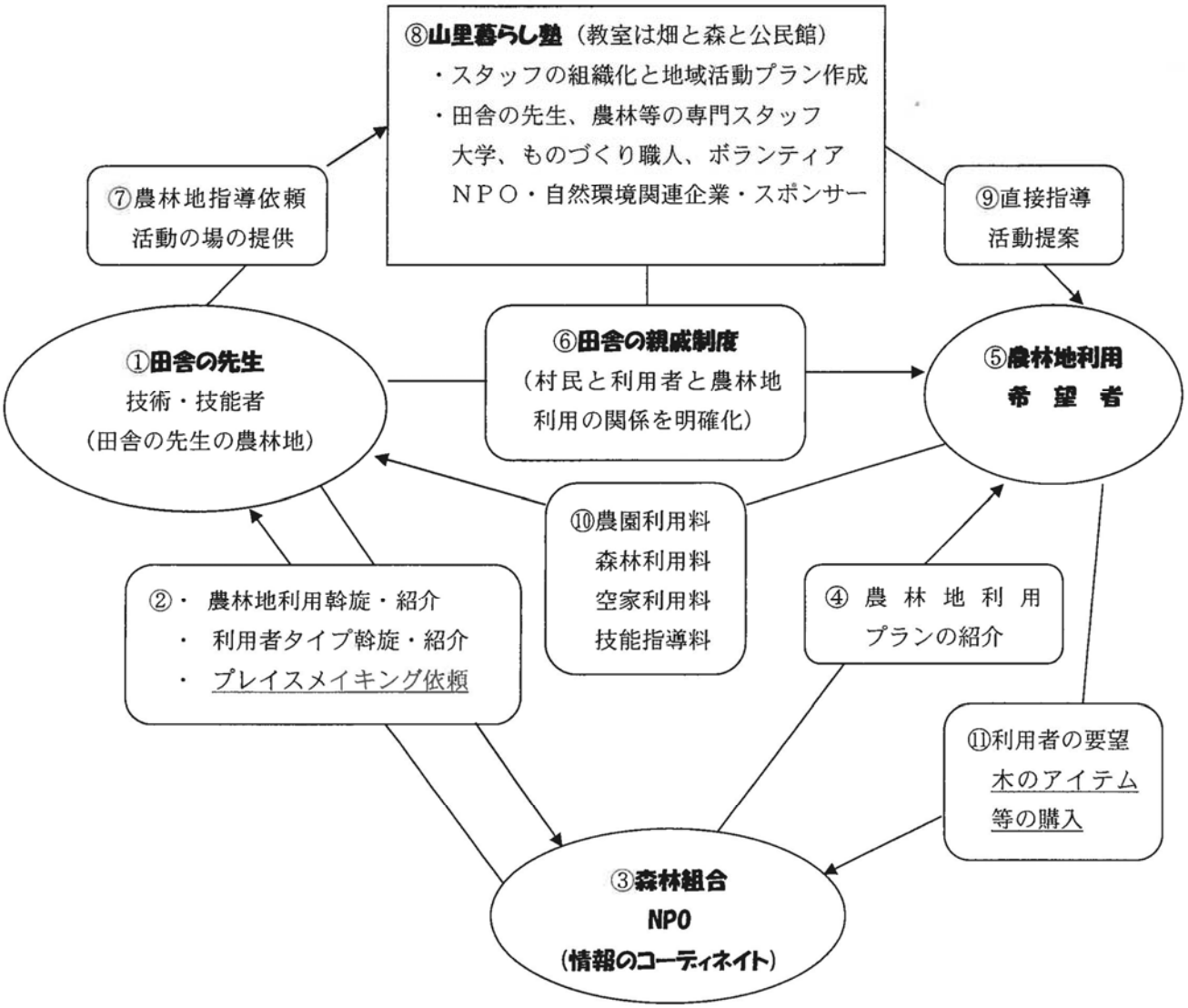
また、締結した乙は根羽村の自然生活環境や施設等をより魅力的なものにするため様々な村づくりの提案を行うものとする。

2　「山里暮らし塾」の案内

山里暮らし塾は、自然と農地や林地が豊富に存在する村内一円で、それらの楽しみ方や活用方法について、都市住民を始めとする多くの方々に広く指導することにより、農業や林業・生活を豊かに彩る様々な手仕事・根羽スギを使った木の家づくりなど、田舎にあるすべてをしっかり楽しんでいただけるように、ときどき田舎暮らしへご招待するものです。様々な体験の中で、根羽村の土や緑と光と風・新鮮な空気や青い空、とても静かな天の川、そして、たくさんの人に出会ってください。そんな出会いの中から、今までと違った新たな生活スタイルを感じていただければと思います。

講師は、現地で実践活動を行っている実践者（田舎の先生）と専門的な指導員、スタッフにより担当します。

「田舎の親戚制度」イメージ図



②農林地利用タイプ	②利用者タイプ	⑥田舎の親戚制度	⑧山里暮らし塾
農園的利用 切捨間伐材利用 森林空間利用 きのこ栽培利用 空家利用 クラフト工作利用 休憩お茶飲み雑談利用 木造建築セルフビルド指導 チェンソーアート指導 自然エネルギー土地提供 憩いの森林育成 森林浴ランニングコース設置 指導料は 3,000 円/回・日	村民 都市部住民 特定企業社員 大学生 都市部ＯＬ スポーツ関係者 芸能人 クラフトマン 養子・嫁候補者 対応人数は二人以上	・農林地と村民と利用者を明確化 ・原則的に1年契約 ・農林地利用料を明確化 ・様々な活動の拠り所（要望受け入れ） ・村民が求めている方と親戚関係 ・できれば村内施設、周辺温泉施設割引券等の特典	・村民が自分の土地で知恵を教える田舎の先生 ・専門指導を行えるスタッフを参集又は募集（村、スポンサーが支援） ・地元の農林地に関連するテーマで様々な活動を実施 ・村の付加価値を高め地域文化を再認識 ・村の人材を最大限に活用 ・高齢者から若者へ文化の受け渡し

根羽村　村民の田舎の先生確立・木づかい推進事業(案)

思想	技能分野	田舎の先生	事	場所
①地域資源を活かして生きている。 ②地域にある技能を次世代に伝えている。 ③里山はとても魅力的であることを実感させている。	農業	鈴木伸治	とうもろこし・ほおずき・絵手紙	平
		石原　邦雄	いちご	高橋
		片桐　達司	乳牛	萬野
		南木　一美	遊休農地活用・やぎ	森沢
	林業	石原　光治	山しごと・炭焼き・しいたけ	檜原
		小野　隆治	木育アイテム製作	森林組合
	漁業	片桐　増男	アマゴ養殖	檜原
		西尾　竹司	魚釣り・魚の生態	上町
	狩猟	片桐　邦雄	くくりわな、獣の生態	高橋
	ジビエ	片桐　龍男	しし鍋ジビエ料理	小戸名
	渓谷歩道・森林散策歩道	石原　明治	歩道のコース設定及び整備計画	上町
	食	田中　きく江	からすみ	上町
		原　小夜子	五平餅他	黒地
	演劇	石原　明子	喜劇・人に元気を与える	小川
	農家民泊	佐々木　秀彦	子ども体験受け入れ	黒地
	景観	小木曽　秀美	オーダーメイドのサクラ山他	老平
	地域デザイン	安藤　大輔	デザイン提案	日進市
		丹羽　健司	地域アドバイザー	岩村
	集客・観光	川島　達	集客・観光システム	名古屋市
	歴史・文化	片桐　亀十	歴史・文化	小戸名
	知の集積	信州大学 内川先生	農林業の担い手人材育成	長野県
		岐阜女子大学 吉水先生	交流人口拡大のための人材育成	岐阜県
		愛知教育大学 樋口先生	木育のための人材育成	愛知県
	地域コーディネイト	小木曽　秀美	地域資源情報・田舎の桃源郷の実践	老平
		今村　豊	地域資源情報・ボルダリング・トレールラン・田舎暮らし・山・バイク	飯田市

村内活動グループ一覧

N0	グループ名	活動人数	活動内容
1	こだま会	13	老人福祉センター清掃、卒業生プレゼント配布
2	ささゆり会	6	独居老人食事会、年賀状送付
3	緑泉会	5	敬老会でのお茶・生け花
4	天下杉	8	施設慰問等の演劇一座
5	陽だまり	10	ディサービスの手伝
6	どんこの会	3	しゃくなげの配食サービス
7	すみれ会	3	山野草クッキング
8	うめの会	10	保育所道具箱作成、手芸、かご作り
9	ふれあい講座	8	保育所の草取り、ふれあい農園作業
10	あつまれ根羽っこ	2	子供向け活動
11	根羽杉っ子餅	12	餅、おこわ加工販売
12	根羽村農産物直売組合	20	農産物直売
13	上町ボランティアグループ	10	上町花壇整備
14	あすなろ会	20	村づくりフリートーキング
15	草木染あかね	5	定期的な草木染め展示販売
16	傾聴ボランティア　和	19	高齢者の傾聴ボランティア
17	読み聞かせ同好会	15	保育園児、小学生への読み聞かせ
18	菊の会	80	お葬式精進料理づくり
19	活かまい会	8	根羽村の郷土食等の復活
20	赤坂とうもろこし直売組合	10	とうもろこし販売
21	根羽蛍の会準備会	13	蛍の里づくり
22	農家民泊の会	11	小学生を対象とした農家民泊
23	保育所ボランティア	15	詩吟、ハーモニカ、日曜大工、草取り、縫物 畑づくり、焼き芋づくり
24	名古屋根羽会	15	根羽村出身の名古屋在住者の会
25	根羽村猟友会	20	村内の獣害捕獲、ジビエ素材提供
26	根羽村漁業組合	12	根羽川の魚釣り管理
27	根羽村商工会	30	根羽村内の商工業者の振興８
28	NPO 木の駅ねばりん	30	切捨間伐材からの薪づくり・販売
29	農事組合法人ねばね	15	遊休農地等の活用

平成27年8月21日

子どもたちとつくる農林業・農林一体化事業の取り組み
～地域を変える・住まいを変える・未来の環境を変える・源流の元気～

1　子どもたちに対する学びへの願い（原点）

① 子どもたちに根羽村の農林業に取り組んで輝いている人たちを知ってほしい
② そんな彼らと農林業の活動を共に行うことで、仕事を学んでほしい
③ 仕事を真似ること＝学ぶことであり、働いている方がどんなに根羽村が好きか実感してほしい
④ このことが原体験となって、根羽村の未来を担う農林業の担い手になってほしい
⑤ この「楽しさ・生き方・根羽村の魅力」の原体験を与えられるかどうかで未来が決まる
⑥ 地元の方々の根羽村が大好き、というオーラが子どもたちに感じられなければ、子どもたちは村に戻ってこない

2　地域を変える・住まいを変える・未来の環境を変える子どもたちのワークショップ

① 子どもたちと楽しみながら、どこでどんなことをやりたいかワークショップを行う
② この根羽村の森林と農地で何がしたいか、実際に子どもたちがやりたいこと・できそうなことは何かを検討する
③ この時のプレイヤーは子どもたち、先生、住民、村、森林組合、信大、里山デザイナー・矢作川の仲間たち（下流域からの感度）である
④ この時、子どもたちが根羽村の未来のプロジェクトに関われるというプロジェクト参加型の原体験を意識したい→森づくり・木づかいガイドラインを子供が学ぶ
⑤ 見て感じ、何かをやってみようという想いや希望が湧き上がって、皆と相談して実践してみてこうなった、というプロセスで子どもたちと一緒にチャレンジしたい　例えば、一緒にとうもろこしを作ろうとか、山を歩こうとか
⑥ 子どもたちに現状認識・希望（創造）・実践・成果のスタイルの原体験を持たせたい

3　地域を変える・住まいを変える・未来の環境を変える子どもたちとつくる農林業

① 子どもたちが見たいのは、根羽村が好きで人生を楽しんでいる輝く地元の人であり、魅力的なチャレンジである。根羽村だから言える「～しようよ」、を子どもたちに言ってもらいたい
② よって、人生を楽しむ魅力的な農林業、農林業が行える桃源郷づくりにチャレンジする私たちの姿を魅せたい。
③ どんなふうにすると、地域が楽しくなるか、テーマは「地域を変える・住まいを変える・未来の環境を変える」である
④ 妄想で自由を語り共感を得る　公的資金のベクトルを源流に向け桃源郷をつくる

平成 28 年 12 月 1 日

根羽村地域資源活用ワークショップ一覧表

地区	NO	場　所 (どこで)	何をするか	いつ	誰が	誰に	なぜ	どのように	いくらで	欲しいアイテム	労働ミッション
北洞	1	ネバーランド									
	2	遊休農地									
	3	なごみ									
	4	池の平									
	5	しゃくなげ									
	6	歴史資料館									
南洞	7	森林組合									
	8	モデル住宅									
	9	グリーンハウス森沢									
	10	遊休農地									
	11	弓道場・お茶室									
	12	なめこ園									
	13	老平									
	14	梨の平									
	15	檜原研修施設									
東洞	16	旧保育所									
	17	聖霊学園施設									
	18	水源の森									
	19	茶臼山キャンプ場									
	20	矢作川の水源									
	21	茶臼山									
	22	小戸名渓谷									
	23	浅間つたの滝									
	24	浅間神社									
	25	不動の滝									
	26	つるし岩									
西洞	27	月瀬の大杉									
	28	渓流森林									

ワークショップのご案内

「木質資源による地域熱供給システムを考える」

地域に豊富に存在する木質資源を、有効に利・活用する一環として、小地域レベルの熱供給システムの在り方を根羽村を具体例として考えます。

現在、根羽村では小規模な熱ボイラーによる熱供給システムを稼働させています、今回は、薪ボイラーやチップボイラーを基本とした地域での熱供給システムはいかなるものか、また、システムを動かす上での根羽村の課題は何かを、一般参加者とともに考え、今後の方向性を展望します。

日　時　：　平成２８年１２月２１日(水)午後１時３０分から

場　所　：　根羽村　老人福祉施設「しゃくなげ」

プ　ロ　グ　ラ　ム

司会進行　信州大学農学部教授　植木達人　氏

1　自然工学博士　国際連合食糧農業機関（FAO）ローマ本部自然資源技術専門官
信州大学客員教授　青木健太郎　氏
「山村で気軽に木の温もりを」

2　長野県林業大学　　氏
「オーストリア研修から学んだバイオマス利用」（仮題）

3　根羽村熱供給システムコンサル　　氏
「根羽村の熱供給システムの計画案と取り組み状況」

4　根羽森林組合　参事　今村　豊　氏
「熱供給システムを進めるに当たっての課題」

5　総合討論　　終了４時を予定

ワークショップ終了後　根羽村長さんを囲み、懇親会を計画しています(会費　　円)、宿泊も近くのコテージで可能です(朝食付き　　円)

申し込みは別紙により
右記へ
申し込み期限１２月１６日

担当　下伊那地方事務所林務課普及係
担当者　宇佐美和夫
電話　０２６５－５３－０４２５
Ｆａｘ　０２６５－２３－３３９３
メール　usami-kazuo@pref.nagano.lg.jp